

青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画
(案) に関する地区懇談会における意見等について

目次

1 県全体に共通する考え方に対する意見	1
(1) 実施計画策定の進め方	
ア 策定プロセス.	1
イ スケジュールの見直し.	6
ウ 地区懇談会における意見等の反映.	7
エ 地区懇談会の在り方.	11
(2) 実施計画(案)全体.	13
(3) 地域活性化への影響及び地域を支える人財の育成.	14
(4) 全ての高校に共通して求められる教育環境	16
(5) 各学科の充実	17
(6) 学校規模・配置	
ア 学校規模・配置に対する考え方	18
イ 重点校・拠点校	22
ウ 地域校	23
エ 学級編制の弾力化	24
(7) 通学環境への配慮	25
(8) 魅力ある高校づくり	
ア 全国からの生徒募集の導入	26
イ その他の取組.	30
(9) その他	
ア 私立高校との関係.	32
イ 次期実施計画策定に向けた対応.	32
ウ その他.	33

2 各地区の学校規模・配置に対する意見	34
(1) 東青地区	
ア 学校規模・配置.	34
イ 統合に関する事項.	36
ウ その他.	45
(2) 西北地区	
ア 学校規模・配置.	47
イ 統合に関する事項.	51
ウ その他.	51
(3) 中南地区	
ア 学校規模・配置.	55
イ 統合に関する事項.	56
ウ その他.	56
(4) 上北地区	
ア 学校規模・配置.	56
イ 統合に関する事項.	57
ウ その他.	57
(5) 下北地区	
ア 学校規模・配置.	59
イ 統合に関する事項.	60
ウ その他.	65
(6) 三八地区	
ア 学校規模・配置.	67
イ 統合に関する事項.	67
ウ その他.	67

1 県全体に共通する考え方に対する意見

(1) 実施計画策定の進め方

ア 策定プロセス

No	区分	提出された意見等
1	下北②	白紙撤回した上で計画（案）の見直しを望む。
2	下北②	将来的な統合は致し方ないと思うが、現在の進め方では地域の理解が得られない。一度白紙撤回し議論を深めてほしい。
3	下北②	計画（案）については白紙撤回すべき。
4	下北②	計画（案）の策定過程において不透明、不適切な部分が多く感じられた。むつ市に大学が設置されるので、それを踏まえ計画を見直してほしい。
5	下北②	住民、子どもたちが望むような形にしてほしい。今回の計画（案）は白紙撤回し、やり直してほしい。
6	東青②	いきなり新聞で閉校や統合と示して、その後に地区懇談会を開催するのは卑怯である。事前に青森市にも浪岡地域にも話がない。浪岡高校に通っている生徒の心情を考慮すれば順序を間違えている。段取りが悪いため、一度仕切り直してほしい。
7	下北②	7月29日に開催されたむつ市教育委員会会議において、今回の計画（案）については策定プロセスが不透明かつ説明が不十分であり、計画（案）撤回と意見聴取の場の設定を求めるとの意見が取りまとめられている。子どもたちの未来を支える高校教育改革とするため、計画（案）の撤回を求める。
8	下北②	統合に賛成する意見がほとんどない中で、計画（案）をこのまま進めることは、地域にとっても、県教育委員会にとっても得策でないため、まず白紙撤回し、住民が直接参加する形で検討を進めていくのが適切である。知事が言う県民の理解が得られるような丁寧な対応にもつながるのではないかな。
9	パブコメ	大湊高校とむつ工業高校の統合校案及びこれまでの計画策定のプロセスについては、この地域のほとんどの方が異口同音に反対している状況にある。下北の人間はもの静かで温厚な方々が多いにもかかわらず、この案と計画の進め方に対する憤りを感じている人は多い。このような地域の理解が全く得られていない状態で、計画を進めることには断固として反対する。 高校は県が設置者であり、高校についての決定権は県にあるものと認識しているが、統合については、通学環境、地域経済、高校の選択肢の減少等、地域住民に様々な影響を及ぼすことから、もっと地元との意見調整が必要である。 計画（案）については、再考すべき。
10	パブコメ	これまで2回にわたって地区懇談会が開催されたが、県教育委員会の美辞麗句な説明、丁寧な対応には感服している。県教育委員会はこの計画（案）について、是が非でも統合の名のもと、浪岡高校閉校ありきで動き、断行する考えだという強い意志が見て取れた。 今回の地区懇談会に参加された多くの県民の皆さんも一様に同じ思いを感じたのではないだろうか。県教育委員会の従来の性急な手法ではなく、浪岡高校存続のための方策を模索するために一旦原点に立ち返り、柔軟な見直しを求める。
11	下北①	県教育委員会の答弁が「言い訳」にしか聞こえないし、当初案を押し切ろうとしているような印象しか受けなかった。大畑校舎・川内校舎の閉校、田名部高校の英語科廃止等、少子化を楯に下北をないがしろにしているように感じた。統合案は絶対反対であり、まずは白紙撤回、ゼロベースでの議論をお願いします。
12	下北②	地区意見交換会において検討された4つの学校配置シミュレーション案は納得しがたい。このたびの統合案は時期尚早で拙速であり、白紙撤回を求める。
13	下北②	これだけの反発があるにも関わらず、代替案等が提示されない。白紙撤回を求める。
14	下北②	地域の声が反映された統合案とは言えないため、もう一度、ゼロから計画を見直すべき。

No	区分	提出された意見等
15	下北②	歴史ある2校の統合案については、地域が望む子どもたちの成長の姿と、あるべき高校の姿、学校と街づくりの姿が全く見えておらず、学校の歴史や実績を軽視したものである。地域での議論や検討なくして決定すべきではない。大湊高校とむつ工業高校の統合案の撤回を求め、下北地区の子どもたちの将来のビジョンとともに、歴史ある両校の存続と未来ある教育環境の変革について、地域と合意を図ることを十分に尊重して進めるよう強く要望する。
16	パブコメ	8月2日の地区懇談会でも意見があったように、地区意見交換会の委員の意見が反映されていない。したがって、計画(案)は地域の声を明らかに無視したものであることから、大湊高校とむつ工業高校を統合する計画(案)は再考が必要である。
17	下北②	7月7日の教育委員会会議の中で、教育委員が下北地区の統合について「地区意見交換会で委員の方から、2校を統合して相乗効果が得られるか、それは疑問であるという声があるにもかかわらず、なぜ2校を統合する案を提案したのか」という質問をしている。この質問に対する事務局の答えは「工業科の生徒は、数学、理科等の専門科目を選択することができる、総合学科の生徒は工業科目を履修することができる、大きなメリットがある」というものだった。しかし、地区懇談会の説明では、「現段階では違う学科の履修は確定ではない」とのことだった。 大事な議案が決定される教育委員会会議における質問に対し、決まっていないことを例示して承認を迫ったとしか考えられない。事務局として教育委員にしっかりと説明したとは受け入れ難いので、再度議論されるべきである。
18	下北①	地区意見交換会では議論をする時間が非常に少なかったことを考慮すると、今回の第2期実施計画(案)は白紙撤回し、もう一度地域の意見を聞いて決めるべき。
19	下北①	これまでに統合案について住民と何ら議論もなかったし、地区意見交換会の意見に対するフォローもなかったと受け止めている。やはりプロセスに誤りがあったのではないか。何のための地区意見交換会だったのか、なぜ住民に意見を求めたのか、その点について疑問を抱いている。今回の計画(案)は白紙撤回し、ゼロベースで計画(案)を作り直すということも必要ではないか。
20	下北①	本計画の検討における県教育委員会のプロセスが広く県民、地域住民の意見や思いを汲みとる仕組みとなっているか疑問に思う。安易な数合わせと受け取れる計画は見直してもらいたい。
21	下北①	一度白紙撤回の上、もう一度地元の意見を聞いてから決めるべき。策定プロセスをもっとオープンにした方がよい。
22	下北①	地区懇談会という名前の下にガス抜きをし、強行するような形は絶対に許されない。市民の考えをもっと丁寧に検討し、しっかりと子どもたちのための将来像を描いてほしい。 白紙撤回という話もあったが、もう一度市民と一緒に考え、その考えを県教育委員が受けて考え、答えを出してほしい。市民が納得した形にしてほしい。
23	下北①	地元の意見をきちんと聞き、計画(案)を白紙撤回してほしい。
24	下北①	白紙に戻さなければ、今後、地域の理解など到底得られない。生かされない、形だけの意見聴取には何の意味もない。
25	下北①	今一度、ゼロベースで計画(案)の検討をしてほしい。
26	下北②	地域の代表が了解していない中で物事を進めていくことは乱暴過ぎる。地区懇談会の参加者の理解が得られたとも思えない。丁寧な説明と住民の理解を得た上で成案となるよう求める。
27	下北②	これまでのプロセスや、統合案の策定過程、地区意見交換会や地区懇談会での対応など、これまでの進め方の正当性は誰がどのように判断するのか。
28	下北②	第2期実施計画(案)に至った検討過程が説明されていないし、理解されていない。
29	下北②	地域に根ざした高校を目指しているにも関わらず、地域の声を聞いていないように感じる。
30	下北②	地域の理解が全く得られていない状態で、計画の策定を進めることには断固として反対である。

No	区分	提出された意見等
31	下北②	生徒数の減少により統合とする考え方は理解できるが、結論ありきで地域の意見はきちんと伝わっているのかと疑問を感じる。子どもたちのことを考えると、計画（案）は決して悪いものではないが、計画策定の進め方が乱暴すぎる。このことから、一度白紙撤回して下北地区を巻き込んだ形で計画策定を進めて行くべき。
32	下北②	県教育委員会に対しては、計画（案）の公表から決定までのプロセスについて、より地域の理解を得るため、学校の将来ありたい、あるべき姿を分かりやすく示しながら、現状のプロセスを見直すよう強く要望する。
33	下北②	計画策定の進め方が一方的かつずさん過ぎるため、計画（案）については、全面的に反対する。
34	下北②	7月7日の教育委員会会議では、統合（案）に関する他県の事例のみで教育委員が承認したということにプロセスの瑕疵がある。他県の先行事例について十分な検証が必要ではないか。特に学科を横断した科目履修については効果の検証が必要である。
35	下北②	計画（案）の公表の前に地域の意見を聞いてほしかった。我々に選択肢を与えてほしかった。
36	下北②	未来を担う子どもたちが希望を持てる高校教育改革をお願いしたい。現状の進め方では、子どもたちに説明すらできない。
37	パブコメ	地域との議論が不十分である。計画（案）はあくまでも案であり、地域の意向を踏まえ最終的に決定されるべきものと認識しているが、「地域の高校の統廃合」という非常に重要な案件であるにもかかわらず、策定期限の3か月前に公表されては地域住民と十分な議論がなされる訳がなく、「県民からどのような意見があろうとも原案どおり決定する」という悪意を感じる。本年10月の策定期限を撤廃してでも、地域と議論を尽くすべき。そもそも、下北地区におけるシミュレーション案は4案あったにもかかわらず、なぜ、現在の案としたのか、他の3案はどうして見送られたのか、その理由が不明確であるため、統廃合という結論ありきであるとの疑念を抱かざるを得ない。 高校を統廃合するに当たってのプロセスに不備があるため、大湊高校とむつ工業高校を統合する計画（案）に反対である。
38	下北②	経済界、産業界において、計画（案）に対する意見聴取がされていないことを確認しており、意見聴取が不足している中で作られた計画（案）は一方的と言わざるを得ない。知事からは地域に丁寧に説明するよう指示があった中で、どこが丁寧なのか。非常に残念な気持ちである。
39	下北②	我々が参加した地区意見交換会も本日の地区懇談会もアリバイづくりであり、最初から結論ありきで進んでいたということになるのではないかと。子どもを預かる優位的な地位を使い、関係者の合意形成を図るとい進め方なのではないか。
40	下北②	計画策定の進め方が粗末、乱暴である。三村知事が「丁寧に」と指示したのに、どこが丁寧なのか。
41	下北②	住民、企業を無視した早すぎる提案ではないか。各市町村教育委員会及び小・中・高校のPTA関係者にも第2期実施計画（案）を配布すべき。
42	パブコメ	プロセスが不十分。なぜ時間をかけて、手間をかけて、地域住民と対話しようとしなののか。もっとワクワクする計画が作れないのか。まるで学級減、統廃合計画のようである。これからの青森県の高校教育は尻すぼみになってしまう。何度聞いても意欲が湧かない。市町村が頑張っても高校に夢がなかったら子どもたちがかわいそうである。教育委員に説明するのと同じく住民の意見を聞いてほしい。
43	東青②	地域住民とのギャップを感じた。地域住民の意見は全体を見ない（見えない）エゴ的な部分もある。根拠もなく話している人もいる。しかし素朴な地域への愛着意識がある。県と地域住民が共に個々と全体を考える姿勢が大切である。計画の進め方に丁寧さが必要である。
44	東青②	生徒数の減少による統合はやむを得ないと思うが、前から説明すべきで、単なる数合わせに思える。
45	下北②	計画（案）に至るプロセスが不透明であるとともに、将来ビジョンが不明である。目の前または机上の数的、物質的な観点に偏り過ぎていないか。

No	区分	提出された意見等
46	下北①	地域の住民から意見を聞くことや、関係者に対して意見を求めることが全く行われず、市民の代表であるむつ市長や議会議長に対し全く打診もなく、唐突に第2期実施計画（案）を発表する進め方はいかがなものか。もう少し親切的な進め方があるのではないか。
47	下北①	進め方については、少し乱暴過ぎたのではないか。内部の意思が固まった段階、途中の段階でも良いので、地元関係団体に対しては意見を求めるべきではなかったのか。意見の聞き直しから始めるべきではないか。
48	下北①	地元の教育委員会や後援会、地域住民の方々に対して、より丁寧な説明があってしかるべきだった。十分に地域住民、また教育関係者の理解が得られているかの判断については、今後シビアに検証してほしい。
49	下北①	4つの学校配置シミュレーション案を1つに絞る前に市民、教育関係者、保護者等の意見を聞くべき。公開会議については、市民、県民に広く知らせる方法を考えるべき。
50	下北①	決定に至るプロセスをできるだけオープンにしてほしい。
51	下北①	計画（案）が示されるまでのプロセスに疑問が残る。子どもが減ることは仕方ない。メリットとデメリットを数値化して地域住民と共有するべき。
52	下北①	人口減少が問題であり、行政側としてやむを得ないというのは分かる。ただ、住民には事前に説明しなければならない。広く市民の方にも意見を求めるべきだった。
53	下北①	幅広い意見を聞いた上で計画（案）ができたことになっているが、計画（案）発表と同時に反発の声が聞こえているため、本当の意味で意見を聞いたのか検証をしてほしい。高校の統廃合は仕方のないことと思っている。
54	下北②	地区意見交換会の委員については、ほとんどが義務教育関係者をはじめとする教育関係者である。市内各方面からの意見を広く吸い上げる方策として、委員を入れ替え再度学校配置について検討してはどうか。
55	下北②	下北地区に計画の検討を任せ、それぞれの市町村教育委員会を中心に高校教育の計画を立てると良い。
56	下北②	教育委員会会議による検討だけで計画（案）を策定しても地域を納得させることは到底できない。この先はむつ市を巻き込んだ形で検討してほしい。
57	東青②	本日の参加者は、ほとんどの方が浪岡高校を存続してほしい、計画（案）は到底納得できないとの意見であるため、浪岡地域の代表者と青森市、県教育委員会の3者で、もっと時間をかけて、これから浪岡高校を存続させるためにはどうすれば良いのか議論することを提案したい。
58	西北①	高校教育改革を県教育委員会の枠組で検討するのには限界がある。知事直下の枠組で総合的に検討した方が良い。
59	東青①	知事の言うとおり、地域の声をもっと聞いてマスタープランを作るべきであり、県教育委員会は自分たちのテリトリー内の会議のみで完結すべきではない。
60	パブコメ	浪岡高校のより良い教育環境を模索するため、教育事務所、浪岡高校、浪岡中学校、PTA、市農業機関、市実業機関で構成される「高校再編プロジェクトチーム」の編成をお願いしたい。
61	パブコメ	計画（案）を変更・修正する場合には、青森西高校の生徒及び関係者を対象とした説明会を開催し、意見聴取等を行うべき。
62	東青②	浪岡高校の閉校は反対である。地区懇談会をガス抜きと考えるのはやめて、青森西高校の関係者も入れて話し合いをしたい。
63	東青②	地域の実情をもっと調査して対応すること。統合ありきの計画は反対である。
64	東青②	浪岡高校の生徒数減少への対策と継続配置のため、地域代表者（複数）と青森市と県教育委員会の3者による検討委員会を早急に設置してほしい。くれぐれも令和3年10月に実施計画を決定しないでほしい。

No	区分	提出された意見等
65	下北①	大湊高校の廃止は、川内、脇野沢地域住民の切り捨てである。今回の案は撤回してもらい、子どもの数の減少を考慮しながら、市長を含めた地元の有識者で案をまとめ、提案する方法を望む。
66	下北①	今一度、市民の意見を聞き進めてほしい。
67	下北②	第2期実施計画（案）の策定に係る一連の動向については情報が不足し、突如提案されたという唐突感がぬぐえない。地区意見交換会の委員、オブザーバーとも、教育関係者や商工会議所青年部等、“ムラ”の人たちの集まりであって、地域住民の代表が参加していないこともあり、議論が広がりを見せていない。
68	パブコメ	地区意見交換会の報告書にある「青森西高校と浪岡高校を統合する場合」、「青森北高校と浪岡高校を統合する場合」の「更に検討を要する課題等」について、それぞれの意見がどのように取り扱われたかについての議事録が公開されていない。課題の解決策を示さず、いきなり計画（案）を公表した理由は何か。
69	下北②	地区意見交換会に保護者の代表という立場で委員として参加したが、各委員の意見が計画（案）に反映されたとは考えられない。
70	下北①	地区意見交換会の委員についてはほとんどが教育関係者で、純粋に産業界から選定された委員は2名となっていることから、地域の産業構造の特性を十分考慮していると言えないのではないかと感じる。
71	下北②	むつ市民、地域住民の理解の下で次のステップへつながるよう進めてほしい。むつ市の状況を理解して進めてほしい。
72	下北②	パブリック・コメントで意見募集を行うということは、県教育委員会の中で計画（案）は了承されており、あとは、地域住民から統合に対する前向きな意見を募集するという事なのではないか。我々が「統合反対」と意見しても、計画が完成一歩手前で、形式としてパブリックコメントを募集しているだけだと感じる。
73	下北①	少子化の現実を見ずに理想論の要望が多いように感じたが、最終的に統合するにしても、丁寧な意見の擦り合わせが必要である。
74	下北②	地域住民の十分な合意形成なくして、地域に根差した、地域協働の学校づくりは困難ではないかと感じる。
75	パブコメ	地区懇談会で出た意見がどのように検討されたのかについて公開を要望する。
76	下北②	教育委員会会議を傍聴できない人のため、Youtube、ラジオなど、もっと多くの方に意見をもらえるような開催方法を検討してほしい。
77	下北②	青森県総合教育会議において、知事は「充実した教育環境の整備」と「各地域の実情への配慮」を大事にしてほしい、県民の理解が得られるような丁寧な説明をして、未来の高校生がそれぞれの人生を送っていくための支えとなる第2期実施計画にしてほしいと話されていた。しかし、この点は一つも実現されていないように思う。
78	下北②	教育界の検討だけで決めることはありえない。教育内容は教育分野だが、学校設置は地域づくりである。行政の縦割で責任のない決め方はやめてほしい。
79	パブコメ	青森県として県立高校はどうあるべきかについて、県民から納得されるものとして実施することが高校教育改革推進計画の目的ではないのか。その観点から、実際に影響がある小・中学生にも説明し、納得してもらえる資料も用意すべき。 なお、多くの県民に理解してもらえるよう、回りくどい表現を省き、平易な言葉で回答を示すことを望む。
80	中南	各小・中学校に計画（案）の概要を配布しているとのことだが、保護者も含め見ていないと思えない。学級減があるのであれば、学校に行き、中学生に分かるように説明してほしい。各地域に出向いて農業高校を減らす理由についてもっと説明してほしい。
81	パブコメ	第2期実施計画の決定に当たっては、その後の東青地区統合校に係る作業に支障をきたすことのないよう、地域のわだかまりの解消を図るべき。

No	区分	提出された意見等
82	パブコメ	浪岡高校との統合は青森西高校にとっても大きなインパクトがあるにもかかわらず、県教育委員会から青森西高校関係者に対する説明や情報提供が一切なかったことから、閉校時に対する動揺や困惑のほか、様々な疑義があるが、解消されていない状況にある。ついては、計画決定後速やかに青森西高校の生徒及び関係者を対象とした説明会を開催するなど、合意形成を図るべき。
83	パブコメ	8月2日の下北地区懇談会において、「意思決定の責任は知事にあるのか、教育長にあるのか」という質問に対し、その回答は「教育委員会は合議体だ」という的を射ないものであった。当日の地区懇談会では、地域経済への影響を懸念する声が上がった。下北地区に限らず、仮にこの先、高校の統廃合により経済を含め地域に悪影響が生じた場合、当然ながら、その責任は追及されるべき。したがって、統廃合の意思決定を行った責任が最終的に誰にあるのかを明らかにすべきであり、責任の所在が曖昧なままで意思決定が行われるべきではない。 また、地区懇談会において、事務局からは「内容は全て教育委員に報告する」と、自分たちには意思決定の権限も責任もないことを暗に主張する発言が目立ったので、教育委員全員に責任があるのか、教育委員会を代表して教育長に責任があるのか、県庁を代表して県知事に責任があるのかを、県民に対し明確にすべき。 仮に、大湊高校とむつ工業高校を統合する計画（案）が原案のとおり採択されてしまったならば、それは県教育委員会が地域の声を踏みにじったことを意味する。少なくとも県民を愚弄したその責任を誰もとらないということだけはあってはならない。
84	下北①	地域への説明をしっかりと行ってもらいたい。

イ スケジュールの見直し

No	区分	提出された意見等
85	東青②	計画（案）については、停止・撤回して、高校の在り方や学校配置を青森市と熟慮を重ねて、抜本的に見直すべき。 岩手県教育委員会では、議論が不十分ということで、高校再編計画を1年延期したと聞いており、本県においても、意見を聞くだけで10月に決定するのではなく、参加者からあまりにも性急だという意見もあることを踏まえ、是非検討期間を延長して議論し、浪岡高校を存続してほしい。
86	東青①	学校規模や配置について、高校を再編するにしても、時限を決めて標準をクリアしなければ統廃合するという努力期間を設けるべき。
87	下北①	反対意見が多かったため、もう一度立ち止まって精査してほしい。
88	下北①	どの案だとしても10月に決めるのは早すぎる。一度ゼロベースで考えるべきではないか。もう少し決定までは時間が必要なのではないか。
89	下北①	統合するにしても残すにしても、しっかりと検討する時間が必要である。
90	下北①	説明で終わらず、地域の理解を得て、納得できた段階でなければこれ以上進めるべき計画ではない。
91	下北②	策定スケジュールを見直してほしい。
92	下北②	10月に計画を決定するのは乱暴すぎる。その中で地区懇談会を開いても、結論を出すには早過ぎる。
93	下北②	結論が決まっただけの議論に思える。時間をかけて議論することを勧める。

No	区分	提出された意見等
94	パブコメ	<p>第2期実施計画は、県民の意見を聞いた上で令和3年10月に決定するとあるが、浪岡高校について、新たに教育関係者以外もメンバーに加えたチームで熟考することを要望する。そのため、スケジュールの見直しをお願いしたい。</p> <p>小さい規模でも全国に誇れる高校を目指すのも一つの方策である。県内の特色ある、自慢できるモデル校として残してもらえることを望む。まずは、浪岡中学校の生徒から選ばれる高校にするには、どうしたら良いかをもう少し時間をかけながら議論すべき。他人を思いやる心、命を大切に作る心、普通の子、優しい心、他人を感動させる心、自分を磨く精神、多様な子どもを育てるのが教育ではないのか。どうも学力優先主義に見えてならない。例えば、授業後の研究部活動を多用し、考える生徒を育てるのも一つのアイデアではないか。但し、生徒の集まる魅力ある高校への具体的意見・提案はこれからの話であって、今はまず、統合ストップを要望する。</p>
95	東青②	<p>生徒数が減少しているから統合すると言えば良い。それに対して、心が通えるような教育を子どもたちに示していくべきと考えるが、浪岡高校の閉校が必要となることを、1年あるいは3年かけてでも地域と話し合いを重ねて、どうしてもやむを得ないとなれば仕方がない。子どもたちが健やかに学力を身に付けられる環境を構築していくのが県教育委員会の役割であることを考えなければ、子どもたちが可哀想である。高校数が減少すれば行き場がなくなる生徒もいる。</p> <p>もっと真剣に、子どもたちが健やかな状態でくつろげる教育環境にすべきであり、地域も協力できると思う。これらのことを踏まえ、あと1年間、議論を重ねていく時間がほしい。</p>
96	パブコメ	計画についてより熟考してもらいたいため、現行のスケジュールの見直しをお願いしたい。
97	パブコメ	<p>浪岡高校と青森西高校との統合に反対であり、浪岡高校の存続を望む。</p> <p>岩手県遠野市の高校統合は白紙撤回、久慈市は昨年検討するとしたが更にもう一年かけて再検討することとしており、今回の件の参考になり得るものとする。性急な計画決定は厳に慎んでほしい。</p>
98	パブコメ	<p>浪岡中学校からの浪岡高校への進学者の割合ばかり指摘しているが、2学級規模で存続も危ぶまれる高校へ進学したいと思う中学生が減るのは当然であり、この状況は予想されていたにもかかわらず、長い間放置したことも要因の一つではないか。そのため、計画(案)公表後3ヶ月で決定といった乱暴な進め方ではなく、来年まで意見交換し、様々な案を出しながら考えてはどうか。</p> <p>少子化による問題で統合が必要なことは十分理解しているが、地域が一体となって良い方向へ進んでほしい。</p>

ウ 地区懇談会における意見等の反映

No	区分	提出された意見等
99	下北①	保護者の方々等の意見を丁寧に聴き取り、その取捨について分かり易く説明し、広く理解を得られる施策を作りあげてほしい。
100	下北①	むつ工業高校、大湊高校の統合については、地域住民、教育関係者の意見を丁寧に聞くべき。
101	下北②	地域の様々な立場からの意見を聞いてほしい。
102	下北②	今後、高校へ進学する児童、生徒及び保護者の意見を吸い上げ、公表してほしい。
103	下北②	地域とのコミュニケーションをしっかりとってほしい。
104	下北②	見えない所で一方的に検討を進めず、もっと地域の声をすくい上げてほしい。
105	中南	子どもたちの将来の進路に関わる実施計画は決定後もずっと残っていく。県教育委員会はその責任を感じて、実際に現場の声を聞いているのか。
106	下北①	ステークホルダーとして、地域住民をないがしろにしない教育改革を求める。
107	中南	もっと意見を聞いて、よく考えて決めてもらいたい。

No	区分	提出された意見等
108	西北①	学校、地域、OB、PTA等、もっと地域と話し合うべき。
109	下北①	大人、子どもに関わらず住民の声をしっかりと聞いてほしい。
110	下北①	市民の意見を十分に聞いてほしい。一つ一つ段階を踏んで意見を聞くべき。
111	下北①	地域住民からの意見をしっかりと聞くべきであり、不透明すぎる。
112	下北①	多くの方々からの意見を取り入れながら、前向きな高校教育改革を願う。
113	西北①	中学生の希望調査等を考えた教育改革をした方が良い。
114	東青②	未来を作っていくのは、大学生、高校生、中学生である。他の統合のケースにも共通して言える話だが、実際に中・高校生の意見を聞かずに統合するのはいかがなものかと思うので、浪岡高校への進学者が少ない原因を突き止めた上で対応を考えていくべき。大人だけの頭ごなしの判断で進めたところで、子どもたちにとって本当に価値あるものになるのかといった観点も含めて検討してほしい。
115	下北①	地域の保護者や子どもたちが、どのような学校であれば行ってみたいか、この地域の子どもたちや保護者の声が聞こえてこないと感じる。それを聞く機会がほしい。
116	下北①	現小学校6年生以下の保護者に向けてアンケートを実施してほしい。
117	下北①	子どもたちと保護者の声が聴きたい。子どもたちのことなのに、一部の大人たちだけで議論しているのがおかしい。「対話」「プロセス」「合意形成」のないやり方で「魅力ある高校」が作れると思うか。
118	下北①	下北地区の中学生に対し魅力ある校風に関するアンケートを実施することも考えられる。また、高校教育改革に関してアンケートを実施する場合には、中学生、保護者、地域住民と対象を幅広くすべきという意見もある。そのような意見への対応が、地区懇談会、パブリック・コメントだけで保証できるのかということに関しては検証し、必要であれば更に地域住民の意見を聴取しなければ、現状では時期尚早、機が熟していないと思う。
119	下北②	中学生の進路選択に関わることだが、中学校関係者の意見は聞いているのか。
120	下北②	もっと地域の声を聞く機会を作ってほしい。県教育委員会、地域とともに、子どもたちの未来について議論させてほしい。
121	パブコメ	令和10年度以降に高校へ入学する子どもを養育している浪岡地域の保護者から意見は聞いたのか。聞いていないのであれば、今後、アンケート調査等で直接意見を聞く考えはあるか。地区懇談会に出席し意見を述べたくても子育て等の理由から参加できない住民も多数いる。
122	パブコメ	計画(案)をまとめるに当たって、それぞれの地域の意見を聞いたのだろうか。新聞紙上で見るところ、どこの地域からも反対の声が上がっているのではないか。それは、地域の意見を全く聞かず、生徒数が減っている観点のみでまとめたということではないか。 確かに、生徒数が減っているのは分かるが、高校数が減るということは、中学校を卒業する子どもたちにとって選択肢が狭まることにならないか。 しかも、今回は、2つの高校を統合して新しい高校にすることだが、両校の卒業生からすれば寝耳に水で、大変ショックなことだと思う。 計画をまとめる立場の人たちが、地域や子どもたちの声などを聞いても仕方がないと考えているからこそ、今、大きな問題になっている。 新聞を読んだところ、実際に高校を統合するのは、まだ6年も7年も先とのことだが、それをなぜ、今、決めなければならないのか。青森市長やむつ市長も要望書を出すなど、かなりヒートアップしているのはもっともである。 今、急いで決めるのではなく、もう少し高校の所在する地域での話し合いを重ねたり、地元の中学生と対話したり、市町村と話したり、そういったことを重ねていくことが大事である。まだまだ時間はある。
123	下北②	地区懇談会の参加者が申し上げたいのは、地域の私たちと一緒にスクラムを組んで子どもたちのことを考えてほしいということである。
124	東青①	少子化で生徒数の減少は避けられないが、地区の意見を伺いながら再編の議論を進めてほしい。

No	区分	提出された意見等
125	東青①	地域の声をしっかりと聞いて進めてもらいたい。
126	下北①	地域の声を踏まえ、計画について、再検討をしてほしい。
127	西北①	計画（案）の撤回、見直しを求める。地区懇談会を開催しても、その場で出された意見を取り入れないのではないかと心配している。市民を馬鹿にし、民意を無視しているのではないか。県教育委員会では、高校教育は私立高校に任せるとしているのか。このままでは県立高校は次々に消滅し、県教育委員会は自分たちの首を絞めることになるのが分からないのか。この地域を支えているのは難関大学へ進んだ子どもたちではないはずである。
128	下北②	地域の方々の意見を吸い上げることは当然だが、今後の教育委員会会議において地域寄りに考えてもらえるのか疑義がある。
129	下北②	地域に丁寧に説明していると思えない。本当に地域の意見を聞こうとしているのか疑問である。
130	下北②	地域の意見を踏まえた上で、計画の策定を進めてほしい。
131	下北①	地区懇談会では多くの意見が出たが、ほとんどが反対意見だったと理解している。今後どのような形で反映されるのか。計画（案）どおりに進められて行くのではないかと危惧している。
132	西北①	過去に木造高校が1学級減となる計画の策定に当たり、様々な意見があったものの、県の提示案のまま何1つ変わらなかった。地域の要望を少しでも取り入れて、計画（案）を修正してほしい。
133	西北①	地区懇談会で出された意見を今一度しっかり考えてもらい、計画（案）に反映してほしい。
134	西北①	意見を聞くだけでなく、計画に反映させてほしい。
135	西北①	地区懇談会における貴重な意見を大事にしてほしい。
136	西北①	地域住民の声を反映しようとしめない改革の進め方には、大きな怒りを感じる。建設的でなく、場あつち的、都合合わせ、そして県の方針に逆行する教育改革は、夢を育むどころか子どもの夢を奪い、本県・本地域の人口減少を加速させるものである。市民の意見を取り入れようとしめない県教育委員会の姿勢は許されるものではない。中央の仕組みを真似しても地方は衰退するだけである。
137	下北①	市民の声を生かし、再考と丁寧な説明を求める。地区懇談会を無駄にしないでほしい。
138	下北②	地区懇談会における意見が本当に検討され、少しでも取り入れてもらえるのかが非常に不安である。地域の経済界、産業界と話をすれば地域としてまとまり、統合を進めていけると思うので、意見を聞く機会を設けてほしい。
139	下北②	子どもたちの可能性を最大限に生かし、将来に希望が持てるような高校教育改革となるよう、地域の意見を反映させることを望む。
140	中南	地区懇談会でどんな意見があったのか、農業関係者はどんな思いなのかを次の教育委員会会議で伝えてほしい。地元の人たちからも思いを伝えてきてほしいと言われてきている。郡部の少数意見もあることを分かってほしい。
141	下北②	地区懇談会における意見が取り上げられるかどうかは全く担保されていない。このまま地区懇談会がガス抜き状態で終わり、最終的に10月に成案が示されるという不安が付きまとう。
142	パフコメ	浪岡地域では、「浪岡高校の存続を求める会」が設立された。この団体は、行政のサポートを受けながら行政と一体となって活動を行っていく予定と聞いている。このことから、この団体の意見は非常に重いものであると感じており、当然、計画（案）に反映すべきと思うが、どのように考えているのか。
143	東青①	今回の地区懇談会で出された意見が今後、どのように処理されるのか疑義がある。
144	東青①	浪岡の地域の皆さんの考えをもっと反映すべき。
145	東青②	地域住民の声を大切にしてほしい。

No	区分	提出された意見等
146	パブコメ	計画（案）については、浪岡地域の意見が全く反映されていない。地域住民の意見を聞いて策定するというのであれば、現在実施されている地区懇談会やパブリックコメントでの意見を踏まえた上で、再考する必要がある。なぜなら、地区懇談会では、計画（案）に賛成の意見は皆無であったものと認識しているからである。それだけ浪岡高校が閉校になった場合の地域への影響は多大なものであるため、県教育委員会は、この地域の声は重く受け止める必要がある。
147	下北①	統合について反対する意見がたくさん出た場合、第2期実施計画（案）を白紙に戻す考えはあるのか。
148	下北①	地区懇談会で出された意見が計画に反映されるのか非常に不安である。
149	東青②	何のための地区懇談会なのか。地区懇談会で存続の意見が多数あった場合は、再検討することは可能なのか。
150	西北①	計画（案）ありきで、住民側から見ての改革になっていないような気がしてならない。地域の要望を取り入れ、出された意見を必ず生かす改革であってほしい。
151	下北②	意見を言ったとしても意見は意見であり、アリバイ作りである。
152	下北②	統合ありきで進めようとしているとしか見えない。子どもと保護者の声が聞こえず置き去りになっている。教育現場の声、経済界の声も聞かない、対話・プロセス・合意形成を無視したやり方で「魅力ある高校」が作れるのか非常に疑問である。
153	下北②	本当に地域のこと、むつ市の経済のこと、子どもの未来のことを考えているのか。地域の意見が反映されるのか。統合ありきの地区懇談会はアリバイ作りとしか思えない。説明は綺麗事しか言っておらず、白紙撤回を求める。
154	下北②	計画の策定に当たっては、最初から結論ありきということではなく、熟議を大切にしてほしい。できるだけ多くの方から意見をもらい、一つ一つの意見を大切にしてほしい。
155	下北①	既に答えが決まっていて、それに向かっているような感じを受ける。
156	下北①	最初から統合ありきの話をしている気がしてではなく、統合するための理由を一生懸命説明しているように感じた。数を減らす話から始まるのではなく、なぜ先に「人数が減っている状態でこのような形にしなければならないけれども、増やす方法を一緒に考えませんか」というような話がなかったのか。市民の声は「将来的に統合は仕方がないかもしれないが、もっと前から知りたくて、もっと考えたかった」ということである。
157	下北①	統合ありきの議論はやめてほしい。
158	下北①	統合ありきの議論はしないでほしい。
159	下北①	「統合案は良いことばかりです、もう決めました、納得して下さいよろしく申し上げます」という県教育委員会の思いが見えた。「市民の話は一応昨年度聞きましたよ、これ以上は聞く必要ないです」と聞こえた。
160	東青②	浪岡高校閉校ありきのように思われる。生徒の希望が第一であり、大人の考えだけでなく子どもの評価も知るべき。
161	東青②	統合ありきで進めているように感じた。意見を求めているが見直しを本当に考えているのか。
162	東青②	統合ありきの説明としか思えなかった。
163	東青②	計画変更の可能性がないのであれば、意見や要望を聞いても無駄である。
164	東青②	「子どものこと」を考えていない、地域の都合や感情論でしかない貧しい意見に付き合う必要はない。既に過疎であることの原因と責任は別にある。

No	区分	提出された意見等
165	パフコメ	東青地区の2回の懇談会に参加した際、浪岡地域の方々からの意見は「反対」の意見表明であり、高校に現時点、もしくは、近い将来通学する生徒、保護者の立場からの意見が見受けられないことに非常に違和感を覚えた。 学ぶ生徒の教育環境のレベルを維持し、「地域を支える人財」、「社会を牽引する人財」、「産業発展に貢献する人財」を育成するために成すべきことの議論がなく、地域に高校の存続が必要との声が多く、子どもたちの未来のための高校教育に関する意見が無いことに疑問を感じた。
166	上北	地域の力に頼るのか地域の力をつけていくのか、教育だけでなくそれぞれの市町村の考えも大きく反映するものと思うが、あまりにも市町村側の意見を取り入れ過ぎると、教育の独立性が揺らいでしまう気がする。
167	パフコメ	県教育委員会は、大きな声や大きな圧力に左右されることなく、これまでと同様に公平・中立なスタンスで、計画決定に当たるべき。

エ 地区懇談会の在り方

No	区分	提出された意見等
168	東青①	7月30日の地区懇談会後も回答を出してほしい。10月前にしっかりとした説明をしてほしい。
169	西北①	検討された内容を再度計画(案)として提示し、地域住民が納得する説明をしてもらえる場はあるのか。成案決定の前にもう一度、県教育委員会が説明しなければ、皆が納得しないだろう。
170	上北	学級減や廃校になる高校が所在する地域でも、地区懇談会を開催すべき。
171	上北	地区懇談会は平日ではなく、休日に行う方が参加者が増えると思う。
172	下北①	多くの考えを聞くためにも、地区懇談会の回数をもっと増やしてほしい。
173	東青①	今後のスケジュールについて、第2期実施計画を10月に決定する予定と資料に記載されているが、地区懇談会で出された様々な宿題に対して、10月の決定前にもう一度地区懇談会を設けて、事務局から回答してほしい。
174	中南	中南地区の中学校の先生方にも地区懇談会にぜひ参加してもらいたい。
175	下北②	地区懇談会を2回開催したことをもって、地域の意見は十分聞いたこととしないしてほしい。地区懇談会の意見を聞くと、計画(案)に納得している人はいないと思う。
176	下北②	2回の地区懇談会の開催では議論が足りないので、3回、4回と実施し説明を尽くしてほしい。
177	下北②	地区懇談会を2回実施したが、「やりました」「意見ももらいました」だけで終わらせず、アライバイ作りと言われぬよう、今後の再提案を期待する。
178	東青②	高校教育について、もっと県民へ説明する機会を持つべき。
179	西北①	今回の地区懇談会だけでなく、定期的に説明会等を行ってほしい。
180	下北①	10月の第2期実施計画の策定に当たり、今回の地区懇談会はどのような意味を持つのか。
181	下北②	統合に関して反対が起こることは普通であり、賛成という人は誰もいない。だからこそ、検討過程については丁寧に説明しなければならない。

No	区分	提出された意見等
182	下北②	「白紙撤回」の意見ばかりだが、「どうすることが子どもたちにとって良いのか」について意見がない。後ろ向きな意見ではなく、県教育委員会と共に前向きな方向に進んで行くことが大事である。第2期実施計画（案）の内容を理解できない人が多く残念である。
183	下北②	地区懇談会については、統合校に関して具体的なことが決まってから開催した方が良い。
184	東青②	子どもたちの考えがない地区懇談会であったように感じる。子どもたちが何を望んで、進路先について悩んでいるのか知らずに進んでいる。
185	東青②	地区懇談会について、もう少し対象とする人たちに興味を持ってもらえるような宣伝や広告をしてほしい。来る人が浪岡高校の卒業生が多いため思い入れが強く見えない圧力が生まれていると感じる。
186	東青①	本来、地区懇談会は、計画に対する意見収集が目的ではないかと考えるが、浪岡高校への意見のみであった。目的をしっかりと告知してほしい。
187	パブコメ	地区懇談会を開催するに当たって、「伝統があるから」、「地域づくりのため」といった意見はやめさせることはできないか。地区懇談会での意見は、「子どもたちの教育のためにはどうするのが良いか」を中心とした意見のみ発言できるようにならないのかと感じた。
188	下北②	前向きな意見が出なくて残念である。子どもたちを中心に考えてほしい。
189	下北①	地区懇談会に参加した皆さんが思いを持ち、意見を発しているため、県教育委員にも市民が思っていることを地区懇談会の場に出席して意見を聞いた上で、しっかりと第2期実施計画の判断をしてほしい。
190	パブコメ	8月2日の地区懇談会においては、話が全く噛み合っていなかった。事務局の回答は、「時間切れになるまでその場を取り繕えば良い」と言わんばかりにはぐらかしたものであった。事務局である高等学校教育改革推進室には意思決定の権限がないことは良く分かったので、決定権を有する教育委員の皆さんには、どのような意図でこの計画（案）を了承・策定したのかを、地域に対し直接語ってほしい。
191	下北①	地域の声しっかりと反映される仕組づくりをお願いしたい。教育委員の方々が地区懇談会に出席する仕組みを作してほしい。
192	下北①	地区の意見が様々あったが、県教育委員の方々にこの地域の熱量とともに伝わることを願っている。
193	下北②	白紙撤回を求めたい。再度話し合いの場を設け、その際は是非教育委員の出席を求めたい。
194	下北②	議論が噛み合わず非常に残念である。県教育委員会事務局とのやりとりだけでは先に進まないため、教育委員が地区懇談会に出席し、地元の声を聞いてほしい。10月の策定は困難だと思うため、計画（案）の白紙撤回をお願いする。
195	パブコメ	7月に県内6地区で地区懇談会を開催しているが、なぜ計画（案）を審議する教育委員が参加しないのか疑問である。恐らく、懇談会での意見は要点をまとめて活字で教育委員に配布されるものと考えているが、それだけでは意見者の思い、熱意、懇談会出席者の熱量まで表すことができないため、実際に懇談会に出席し、地域の声をしっかりと受け止めた上で、その後の計画（案）の審議をしてほしい。次期実施計画策定時の地区懇談会には、教育委員も出席すべき。
196	東青①	地区懇談会での意見については、要約したものを教育委員に見せてもこの思いや熱意は伝わらない。全文をしっかりと伝えてほしい。
197	東青②	浪岡高校の閉校に反対である。教育委員は自分の母校ではないので浪岡高校の閉校に思いはないかもしれないが、地元の強い思いを受けるべき。
198	東青②	地区懇談会に教育委員を参加させるべき。地元の思いを受けとめるべき。

(2) 実施計画(案)全体

No	区分	提出された意見等
199	下北②	様々な意見が出ているが、第2期実施計画(案)どおり進めてほしい。
200	下北①	計画(案)に賛同する。
201	三八	様々な意見や批判もあるだろうが、子どもたちが受ける教育の質の確保のためには高校教育改革はやむを得ない。
202	上北	他地区では統合の案が示されているが、教育環境の充実からするとやむを得ない。
203	三八	各市町村の事情はあるが、県教育委員会は県全体のことを考慮し、これまでどおり教育改革に取り組んでほしい。
204	中南	学級減だけがクローズアップされがちであるが、それとともに県の来々を担う人財を育成するための方向性が示され、地域として、県立学校として、それに向けての自己改革についてのヒントを得た。
205	三八	第2期実施計画は、これからの子どもたちのことを考えたものであることが分かった。この点を対外的に強く訴え、県の教育費削減のための改革だと思われぬように進めてほしい。
206	三八	第2期実施計画を実りあるものにするためには、教員一人一人が県や子どもたちの将来について危機感を持ちながら教育活動に当たることが重要である。そのための意識改革を図りつつ、取組を進めてほしい。
207	下北②	計画(案)について、現段階で納得できるものではない。
208	東青①	現実と計画とのギャップを感じる。
209	東青①	全く熟度のない計画で良いのか。
210	中南	計画(案)では良いことばかり言っているが、現実とは全く違う気がする。文章を読んでも納得できない所が多々ある。
211	パブコメ	学校を減らせば、明るい未来が待っているのか。この計画(案)は、言うまでもなく少子化が進み生徒数が減る中で、学校数・学級数をどのように削減するかという「削減計画」に他ならない。そのことは誰の目にも明らかだ。県教育委員会、地域の方々、教職員、そして生徒が作り上げてきた県立高校は、単なる教育機関、教育施設ではなく、唯一無二の歴史的・文化的存在であり、財産であり、卒業生たちにとっては心の拠り所でもある。その唯一無二の存在である県立高校が閉校になってしまうことは、青森県にとっては大きな損失であり、県民にとっては大きな悲しみに他ならない。それにもかかわらず、この計画(案)全体を貫いているのは「教育環境の充実」、「教育活動の充実」、「学習の充実」、「施設・設備の充実」、「個性や能力を伸ばす」、「特色化・魅力化」、「県全体が一丸となって」などの口当たりの良い言葉の数々による「学校を減らせば、明るい未来が待っている」というイメージだ。このことに強烈な違和感を感じる。地域の学校が無くなれば、地域の教育環境、延いては県内の教育環境は間違いなく後退する。そのことに正面から向き合わず、「学校を減らせば、明るい未来が待っている。」と喧伝する姿勢は非難されなければならない。
212	下北②	短い説明時間だったが、「数」のみを見た計画(案)だと感じた。
213	東青②	閉校ありきの能のない計画(案)である。数合わせだけのものである。
214	下北②	長期的なビジョンに立ち、子どもたちが望む将来をつかめるよう支援してほしい。
215	下北①	将来のビジョンをしっかりとった計画としてほしい。
216	西北①	計画(案)の教育ビジョン、哲学にもう少し具体性があるほしい。
217	下北②	教育内容を重視した計画を立ててほしい。
218	下北②	人生100年時代を生き抜く力を子どもたちに身に付けなければならない。それにふさわしい高校づくりをお願いしたい。

No	区分	提出された意見等
219	西北①	もっと夢のある希望の持てる計画を示してほしい。
220	西北①	高校生のことを一番に考えた教育をしてほしい。役所の都合だけの教育をしないでほしい。
221	上北	県教育委員会が目指す教育は果たして各学校(小・中・高)へ届いているのか疑問である。県教育委員会の目指す教育を浸透させてほしい。
222	下北①	何よりも子どもたちの教育環境、教育内容が後退しないような計画を立ててほしい。
223	下北①	子どもの数の減少に対応するためではなく下北や本県の子どもたちのより豊かな学びのための改革としての計画でないと地域の理解を得ることができない。この流れで認められるのであれば、行く末地域に高校教育の場がなくなってしまう不安を強く感じた。
224	西北①	教育は未来への先行投資であり地域へ還元しなければならない。教育の重要性を理解してもらい、地域の実情を加味した透明性のある改革を望む。
225	中南	地域の実情を踏まえた教育改革を期待したい。特に教育の機会均等には十分な配慮をお願いしたい。
226	中南	地域の実情を踏まえた改革案を示してほしい。
227	中南	生徒数が減少し続けるので教育環境を重視した改革の継続とともに、地域の特性を踏まえた改革に期待する。
228	西北①	少子化の影響は分かるが、子どもが増えるよう、県としてもっと動いてほしい。それとセットに教育改革をしてほしい。
229	西北①	子どもの希望、親、家庭の事情、様々なニーズに対応できるようにしてほしい。
230	下北①	行政としてだけの都合ではなく、もっと真剣に地域、青森県、日本のことを考えてほしい。
231	下北②	今回の計画(案)に関する地区懇談会を通じて、「少子化する地域の教育はどうあるべきか」と問い直す、非常に良い機会になった。全ての人が納得する案にはならないと思うが、皆で考えていけば良い。
232	下北②	地域の特色が保たれるような高校再編を望む。

(3) 地域活性化への影響及び地域を支える人財の育成

No	区分	提出された意見等
233	東青②	生徒のことばかりを考え、地域のことは考えていないように思われる。
234	東青②	浪岡高校の閉校が、浪岡駅の利用者の減少、特急つがるの通過駅、浪岡駅の無人化と負のスパイラルに陥ることにつながり、ひいては地域の衰退に直結する由々しき事態となる。
235	東青①	第2期実施計画(案)で浪岡高校の閉校が示されたが、地域のまちづくりに逆行するため、我々としては到底受け入れられない。三村県政も人口減少に伴う地域の活力衰退に対し非常に懸念していると思うが、教育環境等の整備と地域振興は一体で考えるべきだろう。学校経営の効率化を追求するといった一方的な考え方は改めてほしい。
236	西北①	木造高校が4学級から3学級になり、いずれつがる市から高校がなくなった際、市が廃れていく。つがる市が廃れば、切磋琢磨する五所川原市も活気がなくなる。木造高校に廃校への一歩を進ませるとするのは、西北地区を衰退させることに繋がることを是非分かってほしい。
237	上北	生徒数の減少により人口の少ない町村から高校がなくなり、ますます町村が衰退していくことを危惧している。町村に対する県の支援を望む。
238	上北	高校に限らず教育機関がなくなっていくと、その地区から人がいなくなっていくことにつながるのではないかとの認識をもっている。それは産婦人科がなくなるのと同様だと思っている。産んで育てる環境が整っていない地域に人は根づかないのではないか。

No	区分	提出された意見等
239	下北②	高校が減少することによる地域への影響を理解しているか。食堂、コンビニ等の周辺の店舗、さらに文具、写真屋等の出入り業者、制服、体操着などの衣料業者、PTA関係であれば卒業祝賀会や各種懇談会がなくなることによるホテル、飲食店等への影響が考えられる。高校がなくなることによって、間違いなく地域は疲弊していくこととなる。
240	パプコメ	浪岡高校は存続するべき。浪岡地域から高校をなくすと、浪岡に活気がなくなり、若い人たちも離れていき過疎化する。どんな形であれ、浪岡に高校は残すべき。
241	パプコメ	県立高校が縮小、統合された場合の地域経済や住民の意識、地域活性化に与えるマイナスの影響などを考え、ひいては青森県の経済、教育、地域の活性化にも大きな影響が出ることを考慮してほしい。
242	東青①	これまでも閉校になった高校はあるが、その高校の所在していた地域ではどういう弊害や影響が出ているのか。その地域の経済的な状況や地域の祭り、イベントなど様々なことを含めて、どういう影響があったのか分かれば良い。地域住民としては、浪岡高校が仮に閉校となった場合、県として浪岡地域ではどういう影響が出るのか考えてほしい。県教育委員会がただの数合わせで学校を統合したとしても、その後にも地域は残り、住民、そして将来を担う子どもたちもいる。これからも統合はあるのだろうが、その後、どうなるのか考えて実施すべきであり、高校が閉校となった地域がどうなったのか検証してほしい。
243	パプコメ	県教育委員会の職員は公務員であるため気にしていないと思うが、県立高校が1校閉校になることで、その地域の経済は著しく低下する。現に、西北地区では金木高校、鶴田高校、板柳高校の閉校に伴い、今まで各校に携わっていた業者は納品先を失い、廃業に追い込まれた業者もいる。高校に関連する産業は、制服、ジャージ、シューズ、教科書販売店、飲食店、治療院など多岐にわたる。是非、この機会に県商工労働部とも連携して、「閉校によって起きる地域経済への影響」を調査してほしい。 今春、開校した五所川原工科高校の制服等の納入業者は、ほぼ中央資本の業者である。業者選定にあたり閉校予定の3校に納品していた業者には声もかからず、地域には何も経済効果がなかった。 人口減、少子化で閉校や学級減を行わなければならないことは分かるが、是非、地域経済のことも考えてほしい。
244	西北①	木造高校はつがる市唯一の高校であり、つがる市全体で1学年当たり3学級だけになることは、隣接する五所川原市との地域バランスが著しく欠けることになる。この計画(案)はつがる市の歴史・文化、そして地域力、経済力を破壊しかねないという懸念を持っている。
245	下北②	本計画が成案となった場合に、地域経済に与えるマイナスの試算をお願いしたい。その上で、教育は教育、経済は経済といった形ではなく、この地域における最良の答えを共に作る作業をしてほしい。
246	下北②	高校が一つ無くなった場合の経済損失の算出は行うべきである。一方で経済振興を掲げ、一方で人口減による学校統廃合を進めることは無責任である。
247	下北②	統合により地域経済に与える影響は大きいですが、地域経済のために高校が存在するのではない。「地域の教育環境をどうしたいのか」を共に考えるのは当然のことである。
248	パプコメ	東青地区懇談会における「まちづくりと教育の両立は難しい」との県教育委員会の回答に対しては、地域が衰退すれば子どもたちの減少に歯止めがかからず、教育は成り立たなくなる。また、地方の切り捨ては青森県の崩壊につながるとの考え方が我々の意見である。なぜ市街地の高校だけが残され、地方を切り捨てるのか。子どもたちは平等に生きる権利がある。 「県の未来を切り拓く人財の育成」とあるが、言葉遊びに過ぎない。結論として、生徒数が減少傾向にある高校同士を組み合わせた数合わせは止めてもらいたい。
249	東青②	街づくりは、教育と一体でなければ進まない。よって、県教育委員会は、浪岡地域だけではなく、広範の地域から選ばれるよう浪岡高校の魅力を引き上げることが最も重要な取組のはずである。浪岡高校では生徒が減少しているが、これは県教育委員会が浪岡高校の魅力を引き出すことができなかったことの表れである。 青森市全体で考えれば、浪岡地域も青森市であり、青森西高校、青森北高校のいずれにせよ統合校を浪岡高校の校地に配置することが、地域性、街づくりの観点から有力な案である。 青森市全体で考えれば、例えば国立青森病院、浅虫病院、むつ市の大湊病院が統合して現在の国立青森病院が浪岡にあることなど、浪岡地域は利便性が高い。 よって、統合案については、地域性を考慮した上で白紙にして再度議論すべきではないか。

No	区分	提出された意見等
250	下北②	地域の未来を考えれば、人口の社会減を少なくしていかなければならない。学校がなければ、若者はいなくなり、下北地区は消滅する。人口増の具体的プランの提示・検討はないのか。子どもは地域の宝と言う。人口減少は青森県や下北地区に限らず、全国的な問題であることも理解できる。その中でいかに地域外の人材を受け入れるか検討をすることも必要と考える。現在の人口や入学者数の傾向のみを検討事項とせず、まずは考え得る全ての対策を行うべき。入学者数が少ないから、学科を減らし改編する、統合するというのはあまりにも安直で、下北地区を軽視した計画だと感じる。
251	西北①	木造高校の学級減に反対である。つがる市の人口が減っているのに木造高校が閉校に向かったら、更に人口が減るのではないかと。
252	西北①	10年後、20年後を見越していった場合に、この高校教育改革を進めていけば、西北地区は高校教育に関して貧困地域になってしまう。そういう地区に子どもたちが将来住もうと思うだろうか。愛着を感じるだろうか。ますます人口減少に拍車がかかるだろう。この地域の形が崩れたり、地域の存続にも大きな影響が出たりすると考えられる。
253	下北①	学校の設置については、教育環境はもちろんだが、人口減少が加速する世の中だからこそ、地域振興という観点からも考える必要がある。
254	下北②	行きたい高校がない、選択肢が少ない、または無いといった理由で地区外に進学すると、人口流出、人口減少につながりかねない。
255	パブコメ	少子化が進み、小・中・高校とも生徒数の確保が大変なことは十分承知している。しかし、県知事、高校が所在する市町村やその周辺の自治体の首長として、学校が一つ無くなった将来の街の絵図が描けるか。学校があるから人が集まり、文化の中心地となり、新しい街づくりができるのではないかと。これ以上、人口減少や域外への流出を防ぐべきではないか。青森県へのU・Iターンを呼びかけたとしても、街づくりは不可能となるだろう。街には若者もなく子どもも生まれなくなるだろう。そういった観点からも学校は残す必要がある。
256	下北②	高校が統合になった場合の人口減少についてシミュレーション等を行ってほしい。
257	東青②	街づくりの中核である浪岡高校を無くすことに反対である。地域の実情に合っていない計画である。
258	東青②	浪岡地域の産業や企業に従事し、民生活動や伝統行事を支えて定着している多くの住民は、浪岡高校の卒業生であり、地域の中心的な役割を担っている。高校と地域の関わりは、県教育委員会の管轄外なのか。
259	西北①	地域との関わりを通じて生徒が自身の行く末を考えられるような教育にも力を入れてほしい。
260	西北①	地域の実情・伝統・文化といった高校の役割の大きさを受け止め、地域の宝となり、未来をつなぐ高校が先細りにならないようにしてほしい。
261	下北②	我々と県教育委員会に求められているのは、手に負えなくなった人口減少という問題を、充実した教育環境の実現、整備などといった言葉でごまかすのではなく、地域とともに真剣に子どもたちのことを考え、学びをもって地域を作ることに挑戦することなのではないか。

(4) 全ての高校に共通して求められる教育環境

No	区分	提出された意見等
262	東青②	将来の地球にとって何が必要か、SDGsの17項目などを例にして生徒に考えさせる機会を作してほしい。
263	下北①	計画(案)にSDGsやらICTとあるが本質は大昔から変わらない。基礎的教育を「充実」させるべきであり、人口減が国家で言われている時代に、これらのワードは、あえて強調するべきではない。
264	下北②	各高校にスクール・ポリシーの設定が求められているが、「自分がされて嫌なことは言わない、しない」、「挨拶がしっかりでき、話ができる」、「中学校3年生の教科書をしっかりと読むことができる」といった学校づくりを目指してほしい。

No	区分	提出された意見等
265	下北②	スクール・ポリシーの策定について、「熟議力をつけることを明確に示す（明文化）」、「自分がされて嫌なことは言わない、しない、いじめのない学校づくり」、「対面での挨拶、対話ができる」ことを重視してほしい。
266	東青②	子どもたちの個性を生かし、楽しく通える高校を作してほしい。
267	パブコメ	県立高校に入学しても授業についていけず、脱落している生徒が何人いるか県教育委員会は把握しているか。
268	パブコメ	現在、生徒数に対する教職員数は学校教育の現状に適しているか。現在の教職員数では、授業に遅れている生徒に対応できない。脱落する生徒を生むような捨てる教育より、育てる教育が必要である。
269	東青①	いじめのない教育を望む。
270	東青②	人の優劣をつける教育でなく、社会に出て役立つ教育をお願いしたい。
271	東青②	生徒が相談できる、悩みを打ち明けることのできる学校を目指してほしい。

(5) 各学科の充実

No	区分	提出された意見等
272	三八	八戸高校のような重点校で難関大学を目指すように、農業高校や工業高校等においても卒業後の更なる学習の道を作り上げることも必要である。
273	下北②	時代を見据えた学科の設定をしてほしい。
274	パブコメ	生徒のニーズを踏まえ、日本・地球の将来を見据えた魅力ある学科を創設、配置すべき。中学生にとって魅力ある高校でなければ、生徒を集めることは難しい。
275	パブコメ	<p>現在、統合の対象となっている高校を普通科のまま存続しようと考えないでほしい。市部には、大学進学に特化した普通科以外配置すべきではない。東京大学をはじめ、一流大学への進学は青森市、弘前市、八戸市の普通科に任せ、郡部校には特色を持たせることに主眼を置いてほしい。</p> <p>例えば、七戸高校には、畜産（馬・牛・羊）と酪農、食品化学（女子は調理師資格を取得させる）に関する学科を設置し、三本木農業恵拓高校と差別化を図ること、六ヶ所高校は、東日本大震災以降、原子力について大学で学ぶ学生が減少しているので、原子力に関する知識・技術の修得をできるようにすること、野辺地高校は青森水産高校として水産養殖と加工に特化し、八戸水産高校と一線を画すこと、浪岡高校にはスポーツ科学科を設置し、スポーツトレーナー等の養成を図ること、三戸高校は芸術科を設置し、特に書道・絵画などの授業数を増やすことで芸術に特化して、全国からの生徒募集を導入することが考えられる。</p> <p>いずれにしても、地域の若者を流出させない方法を考えてほしい。私は長年、私立の女子校に勤務していた。新たな県立高校が開校となれば私立高校にとっては死活問題であるため、存続に向け、新しい学科・コース・部活動など様々な取組を進め、現在では女子校の共学科や中高一貫校の導入に行き着いた。この経験からも、普通科のままでは郡部の高校は不要となってしまう。県立高校を閉校にするのは簡単である。地域から若者を流出させないために、閉校ではない方法を考えてほしい。</p> <p>青森市長やむつ市長の主張は正しいと思うが、この主張に何も反応しない県議会議員や知事は青森県をどのように導くつもりなのか。</p>
276	中南	県の教育に携わる者として、何を教育したいのか。農業を支える人財を教育していくことも県教育委員会の役割だと考える。
277	中南	今後の産業教育（特に農業教育）を具体的にどう考えているのか。理想は良いが、手段として学級減以外にないのか。施設の拡充などにより、魅力を付加することが必要ではないか。
278	東青②	ドローン運転やGPSに関する教育など、今の生活に合った学校教育を期待する。

(6) 学校規模・配置

ア 学校規模・配置に対する考え方

No	区分	提出された意見等
279	東青②	地域校が少子化の弊害として定員に達していないことから、4学級など学校規模にこだわらずのびのびした学校、きめ細かな授業を目指してほしい。
280	下北②	学校規模だけで考えるのは愚策である。小規模校では科目選択ができないということは、小規模校の生徒には教育の機会を与えないということである。
281	パブコメ	<p>計画（案）によると、計画期間内で生徒数が千人少なくなること、小規模校では大規模校と異なり理科と社会で開設科目が少なくなること及び部活動の数も少なくなることなどを理由として、今回の高校再編案をまとめたとしている。</p> <p>確かに小規模校では部活動の数は少なくなるし、少子化の影響により生徒数が少なくなるのは分かるが、小規模校だから科目数が少なくなるのは納得がいかない。そこはコマ数を増やしてでもほかの学校と同じく科目を開設し、生徒数の増減によらず教育の平等性を維持・確保していくのが県教育委員会と各学校の役割であり、現在の理由での高校再編はその役割を放棄しているのではないか。</p>
282	パブコメ	<p>なぜ、学級規模、学校規模、公私割合を問題にしないのか。この計画（案）では、1学級40人という学級規模、1学年重点校6学級、基本となる学校や拠点校の4学級という学校規模の標準、私立高校の定員を問題にしていない。それは、2014年6月に発足した「青森県立高等学校将来構想検討会議」（以下「将来検討会議」）での議論に枠がはめられていたためである。将来検討会議ではこの枠の範囲で話し合いが行われ、2016年1月に「青森県立高等学校将来構想について（答申）」（以下「答申」）が発表された。その後の計画は全てこの答申を基に作られている。そのため、計画（案）でも1学級40人、学校規模の標準、私立高校の定員には触れない、という3つのタブーが維持されている。</p> <p>現在の学校規模の標準の根拠は全く示されていない。答申の冒頭部分には「生徒数が減少する中であっても、生徒が集団の中で様々な個性や価値観に触れ、互いに切磋琢磨することができる教育環境を整えるため、一定規模以上の学校を配置するとともに、高等学校に通学することが困難な地域が生じることのないよう柔軟な学校配置にも配慮がなされてきた。」（「答申」2ページ）とあるように、「将来検討会議」の委員は、競争する環境を維持するために、ある一定以上の規模が必要という根拠のない認識を持っていたようである。教育に競争は必要なのか、さらに言えば、競争で人は成長するのか、小規模校は十分な教育効果を挙げられないのか、県教育委員会や実施計画に関わった方々は是非、碩学の研究者を招いて競争と教育の関係を明らかにすべき。</p> <p>文部科学省は、今年3月に義務標準法を改正し、40年ぶりに小学校の少人数学級に踏み出した。また、青森県の高校では、一部で標準法を上回る35人学級という優れた施策を県の独自の事業として実施している。状況は変化している。学級規模や学校規模を議論せずに、生徒の減少を受けて「どの学校を潰すか」ばかりが議論されている。生徒数に応じて自動的に学校が潰されていくのであれば、これはもはや政策と呼べるものではない。</p> <p>公立高校と私立高校の比率に関して全く触れていない点に関しては、答申で「「オール青森」の視点による検討」（4ページ）、基本方針で「「オール青森」の視点により取り組みます」（3ページ）、計画（案）で「県全体が一丸となって高校生を育てる教育に取り組む」（32ページ）と謳っているが、掛け声だけになっていることが残念である。昨年4月から、私立高校の授業料が実質無償化された。中学生は公立と私立を自由に選択できる。「答申」の時と状況は変化している。</p>
283	東青②	人口減少に歯止めがかからない中で、1学年4学級以上を基本となる学校規模の標準とすることが現実離れしている。3学級以下では十分な高校教育を受けられないとすることが、本県の人口減少の実態と将来の見通しから考えると実情に合っていない。県教育委員会は、小規模校や少人数学級編制を重視する施策に転換することが今こそ求められているのではないか。ただ生徒数の減少だけで閉校にするといったやり方では先が見えていない。

No	区分	提出された意見等
284	東青②	1980年代の臨時教育審議会において、一人一人を大切にする教育のため、1学級30人編制が良いと言われており、浪岡高校においても実施できるのではないかと。北海道の例では、高校の約3割が1学年1～2学級であり、1学年20名程度で1校あたり約90名となっているが、地域キャンパス校という制度を設けて展開している。コロナ禍において、教科を担当する教員が不足しても、オンラインで授業を行う方法があるため、例えば、浪岡高校を地域キャンパス校にして、本校を青森西高校にすることで、1～2学級規模で浪岡高校を維持できる。全国的にも少子化が進んでおり、青森県のように効率性を重視し、単純に数合わせで浪岡高校を青森西高校へ統合するのではなく、地域の存続を第一に考え、存続するための教育制度を考えてほしい。
285	下北①	学校の規模(1学年4学級、1学級40人)を維持することだけ考え、生徒の教育の機会を奪わないでほしい。「生徒のニーズや地域の特性を踏まえた」といいながら、実質的には選択肢を減らすものになっている。
286	西北①	これからも少子化が進んでいく中で、学校規模の標準を見直せば学級減や統廃合がなくなると思うため、学校規模の標準の見直しを検討してほしい。
287	西北①	基本となる高校の学校規模の標準を1学年4学級としているが、このまま今のような高校教育改革を進めていくと、この地区では標準を満たす高校は1校もなくなってしまう恐れがある。地域の実情に合わせて標準を変えることはできないのか。
288	西北①	重点校6学級、基本となる学校4学級等の学校規模の標準は、人口減少が進んでいる現状に合わない。
289	西北①	学校規模の標準の抜本的見直しを要望する。
290	三八	一定の学校規模の維持を図り、教育環境の充実に努めてほしい。
291	西北①	充実した教育環境を整備するために必要な基本となる学校規模の標準は4学級とされているが、木造高校を3学級にすることで、果たして充実した教育環境を維持できるのか。
292	西北①	重点校ありきの考えを、地域によって考え直すべきではないか。
293	東青②	市部に高校が集中しているため、地域のバランスに配慮し、郡部にも残すことを考えてほしい。
294	東青②	地域に根付いている小規模校、少人数学級を大切に、高校の在り方を抜本的に検討すること。
295	パブコメ	郡部の高校については、地域産業の学科創設、特色ある進路指導、日本語教室開設、給食の提供等の、市部の高校に劣らないレベルの教育の推進や、特色ある学校づくりへの指導、支援を県教育委員会としても行ってほしい。 また、高校進学率が99%であることを知り、高校も既に「義務教育」とすべき時代であり、現在配置されている高校は基本的に存続してほしい。
296	パブコメ	第1期実施計画策定時の理念の一つに、「切磋琢磨」ということがあった。第2期実施計画においても、適切な教育環境の提供ということで、1学年4～6学級に強くこだわっているように思われる。その基底にある考えは、要するに、高校を統廃合して、1か所に生徒を集め高校の生徒数を増やして、生徒たちに「切磋琢磨」という美名のもとで競争させておけば、教員たちが大した努力をしなくても競争原理が働いて、「神の見えざる手」により、自然と良い教育ができるという錯覚に陥った考えがあるのではないかと。高校を統廃合して生徒数を増やしたからといって、良い教育ができるということではない。一人一人の生徒を大切にしたいきめ細かな教育は、高校の規模を大きくすることで、かえって困難になる。また、教員の在り方を全く問うていないのは問題である。教員が努力すれば、小規模校でも立派な教育成果を挙げている事例が多くある。

No	区分	提出された意見等
297	パブコメ	<p>これまでの高校再編計画は、地域の要望や実態を踏まえたものになっていない。この高校再編計画は、特定地域への一極集中や、閉校となった地域の切り捨て等により、地域間の格差をますます増大させており、地域がますます衰退していく原因を作っている。言うまでもなく、高校は地域の歴史、文化、産業、経済にとって、重要な位置を占める社会的な資源であるため、県教育委員会は、地域の意見や要望を十分聞き、その地域の経済、産業、文化の活性化を展望した高校教育制度を作るように努力すべき。したがって、適切な教育環境の提供という1学年4ないし6学級にこだわらず、1ないし2学級の小規模校でも存続させていくべき。地域の高校の存続を大事にした制度設計に向け、積極的に工夫すべき。その例として、北海道のものを挙げる。2011年の北海道教育大学の大学紀要における報告によると、北海道では、浪岡高校と同規模の小規模校が、全公立高校の30%を占めるとされている。このことは、北海道では、地域にある小規模校を他の中規模校や大規模校に統合したりはしていないということである。それはなぜかといえば、地域にある小規模校を閉校にしてしまえば、地域はますます過疎化が進み、産業、経済、文化が衰退し、少子化を進めていってしまうからである。つまり、地域の高校の存続の問題は、その地域の将来の問題に直結するということである。そこで、北海道では地域キャンパス校制度により、地域にある小規模校を存続させ、高校教育の充実と機会均等に努めている。その例として、カーリングで知られる常呂町にある常呂高校がある。同校は、1年生28名、2年生22名、3年生が29名だが、もちろん、校長、教頭、教職員、事務職員が配置されており、センター校は北見北斗高校である。常呂高校において教科を担当する教員が不足する場合は、センター校である北見北斗高校の教員が、インターネットを使った遠隔授業を行っているとのことである。また、担当委員会が会議を開くなど相互に話し合いを持ったり、地域キャンパス校の不足する部分を補ったりして、互いに協力し合いながら学校運営をしている。このような地域キャンパス制度により、地域の小規模校である常呂高校を存続させ、地域の衰退を防いでいる。</p> <p>これまでの青森県の高校再編計画により、地域の高校を奪われた生徒たちは、遠距離通学や下宿生活等を余儀なくされ、精神的・身体的な負担が増大し、保護者の経済的な負担も増大している。地域の小規模校を閉校にしてしまうことにより、地域の活力を削ぐことになっている。少子化の時代だからこそ、北海道の事例に学び、創意工夫により、地域の小規模校を存続させるようなシステムを作るため、県教育委員会は努力すべき。</p>
298	パブコメ	<p>県教育委員会は、浪岡高校を閉校する計画(案)を公表したが、青森県全体を見ると、野辺地高校と浪岡高校は同じ2学級規模であるとともに、お互いに駅が近くにあり、他の地区からも通えるといった同じ条件であるにもかかわらず、野辺地高校は1学級減で、浪岡高校は閉校というのは、何が違うのだろうか。説明がほしい。</p>
299	パブコメ	<p>県内にある高校は県立または私立であり、県立高校に地区外から志願者がいても特段不思議はないはずである。地区外からの志願者は、普通高校より職業高校の方が特色ある学習内容や部活動などに魅力を感じている生徒が多いはずである。そのため、職業高校を含む県立高校にだけ生徒数減少の負担を強いるのではなく、私立高校も同様に扱うべきではないだろうか。「私立高校へ通いたい生徒を支援する」という名目はあるかもしれないが、浪岡高校のパドミントン部には地区外から志願者がいるにもかかわらず統合により閉校とするといった、「通いたい県立高校をなくす」方向は理解しがたい。</p> <p>これらのことから、地区の中学校卒業予定者数だけで地区ごとの県立高校の規模を検討することは、あまり意味がないのではないのか。</p> <p>なお、多くの県民に理解してもらえよう、回りくどい表現を省き、平易な言葉で回答を示すことを望む。</p>
300	パブコメ	<p>新自由主義的な学校削減計画に未来はあるのか。この学校再編計画は簡単に言えば、「学校を自由に競争させて、負けたところから潰す。負けた側にはその結果を自己責任として受け入れさせる。結果的に財政負担を減らすことができる。」ということになる。このような手法を新自由主義(ネオリベリズム)という。「今だけ、金だけ、自分だけ」の新自由主義によって、国民は勝ち組と負け組に分断されてしまうが、新自由主義はこの分断に対して何ら解決策を持っていない。</p> <p>長く続いた政府による新自由主義的政策によって、日本の貧富の差は拡大した。地方は切り捨てられ、青森県は人口流出が止まらず、ついに125万人を割り込む状況である。青森県が「負け組」なのは誰の目にも明らかである。そのような「負け組」の青森県が、県内の郡部の学校を「負け組」として潰そうとする状況は、「弱い者がさらに弱い者を叩く」という構図だ。今後も人口流出が続く状況の中で、更に競争を強いて、際限のない高校潰しを行うつもりなのか。それとも、どこかの時点で新自由主義的な学校統廃合を改め、新しい構想を描くつもりがあるのか。県教育委員会はどのような青森県の未来を考えているのだろうか。</p>

No	区分	提出された意見等
301	東青①	第1期実施計画では、地域校のほかに9市町村の高校を閉校して、都市部に集約している。結果として、都市部以外の地域で若者や生徒の声が聞けなくなり、まちづくりに逆行する形になっている。三村知事をはじめ、県の方針では地域再生や地域活性化を掲げているが、生徒は都市部だけに集めて地域の核となる高校をなくすことは矛盾しているのではないかと。
302	東青①	生徒の高校受検における選択肢を減らさないでほしい。倍率が減っているという現状ではあるが、各々特色があり、家庭環境等の事情によっては、倍率が低い、人数が少ない高校であっても入学希望者がいることも考慮してほしい。
303	東青①	どこの地域（都市部を含む）も子どもの減少は進んでいる。県全体（郡部も含む）に高校を配置すべきであり、都市部に集中させるべきではない。
304	西北①	地域の人間が応援して子どもたちを育てている。高校が無くなるということは、地域、街、集落が無くなるのと同じである。郡部校はいらないのか。
305	上北	今後、高校改革が進むと市部にしか高校が残らなくなるのではないかと。市部にのみ高校があることが果たして妥当なのかも含めて検討してほしい。
306	上北	今後の高校をどこに置くのか再検討してほしい。現在、大規模の高校を残しても、将来子どもは増える要素がないため、小規模校を存続させた方が良いのではないかと。大きな校舎は、維持費がかかる。
307	東青①	統合ではなく学級減による対応を検討してほしい。全ての高校を統合しない方向で考えてほしい。
308	西北①	教育環境を充実させるのなら、高校を減らさないでほしい。行きたい高校が少ないから仕方なく私立高校に行く生徒もいる。つまり受けたい教育が成立してないということである。
309	西北①	本県の高校教育改革では、根本的に人口減少を前提として、高校数、学級数を減らすという対処療法的な対応を取っているが、これはもう既に限界を迎えていると感じている。
310	西北①	少人数＝閉校の発想を変えなければ高校がなくなり続ける。
311	中南	津軽地区の農業高校において、五所川原農林高校、柏木農業高校、弘前実業高校の3校で棲み分けがあった現状を知っているのか。人口減により安易に学級減とするのはおかしい。納得している高校はないだろう。もう99%諦めているが、この思いだけは伝えたい。
312	パブコメ	県内の農業高校は、「学校農業クラブ活動」を通じて研究活動の切磋琢磨、リーダーシップの涵養等を学校間の協力体制の中で半世紀以上にわたって行ってきた。私が所属していた当時もそうだったが、輪番制で研究・発表・競技や研修会等の運営を担当する事務局は元より、他校との競い合いや協力により好循環が生まれており、どの高校も拠点校としての役割を担うことのできる資質を有している。しかし、学校規模を縮小させると物理的にその役割を担うことができなくなる恐れがあるため、農業高校の学級減を再考してほしい。 なお、多くの県民に理解してもらえよう、回りくどい表現を省き、平易な言葉で回答を示すことを望む。
313	パブコメ	柏木農業高校と五所川原農林高校を共に3学級とする計画（案）だが、農業高校の学校規模縮小ありきの案でとても納得いくものではない。 10年、20年先の農業者を育てる為にも農業高校の学級減には反対である。青森県の教育を担っているのは県教育委員会であり、案の再考を提言する。
314	中南	農業関係者として、津軽地区から農業高校をなくしていくことに大反対である。
315	中南	職業高校の学校配置に関して再度検討してほしい。県教育委員会にとっての教育が、農業も、水産も、商業も、工業も、普通高校も、全部含めたものであってほしい。
316	パブコメ	県立の商業高校や工業高校における入学者数は募集人員を満たしているか。
317	西北①	直近5年程度の定員充足率及び一次進路志望倍率等の情報を示した上で学級減を検討してほしい。

No	区分	提出された意見等
318	東青①	I C Tの活用により教育活動の充実を図るのであれば、数合わせの統廃合は特に急ぐ必要はない。重点校を設置するのであれば特にそのように考える。
319	下北①	これからの教育を作っていくためには、従来の形にはめた学科編成、統合ではなく、教育の目標や内容、具体的な方策などの変革が必要である。
320	中南	切磋琢磨のために高校入試の倍率を高めた場合、志望する高校に入れない中学生が必ず出てしまい、それによる悪影響が生じることに懸念を持っている。ぎりぎり高校に入れるか入れないかという生徒まで競争させることに何の意味があるのか。
321	パブコメ	<p>学区を再び設定して学校間格差を是正すべき。一般的に、欧米の高校には学区があり、学区内の生徒は学区内の高校に行くことになる。そのため、どこの高校に行っても同質の教育が保障される。日本でも新制高校発足当初は、学区制、男女共学制及び総合制を3つの原則としていた（文部科学省HP「学制百年史」）。青森県においても、2004年度までは6学区に分かれていたが、2005年度以降は学区が撤廃された。青森県立高等学校将来構想検討会議答申で「本県においては、居住する地域によって制限されることなく自由に高等学校を選択できるよう通学区域を県下一円としており、将来の進路達成を目指し、特色ある教育を受けるため、近隣の高等学校ではなく、遠方の高等学校を選択して進学する生徒が存在している。」（14ページ）と説明されている。しかし、高校には定員があるため、誰もが「自由」に高校を選べるわけではない。ここに述べられている「自由」とは、強い者にとっての「自由」であり、弱い者（テストで高い点数を取れない生徒、経済的に困難な生徒、障害がある生徒、困難な家庭事情を抱えている生徒など）はそれ以外の、多くの場合は郡部の小規模校や私立高校に行くことになる。</p> <p>学区が撤廃され、全ての高校が特色化されたため、スクールイメージのようなものが固定化されてしまっている。さらに偏差値によって学校の序列が細分化されている。その結果、スクールイメージと序列でみじん切りにされた高校を、中学生が「自由」に選択し、ほとんど全ての生徒が地元和学校ではなく、遠方の学校に多くの犠牲を払いながら通学するという事態になっている。学区制を復活させ、高校間の格差を是正し、誰もが地元の高校に徒歩や自転車で通学できるような均質な高校を構想すべきである。</p>

イ 重点校・拠点校

No	区分	提出された意見等
322	上北	重点校、拠点校の枠組みは本当に必要なのか。
323	パブコメ	<p>普通高校は「地区」の重点校、職業高校は「県内」の拠点校という考え方は本当に必要なのか。また、普通高校と職業高校の位置付けに偏重を感じる。学校規模の標準で重点校は1学年6学級、拠点校は1学年4学科と数に偏りがあるのは、職業高校が県内の産業に寄与していないと判断しているからなのか。</p> <p>なお、多くの県民に理解してもらえよう、回りくどい表現を省き、平易な言葉で回答を示すことを望む。</p>
324	上北	重点校や拠点校ではない高校の卒業生が青森県の経済を回していると思う。重点校や拠点校だけでは、労働力の層が偏ると考える。
325	上北	重点校が重視されて、他校との交流や連携について推進できるか不安である。また、教員の指導力や生徒の学力差が大きくなるような気がする。
326	上北	普通高校の職業教育について、拠点校との交流を考えてほしい。
327	上北	重点校・拠点校に求められる役割を果たすための予算確保はあるのか。

ウ 地域校

No	区分	提出された意見等
328	西北①	地域校について、計画（案）では、基本方針に定める基準等は第1期実施計画のままとなっており、募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合には、募集停止に向けて当該高校の所在する市町村等と協議することとなっているが、かなりハードルの高い基準ではないか。その基準を特例的、弾力的に考えてもらうことを要望する。
329	西北①	地域校の基準の見直しと柔軟な対応をお願いしたい。地域校の活性化に向け、地域校活性化協議会を立ち上げ、地域と一緒に活性化を図っていくためには時間がほしい。活性化協議会が立ち上がるとしても、1年半程度の期間で活性化を図り、入学者数を増やすのは非常に苦しい。また、全国からの生徒募集の候補校として地域校が対象となるが、1年半で魅力ある高校を作り、他県から人を呼び込めるような高校にするのは非常に難しいため、もう少し時間がほしい。
330	パブコメ	<p>生徒の教育を受ける権利は「地域校」で保障されるのか。新たに鱒ヶ沢、大間、三戸、六ヶ所の4校が新たに「地域校」に指定された。これらの学校はいずれも、「募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生じることとなる高校」のことである。計画（案）では、「2学級規模の地域校については、入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とします。1学級規模の地域校については、募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満（20人未満）となった場合には、募集停止等に向けて、当該高校の所在する市町村等と協議します。」（25ページ）と将来的には閉校にする方向が示されている。</p> <p>憲法26条では「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。」と謳っている。教育を受ける権利にはいうまでもなく前提条件はない。全ての子どもたちが、等しく後期中等教育を受ける権利を持っている。もし、高校が無くなれば、「高校への通学が困難な地域」の生徒は高校に行けなくなる。なぜ、入学者数が20人未満の状態が2年続いたらその地域の生徒の教育を受ける権利を奪うことができるのか理解できない。また、いよいよという場合は「市町村等と協議」と言っているが、それは結局、「学校を残したかったら市町村は財政負担をしろ」ということなのか。教育を受ける権利の最後の防波堤は市町村なのか。学校が無くなることで通学できない生徒が出てくる場合に、財政と生徒の権利を天秤にかけて、迷わず財政を取るその姿勢は批判されなければならない。生徒を大切にするのであれば、当然、最後の一人まで教育を受ける権利を保障すべきだ。</p>
331	上北	地域校の枠組みは本当に必要なのか。
332	下北①	統合の検討よりも地域校を見直すことが先である。教育の機会均等を謳っているが効率が悪い。無駄な税金を使って良いのか。
333	下北②	4つの学校配置シミュレーション案の全てに重点校・地域校があり、田名部高校の重点校、大間高校の地域校がありきになっている。地域校はデータに基づかない、「こうなってほしい」という願望に過ぎない。教育委員会会議の議事録を見たが、県教育委員会が地域校にどう指導をするのか、将来にわたって地域校が存続できるのか等、深い意見を出しているように思えない。
334	東青②	<p>浪岡地域は農業をはじめ、バドミントン部の活躍で全国から17名の生徒が浪岡高校に入学しており、全国から生徒を集めることができる地域である。青森地域には県立高校や私立高校が多数あり、中南津軽の交通の要衝である浪岡高校を地域校として配置することに何ら不思議はない。</p> <p>浪岡高校について、青森市長に強い思いで協力してもらった上で存続のために青森市と協議できないか。</p>
335	東青②	浪岡高校を東青地区の地域校とし、全国からの生徒募集を行った上で存続してほしい。
336	上北	野辺地高校は1学級規模にするが、地域校として位置付けることになるのか。

工 学級編制の弾力化

No	区分	提出された意見等
337	西北①	学校配置において、学級減の一択ではなく、35人学級を全ての普通科や総合学科にも適用することを検討してほしい。
338	西北①	今般の高校教育改革は、生徒数が減少している高校は統合するという、生徒数の減少だけを根拠や判断基準としている。小・中学校では35人学級編制を目前にしているのに、40人学級編制とは時代錯誤ではないか。40人学級編制は教育の本質である人づくり、人間教育の軌道から大きく逸脱しているのではないか。
339	西北①	1学級40人から35人に学級編制を緩和してほしい。
340	西北①	充実した教育環境を作るために全ての高校で35人学級編制を進めてほしい。
341	西北①	学級減だけでなく、1学級の人数を見直すことを考えてほしい。
342	西北①	35人学級編制を拡充してほしい。
343	西北①	生徒数が減るから、定員に満たないから学級減にするということは納得できない。1学級30～35人編制にして、学級減をするべきではない。
344	西北①	学級数減よりも1学級の定員を35人に減らした方が良い。
345	西北①	学級減だけでなく、1学級の定員を減らしてほしい。
346	西北①	青森県独自にでも、35人学級編制の実現に向けて取り組んでほしい。
347	西北①	1学級30～35人編制に取り組んでほしい。
348	西北①	35人学級編制を検討してほしい。
349	中南	普通科における1学級当たりの人数について40人を前提に議論が進んでいるが、35人や30人にしてほしい。理由としては、教室が狭いことが挙げられる。小学校では国の補助により、少人数学級編制を導入されており、県の独自予算により35人学級編制を中学校、高校にも広げてほしい。
350	中南	1学級の生徒数を30人、35人にできるよう最大限努力してほしい。
351	上北	1学級の人数が少なくなっても学級数を維持できるのであれば35人学級や30人学級で学級数、学校数の検討を進めても良いのではと感じた。
352	東青②	今の計画では2035年には、重点校と拠点校の一部しか残らないのではないか。そのため、1学級40人でなく、30～35人とすることできめ細かな指導ができるのではないか。
353	下北②	全国で35人学級編制を実現している高校があるのに、なぜ本県では検討できないのか。教員数の減に対しても、様々な取組で対応可能なはずであり柔軟な対応を望む。
354	パブコメ	「志願者数が減ったから学級数減、統廃合ありき」ではなく、1学級あたりの定員40人を見直し、35人も検討すべき。
355	西北①	西北地区内で高校を選べると、通学面など本人も親も楽である。学級にこだわるなら40人×5学級でなく35人×5学級、35人×4学級でも、高校は存続できるのではないか。
356	西北①	五所川原高校や木造高校等の学級数は減らさず、1学級の定員を減らして、進学率が増えるような手立てを望む。
357	西北①	五所川原高校も40人学級ではなく、30人や35人学級にして、もっと勉強のレベルを上げるなど、五所川原ルールを作してほしい。1学級の生徒数を減らして先生が目が届く環境の中で、学力向上を図り優秀な生徒を輩出するシステムにしてほしい。

No	区分	提出された意見等
358	西北①	今まで五所川原高校に入学するためには高校受検の得点が400点では無理だと言われていたが、今では300点取れば入学でき、中には200点台でも入学したという話も聞こえてくる。それだけ質の悪い重点校を県教育委員会は作ろうとしている。五所川原高校を35人学級編制とし、進学に特化した魅力ある高校にしてほしい。学級減よりも35人学級編制とすべきであり、それが国の制度で難しいのであれば、青森モデルとして独自に整備していけば良いのでないか。
359	西北①	1学級35人編制にして木造高校の4学級を維持してほしい。
360	三八	中学校と同様に、1学級あたりの生徒数を35人に削減すれば学校規模を縮小せずに済むと思うため、文部科学省への強い要望をお願いしたい。
361	東青①	郡部（旧町村）に高校を残すことで、地域の活性化・再生につながる。少人数規模の学習環境の整備も検討してほしい。

(7) 通学環境への配慮

No	区分	提出された意見等
362	下北①	通学費の支援により学ぶ権利を保証してほしい。
363	下北②	通学環境への配慮として、奨学金返還免除制度の創設という進歩が見られていることについては、十分評価をする。今後も通学環境については、十分に子どもたちや保護者に留意した形で進めなければ、計画（案）についてはなかなか理解されない。
364	下北②	通学費や寮に係る費用などへのフォローは、どうなっているのか心配している。県育英奨学会の通学費等返還免除制度の説明があったが、奨学生となっていることが前提であり、かなり限定的で支援としては不十分である。
365	下北①	通学が困難となる生徒のために、県として出来る限りの支援をしてほしい。
366	三八	県教育委員会と市町村教育委員会で生徒の通学を支える方策を進めていきたい。
367	三八	第1期実施計画で高校閉校が決まった地域である田子町、五戸町、新郷村の子どもたちへの通学支援を県教育委員会として真剣に考え、通学で利用する公共交通機関を維持・拡充させるため、町村への財政支援を県教育委員会から知事部局へ強く要望してほしい。
368	パプコメ	通学費の負担など、経済的な理由から地元の浪岡高校への進学を選択している生徒も多数いる。浪岡高校が青森西高校へ統合された場合、これらの負担が重くのしかかる。この負担に対する支援策は考えているか。
369	パプコメ	浪岡高校は決して偏差値の高い高校ではないが、同校にしか入学できないような生徒、家庭の事情で浪岡高校にしか入学できない生徒の受け皿として必要な高校だと思っている。浪岡高校が無くなれば、そういった生徒は電車代をかけて通学することになり、経済的に厳しい家庭の負担にもなる。そういった生徒のために通学バスなど経済的な支援が必要になると思うが、その点についてはどうなるのか。
370	東青②	浪岡地域の細野地区からは、青森西高校への公共交通機関もない。通学する場合は電車通学となるが、電車の通学費程度であっても経済的に苦しい世帯もある。中学校までは義務教育だが、今は高卒者が多いため、高校進学に影響が生じないよう、できれば統合せずに浪岡高校をこのまま存続してほしい。
371	東青②	浪岡高校が閉校となれば、浪岡細野地区から、青森西高校への通学は困難であり、高校へ通えなくなる。

No	区分	提出された意見等
372	パブコメ	浪岡高校を青森西高校に統合してしまうと、中南地区、旧浪岡町、藤崎町、黒石市、田舎館村等の今まで浪岡高校に通学できていた地域の生徒たちは、通学に多大な時間と労力、通学費がかかるようになり進学を断念せざるを得なくなり、就学機会を奪うことになる。このことは、教育基本法の等しく教育を受ける権利を保障すること、教育の機会均等の原則にも、抵触してくる問題でもある。
373	下北①	郡部から高校が減り、都市部に集中している。市内の高校へ通学する生徒の負担をよく考えてほしい。
374	西北①	青森県の地理的問題に伴う通学環境について、ワークライフバランスが保てるように配慮してほしい。
375	上北	通学できる範囲にあった高校が無くなることで生活が変わってしまう。近所の高校が統廃合となった場合、住んでいる人たちには何の罪もないが経済的な負担が増えることになる。例えば、保護者が下宿費等の負担をしなくてもいいように、公的に全て負担することが生活環境の確保と考える。

(8) 魅力ある高校づくり

ア 全国からの生徒募集の導入

No	区分	提出された意見等
376	パブコメ	全国からの生徒募集に反対する。 理由としては、外国から高校生を受け入れるのであれば、少子化の中で高校間での生徒の奪い合いでしかなく、各都道府県教育委員会の広告宣伝費が増大し、教員人件費を含む教育費の削減につながり、長期的には教育の質の低下を招くためである。 そのため、全国からの生徒募集に係る記載内容に「導入したのち、第2期実施計画満了の令和9年度に、それまでに投入された県外・全国への広告宣伝費（人件費・委託費含む）と、県外入学者による高校生増加に伴う経済効果（ただし、入学金・授業料・高校生の生活費等による直接的な経済効果を除く）を分析し、継続するかどうかの検討を行います。」と追加してほしい。
377	下北②	現在の候補校である大間高校等には、全国からの生徒募集を導入したとしても誰も来ない、あり得ない案が導き出されており、基準を見直すべき。「この高校でこういう取組をしたら全国から人が集まるだろう」という案が先にあり、基準を後で設定する感覚で検討してほしい。
378	下北②	大間高校は県外からの進学希望者を増やすことを目指すこととしているが、大湊高校とむつ工業高校も、統合より先に「市外、県外」から入学したいと思えるアピール、仕組み作りを行ってほしい。
379	パブコメ	「全国からの生徒募集」は生徒不足対策の切り札なのか。青森県立高等学校将来構想検討会議答申で提起され、基本方針の中で「検討します」とされていた「全国からの生徒募集」については、計画（案）では「実施する」と明確に打ち出されている。導入の候補校は①地域校、②「過去5年間の定員補充率の平均が90%以下の高校」（31ページ）だということ。つまり、「全国からの生徒募集」は生徒数不足対策の切り札のようである。導入に当たっては、「市町村からの申し出」、「市町村等の支援」、「市町村と協議」などとされていることから、あくまでも市町村がイニシアチブを持ち、県は支援する形をとることを考えているようだ。決定に当たっては他県の事例を研究したようであるが、第2回地区意見交換会の資料を見ると、県外からの入学者数は東北のほとんどの実施校で1桁である。この少数の生徒のために、例えば岩手県の葛巻高校では、葛巻町が「くずまき山村留学制度」として寮や学習塾などを用意している。実施に当たっては、市町村や当該高校の大きな負担があると思われる。新聞報道によると、いくつかの町村の首長は前向きなコメントを発表している一方で、六ヶ所村や野辺地町の首長は財政負担を理由に慎重なコメントを発表している（東奥日報、2021年7月8日）。生徒数不足対策の切り札が、市町村に丸投げというのはあまりにも無責任ではないか。
380	上北	高校に魅力を感じなければ、他県からわざわざ青森県内の高校を選択しないのではないのか。地域校や定員割れしている高校へ全国募集を導入しても生徒確保は難しい。
381	西北①	全国募集について、市町村からの支援を前提としなければならないのか。県教育委員会としてのビジョンはないのか。

No	区分	提出された意見等
382	上北	県外生徒の生活環境の確保等の支援は、自治体にとってハードルが高い。
383	上北	全国募集の導入には、県外生徒が住む場所が必要となる。寮を設置するとなると、関係町村では予算的な面で慎重な対応が必要となり、ハードルが高過ぎるのではないかと。
384	上北	小さな旅館が下宿として高校生を受け入れる可能性はあるかもしれないが、県による予算的措置がなければ全国募集の実現は難しいのではないかと。
385	下北②	全国からの生徒募集を念頭に、高校の魅力化プロジェクトに取り組むことができないか。
386	下北①	県は人口減少対策の1つとして、大都市圏からの地方移住を促進しようとしているが、移住希望者が重視しているのは子どもの教育環境である。規模だけで考えられた学校ならわざわざ青森県に移住する気にはならない。1学級の人数が20～30人で科目選択を確保できていれば、他県にはない強みになる。
387	中南	もっと県教育委員会の教育に対する真剣さを見せてほしい。例えば、全国募集をすぐに導入しても良いのではないかと。現在の案では、市町村からの申し出により決定することとされているが、逆に県から市町村に全国募集を導入し入学者を集めるよう働きかけるなどの行動があっても良いのではないかと。
388	東青①	高校が小規模化した原因は何かを考え、対策を考えるべきであり、他県から入学者を受け入れるなどの工夫により、入学者の減少に対応する必要がある。
389	上北	全国募集の候補校について、全国へ魅力を発信するには、定員割れしてからでは遅いのではないかと。
390	パブコメ	小規模校は大規模校と比べて活気が乏しい傾向にあるとともに、教員の配置も少ない。そのため、地域校や定員に満たない小規模校に全国募集を導入することは難しく、導入を促すのは無理があるのではないかと。全国募集を導入するならば、全ての高校で取り組むべきである。仮に、このまま計画を進めた場合、地域校や小規模校を閉校に向かわせるための既成事実となるのではないかと懸念がある。 なお、多くの県民に理解してもらえよう、回りくどい表現を省き、平易な言葉で回答を示すことを望む。
391	下北①	全国からの生徒募集については、候補校の枠を広げるべき。
392	中南	小規模校において全国募集を導入したとして、果たして本当に生徒は集まるのか。むしろ、全ての県立高校で導入した方が青森県にもっと活力が生まれるのではないかと。
393	上北	全国募集において、県内生徒の入試環境に配慮することのことだが、配慮は必要なのか。青森県の人口減少を考えると、覚悟を決めて全国募集を進める必要があるのではないかと。
394	上北	青森県の人口減少の状況を考えると、全国から募集することに躊躇すべきではない。また、県外受検生と県内生徒と、同等に対処し、県内生徒を優遇することも必要がないのではないかと。
395	下北②	「半島留学」に取り組むことが考えられないか。下北地区には、下北ジオパークという特色のある地質、地形があり、大湊高校の目の前には砂嘴（さし）がある。大湊高校に地学に特化した学科を設置することなども考えられる。青森県は全体的に人口が減少することから、特色ある高校経営を考え、全国からの生徒募集を導入すべき。
396	東青①	全国からの生徒募集については、地域校や定員充足率が低い高校ではなく、人気のある定員充足率が高い高校で実施すべき。地域校や定員割れが生じている高校に県外から目標を持った生徒は来ない。
397	上北	全国募集の候補校は「定員割れしている高校」ということだが、特色がなければ全国から生徒は来ないだろう。他の理由もあると思うが、特色や魅力がないから定員割れをしているのではないかと。令和5年度までに特色や魅力が出せるのか。市町村の支援で、それができるのか疑問である。逆に現在魅力がある高校に導入した方が良いのではないかと。
398	西北①	持続可能な林業のため生徒自らが改善点に気づき、問題の解決を図る取組が高く評価され、国際認証であるF S C森林認証を高校生として世界で初めて取得した、全国的にも貴重な五所川原農林高校の森林科学科は、全国からの生徒募集を導入する候補になり得る。

No	区分	提出された意見等
399	上北	全国募集については百石高校の食物調理科も対象としてほしい。
400	上北	三本木農業恵拓高校に全国募集を導入することで、県内生徒と県外生徒が切磋琢磨し成績向上につながると考えられるので、導入の検討をお願いしたい。
401	パブコメ	全国からの生徒募集における候補校に浪岡高校を加えてほしい。 理由としては、導入校は候補校のうち市町村から支援を前提とする申し出があった高校とあるが、どの候補校についても申し出があるのか不透明であり、支援内容も分からない。そこで、青森市から素晴らしい提案があるかもしれないため、初めから浪岡高校を候補校から除外するのではなく、青森市の支援内容を見てから候補校を選定すべき。 それが夢を抱く子どもたちのため、青森県のためになると確信するものである。どうか、考え直してほしい。
402	パブコメ	浪岡高校は、バドミントンの強豪ということで地元の皆様が存続に向けて取り組むと思うが、全国からの生徒募集について検討してもらうことはできるか。
403	東青①	全国からの生徒募集を導入することで県内生徒の進学に影響を与えるとあったが、そもそも今の浪岡高校の定員充足率から、その心配は全くない。
404	東青②	浪岡高校を全国からの生徒募集の候補校とすることができないか。全国から生徒が入学した場合、生徒のみならず家族への旅費等の援助について、市議会として市長に強く要望したい。このため、実績のある浪岡高校を存続した上で全国からの生徒募集を導入してほしい。
405	東青②	これだけ多くの方が参加して統合に反対していることは、重く受け止め、このような声を知事に届けてほしい。また、全国からの生徒募集の「統合対象校を除く」という括弧書きを削除できないのか。候補校を決定するには、所在する市町村からの支援を前提とした申し出があった高校と記載されており、提案内容も聞かないうちに最初から排除するという姿勢は共感できないため、同じ土俵に青森市も立たせてほしい。
406	東青②	現在、浪岡高校に県外から17名の選手が来ているが、県立高校の場合は、県外から希望する選手は、保護者と一家転住したり、母親がついてきたりという状況で活動している。 そのような中で、これまでも全国からの生徒募集について、中学生の保護者等から問合せが多数あったが、現状では制約があるため、全国からの生徒募集が導入できれば入学できるかもしれないと回答してきたところであり、入学を希望している選手が今でもいる。このため、計画（案）を見直し、今すぐ統合を決定するのではなく、何年か猶予をもらい、全国からの生徒募集を導入し、結果が出なければ再度見直すことができないか。また、バドミントンでのセレクションを導入すれば、是非行きたいという声も多数聞こえている。地元出身の選手や浪岡高校を卒業した選手も、浪岡地域や青森に帰りたいという声が増えているため、是非、全国からの生徒募集を試してから統合を検討してほしい。
407	パブコメ	高校の閉校は地域の活力を衰退させるので慎重に判断すべき。浪岡地域ではバドミントンという資源があるので、これを有効に活用できることを考えれば、今、数年先の統合を考えるのではなく2、3年チャレンジをさせた上で判断すべき。まずは全国募集の機会を与えるべき。
408	パブコメ	第2回東青地区懇談会にて「浪岡高校バドミントン部には、生徒の勧誘は一切行っていないのに県外からきてくれた。」という話があった。これこそ、浪岡高校の数ある魅力の一つである。まさに、計画内にもある「魅力ある高校づくり」という部分にも合致するのではないだろうか。 全国からの生徒募集に関しては、候補校における「第2期実施計画における統合対象校を除く」との条件を外すだけで、浪岡高校も十分に全国から生徒を呼び込めるポテンシャルがあるように感じる。現在の条件は、まるで、県外から生徒を呼び込める可能性のある浪岡高校を統合するために、対象から外そうと添えられているように思えてならない。計画（案）の内容変更を強く望む。
409	パブコメ	地区懇談会では、浪岡高校に全国募集の導入を求める意見もあった。現状の導入校の決定方法において、浪岡高校は候補校にもなっていないが、地域及び行政が支援を行う場合には、当然全国募集の導入校とすべきと思うがどのように考えるか。

No	区分	提出された意見等
410	パブコメ	全国募集については、東青地区において導入する高校が無いので、現在でも、全国から入学生がいる浪岡高校を全国募集を導入できる地域校に指定してはどうか。 浪岡地域には、青森市立浪岡中学校があり、浪岡高校に入学するために、全国から中学生が入学している。その生徒たちの夢を奪わないでほしい。 今一度、計画（案）の見直しをお願いしたい。
411	パブコメ	私が考えるところ、今の浪岡高校の生きる道は、全国的なスポーツ強豪校が実施しているセレクションを活用し、今まで以上にバドミントン部の強豪校として名を馳せれば、生徒数が増加していくのではないだろうか。 簡単に、生徒数が少ないからといった理由で閉校にするのではなく、今一度立ち止まり、再生のチャンスを与えてもらえないか。 この声が三村県知事や青森県教育長に届くことを願っている。
412	パブコメ	今回の再編案は、令和9年度で浪岡高校の募集を停止し、翌年度には閉校となるとのことだが、なぜ令和3年度の今、決定しなければならないのか。提案であるが、令和5年度から浪岡高校の学級数を2学級から1学級とし、浪岡高校の魅力づくり及びバドミントンでの全国募集に踏み切り、それでもなお2、3年間で生徒が集まらない場合には計画どおり閉校を進めるといった柔軟な対応が、今の地域でのアレルギー反応に対する特効薬と考えるので、そういった対応を求めたい。
413	東青①	今回の浪岡高校の統廃合については、地域を代表して反対を申し上げる。浪岡高校は、環境教育、商業教育、さらにはスポーツの分野でも大変優秀な成績を収める高校である。第2期実施計画（案）では、全国からの生徒募集という大きな目玉を持っているが、こうした全国に轟くような教育内容を持つ高校こそ導入すべき。
414	東青①	現在も県外から目標を持った多くのアスリートが浪岡高校に入学している。なぜ全国からの生徒募集の候補から外れたのか理解できない。 青森市や地域住民が連携・協働した教育環境を作り、子どもたちの将来のために、どのような高校とすべきか考えることが大切であり、この作業を経て、浪岡高校を存続できるよう再検討を求める。
415	東青①	全国からの生徒募集の導入の目的について、「県外から目標を持った生徒を受入れ」と記載されている。浪岡高校に関しては、県立高校のバドミントン部として大変優秀な成績を残してきており、また、全国から浪岡高校でバドミントンがしたいという思いで生徒が入学していることも事実である。このような状況から、全国からの生徒募集の目的に対して、浪岡高校は先進事例となっている。 確かに、定員充足率や浪岡中学校からの入学者数について減少しているのは承知しているが、このように実績のある高校をどのように残していくか、生かしていくか、これらを県として是非前向きに検討し、説明してほしい。そうでないとなかなか議論は進んでいかない。
416	東青①	浪岡高校の閉校ありきではなく、高校の魅力づくり、全国からの生徒募集の導入等の実施を経て、それでも生徒数が増えない場合には閉校の議論をすべきではないか。
417	東青①	統合案を見直し、全国からの生徒募集の導入校として浪岡高校の存続を希望する。
418	東青①	浪岡高校と青森西高校との統合は白紙にしてほしい。浪岡高校は、バドミントン部の実力も全国的にも評価されている。生徒数が少ないことが課題なのであれば、統合する前に全国からの生徒募集を導入した上で考えるべき。浪岡高校は、浪岡地域にも農業（りんご）等で貢献している。卒業生には、立派に農業を頑張っている人たちが多い。
419	東青②	まずは、浪岡高校へ全国からの生徒募集を導入し、状況を見た上で考えてほしい。
420	東青①	地区意見交換会において、他県から注目度の高い部活動実施校の三本木農業高校の相撲部への導入という意見もあり、浪岡高校のバドミントン部も同様の考え方に立てば導入が考えられるのではないか。
421	東青①	地区意見交換会では、オブザーバーである浪岡高校校長の発言の中に、あまり意欲的でない県内生徒が県外から入学しているバドミントン部の生徒に牽引され、リーダー性を発揮し成長するなど教育的な効果が見られるという内容があった。このことから、是非浪岡高校に全国からの生徒募集を導入してほしい。
422	東青①	全国からの生徒募集の目的に「県外から目標を持った生徒を受け入れる」というのなら浪岡高校でバドミントンがしたいと思う生徒を全国から募集しても良い。

No	区分	提出された意見等
423	東青①	小規模校が悪いかのような説明に感じるが、小規模校には小規模の良い所がたくさんある。浪岡高校は歴史がある高校であり、バドミントンなど特化した部分もあるため、ぜひ、全国からの生徒募集の導入を検討してほしい。
424	東青①	全国からの生徒募集の導入の候補校に浪岡高校が入っていないことに違和感を感じる。
425	東青①	浪岡高校については、バドミントン部を中心とした全国からの生徒募集の導入校とすべき。
426	東青②	浪岡高校は地域貢献など浪岡地域の中で良い取組をしているとの意見もあったが、中学生やその保護者は進路選択する際、そのような取組を見るのではなく、偏差値やどのような大学に進学できるのかといった視点で選択している。存続に向けた協議をするならば、もう一年かけて浪岡高校の宣伝や全国からの生徒募集の導入などに取り組んだ上で、浪岡高校を存続するかどうか議論する方がより充実した地区懇談会になるのではないかと。
427	パブコメ	<p>計画（案）については、浪岡高校出身者でバドミントン部OBの私にとって寝耳に水だった。生徒数が減少傾向の中で浪岡高校バドミントン部はインターハイ団体準優勝2回、選抜大会団体優勝、個人戦も含め3冠を達成している。日本を代表する強豪校として注目されている高校が閉校となれば浪岡高校でバドミントン競技の指導を仰ぎたいと思う中学生が入学できなくなる。</p> <p>浪岡中学校バドミントン部においても全中大会で2度優勝、個人戦で多数の優勝を収めており、全国大会で優勝した中学生が地元の高校に進学することで浪岡高校が強くなるのは当たり前と思われがちだが、純真にバドミントンが好きな生徒の努力の賜物である。</p> <p>諸大会に帯同しているが、他県のバドミントン関係者からは「浪岡中学校と浪岡高校は中高一貫校であるため、強いのではないかとよく言われる。浪岡高校が閉校となれば中学生もバドミントンに対する士気が下がるなどの影響は避けられない。</p> <p>「バドミンソンの町、浪岡」は当時、あすなる国体（昭和52年）において、浪岡町住民がスタッフとして一丸となって、バドミントン競技を総合優勝に導き、成功を収めた。</p> <p>青森県において近年、日本一に輝いた県立高校はあるか。ほとんどが私立高校であり、県教育委員会として、実績ある県立高校を閉校とせずに、存続するようお願いしたい。</p> <p>令和5年度から、全国からの生徒募集を導入予定とのことなので、浪岡高校が導入校とされ、令和5年度に多くの生徒が入学することを祈願している。是非、10月決定予定の第2期実施計画においては、浪岡高校を存続してほしい。統合するとしても、その後の経過を見てから検討しても良いのではないかと。</p>
428	上北	全国からの生徒募集について、現在の入学者選抜要項等の変更はあるのか。
429	三八	高校の更なる特色化のためにも、全国募集はかなり有効な方法である。そのため、全国募集の在り方については継続して調査・研究を行ってほしい。
430	三八	全国募集の調査・研究の継続を望む。
431	西北①	全国からの生徒募集について、市町村の支援を受けながら他県からの生徒を受け付けるとのことだが、生徒を収容するための寮や生活費の保障はどうするのか。また、他県から来た生徒の高校卒業後の進学や就職はどうするのか。

イ その他の取組

No	区分	提出された意見等
432	東青①	公立も私立も競争の時代であり、公立高校の魅力づくりが必要である。高校の魅力に合わせて教職員定数配分を設定してはどうか。
433	西北①	多くの子どもたちが好きな高校でたくさん学べる教育環境を作り、魅力ある高校の維持をお願いしたい。
434	西北①	今後の生徒数減少を踏まえて、重点校配置や学級減を計画しているようだが、ここ数年は私立高校へ入学している生徒も増えている。私立高校よりも魅力のある県立高校づくりを行い、県立高校への入学者数の増加を目指すことも重要な課題である。
435	上北	子どもが進学したいと思う目的が私立高校にあるようだ。子どもが入学したいと思う県立高校になるような計画の工夫が必要である。

No	区分	提出された意見等
436	三八	高校において3年間学習したとしても、その道のプロになれる訳ではないため、県教育委員会として、大学進学におけるメリットや連携の情報提供等、高校卒業後の進路を示すこと等が必要である。高校卒業後の進路が明確に分かるような高校を県教育委員会が作り上げるくらいの気構えを持ってほしい。
437	三八	学校規模等の話題にのみ関心が集まりがちだが、引き続き、魅力ある高校づくりに留意し、取り組んでほしい。
438	下北②	他県では、人口減少イコール高校閉校ではなく、官民一体となった高校魅力化プロジェクト事業を実施している事例がたくさんある。他県が知恵を絞って頑張っている状況について、教育委員会はどうか考えるか。
439	下北①	学校を減らすのではなく、魅力ある高校づくり等、生徒数を増やす工夫、仕組みを考えてほしい。
440	東青①	「小・中学校と連携し、高校の学びに触れる機会の提供や各発達段階に応じた教育活動を充実」とあり、魅力ある高校づくりというテーマとして非常に適切であると思っている。ただ、現実的には全然行われていないと感じる。小・中学校は義務教育であり連携が見られるが、高校は全県一区であることから、地域の協力を得る難しさもある。三内地域では一番近い高校は青森西高校であるが、まだまだ連携が不十分だと感じている。
441	下北②	学校の中だけしか知らないと社会に出てから通用しない。校門から外に出るべき。
442	東青①	地域課題や学校課題を解決するのがコミュニティ・スクールの役割とっており、導入の推進も今後の課題だと思っている。なお、浪岡中学校区でもコミュニティ・スクールを導入しており、浪岡高校も連携すれば、様々な形で地域課題、学校課題が解決されていくきっかけになる。様々な形で課題をどのように解決していくかを考える上で、地元の地域の方、保護者、学校関係者が一緒になって考えるコミュニティ・スクールは非常に良い場だと思うため、学校単位でも良いので、青森市の取組を参考に、県としてもコミュニティ・スクールの高校への導入を早く進めてほしい。そのことが魅力ある高校づくり、かつ地域づくりにつながっていく。
443	中南	各地区では様々な意見が出てくると思うが、コミュニティ・スクールやコンソーシアム等の新しい姿を分かりやすく説明し、「反対」ではなく、「一緒にやってみましょう」と呼びかけるような計画を進めてほしい。
444	東青①	I C Tを活用することで、遠隔授業の展開など様々な活用方法が考えられ、浪岡高校においても、I C Tを活用することで存続も考えていけるのではないだろうか。高校教育としての人数の制約等があることは承知しているが、I C Tの特徴を生かした展開が可能であると考えており、青森市内の小中学校に比べると、まだまだ高校のI C T活用が不十分であると聞いているので、青森県の宝である子どもの教育のために、早めに予算化し、取組を進めてほしい。
445	西北①	I C Tの充実、エアコン整備等の教室環境の整備は小中学校より県立高校の方が遅れている。
446	東青②	I T教育の充実とその教育者の育成をしていくべき。
447	上北	漠然とした夢や希望しか持っていない子どもに対し、各校の取組による生徒の変容をホームページ等で具体的に示してもらえたら、親の立場としては助かる。
448	パブコメ	高校再編計画により、教員数も減少することが見込まれることから、各学校が作成しているホームページを青森県総合学校教育センターにて作成・更新してはどうか。そのことにより、教員負担が軽減され、多様化する生徒と向き合う時間を十分に確保できるのではないだろうか。

No	区分	提出された意見等
449	西北①	校舎が老朽化しており、エアコンもないため、現代に見合った環境整備を希望する。
450	下北②	教育環境に魅力のない青森県に移住者が増えることはないし、これから子育てしていく県民も他県に流出するのではないか。
451	パブコメ	魅力の競争をすれば問題は解決するのか。計画（案）には「魅力ある」「魅力化」などの「魅力」という言葉が全部で12ヶ所出てくる。教員集団が知恵を絞って授業内容やカリキュラムを工夫したり、生徒一人一人が活躍できる学校行事や部活動などを作り上げることによって、その学校に在籍している生徒にとって魅力的な学校を作るとは非常に重要である。しかし、計画（案）で言うところの「魅力」は、どうやらこれと違うようだ。「中学生から選ばれる魅力ある高校」（28ページ）と述べられているように、その「魅力」は外部（中学生）から見て見栄えの良い高校のことである。最初から高校を受検する中学生の数は決まっているのだから、「中学生から選ばれる」ように「魅力ある高校づくり」に取り組みということは「魅力競争」をしろということに他ならない。大学進学に特化した重点校であれば進学実績そのものが「魅力」になるだろう。部活動に特化した学校であれば、部活動の結果が「魅力」になるだろう。一方で、交通の便利な市部の高校に比べて、不便な郡部の高校はどうしても倍率が低くなってしまふ。そのような郡部の高校に対して、「魅力がないから倍率が低いのだ」とばかりに魅力競争をけしかけるのは間違っている。「魅力競争」で中学生の数が多くなるわけではなく、問題は何も解決しない。教職員が消耗し疲弊するだけだ。高校に見栄えの良さを競わせるのはやめてほしい。

(9) その他

ア 私立高校との関係

No	区分	提出された意見等
452	西北①	県の高校教育改革を県立高校だけで考えるのではなく、私立高校も一緒に同じ土俵で考えてほしい。高校教育に対する目的は、県立も私立も同じである。ゴールが同じであるため、県立高校と私立高校で色々協議しながら、県全体の高校教育を考えうまくバランスを取ってほしい。
453	西北①	私立高校も交えて、県全体の高校教育の在り方を検討してほしい。
454	下北②	県立高校の生徒数の減少は、私立高校への流出が大きな課題である。
455	パブコメ	なぜ県立高校だけが閉校や学級減とならなければいけないのか。これからさらに少子化が進んでいく。県立高校を維持していくためにも西北地区にある2校の私立高校のうち1校を閉校にしてはどうか。 現在、ほぼ授業料がかからない私立高校は県立高校との差別化がなされておらず、地域への貢献など目立った活動も行われていない。
456	西北①	私立高校を残すために学級減を進めるのは分かるが、西郡は教育後退になる。

イ 次期実施計画策定に向けた対応

No	区分	提出された意見等
457	パブコメ	次期実施計画において、以下の提案をしたい。 ・三沢高校の普通科を1学級減らし、青森県内初の航空国際科を新設してはどうか。 ・百石高校の食物調理科において、全国からの生徒募集を導入してはどうか。 ・大間高校を田名部高校の分校化し、存続に向けて検討してはどうか。 ・大湊高校の校舎を活用し、公立の専門職大学を設置してはどうか。 ・浪岡高校の校舎を活用し、青森県立盲学校を移転してはどうか。
458	西北①	高校教育改革推進計画の次期計画を策定する際には、過去5年間分など各高校の様々なデータが納得できる形で記載されることを望む。
459	中南	せめて令和10年度から令和14年度までの次期実施計画（案）は白紙に戻してほしい。
460	三八	次期実施計画策定にあたっては、生徒の志望やニーズ、地域産業の特性を踏まえてほしい。

ウ その他

No	区分	提出された意見等
461	下北①	全ての計画が財政事情優先で進んでいるが、財政難を生みだしているのは、教育を重視していないことによるので、「教育は100年の計」など、長い目で地域を考えるためには、教育に公費を投資すべき。
462	下北①	「人財」という言葉を使うのであれば、1番の当事者である子どもたちのことを考え、そしてお金も使ってあげてほしい。
463	下北①	人材と予算を教育へ注いでほしい。
464	下北①	教育にお金をかけるべき。
465	西北①	教育環境を充実させるためには学級数減(=教員数減)は避けたい。今、不安を抱えた子どもたちが多く、保護者対応等もあり、高校側は大変であるため、きめ細かな指導ができるように教員数を増やしてほしい。
466	中南	教員にはゆとりが必要であり、中学校、高校の教職員数を増やすべき。教職員にゆとりがないと子どもが困る。教職員の働き方にも関係してくる。県政は次の県人教育をもっと考えるべき。
467	下北②	学校運営について、指定管理に近い形で行うことができないか検討してほしい。
468	西北①	第2期実施計画(案)について、県民が理解できるような用語を使ってほしい。
469	パフコメ	計画(案)本冊の5ページにおける「重点校と各校の連携による取組」の2つ目の○の1行目や35ページにおける「三本木高校」の4行目、「八戸高校」の2行目に「大学教授」との記載があるが、大学での対応者は大学教授のみならず、准教授、講師、助教といった職階があり、「教授」に限定することは不十分ではないか。このため、「大学教授」を「大学教員」としてはどうか。
470	パフコメ	「カリキュラム・マネジメント」、「主体的・対話的で深い学び」、「STEAM教育」、「Society 5.0」、「共同事業体(コンソーシアム)」等の目新しい言葉は、学習指導要領などからの引用で、この「削減計画」に直接関係ない。これらは、計画(案)の紙数を増やす役割しか持っていない。
471	上北	地区意見交換会の委員はほとんどが公的な立場であり、それぞれの立場から意見を述べているはずである。議事録に発言者名が記載されていないため、誰がどういった発言をしたのかが分からず、資料からは会議の雰囲気を読み取れない。
472	下北①	地区意見交換会が3回開催されているが、そのような会議があることを知っている人があまりいない。地区意見交換会は公開の場で開催されているが、もっと市民はそのような取組をしていることを知らなければならないし、県でも是非、そのような取組を周知してほしい。
473	西北①	計画(案)には中学生の人数減の数字しかない。高校卒業後の進路状況や地元の定着率など、地域を支える人材、社会を牽引する人材、産業の発展に貢献する人材育成として各高校がどのような成果を残しているのか、データ化してほしい。
474	東青②	IT化が進み、交流、絆が失われている。
475	パフコメ	小学校、中学校の段階で「落ちこぼれ生徒」を出さないこと、興味のあることや好きなことを見つけることや最低限の基礎知識の必要性を認識させることが大事である。その実施・実現を可能にするように挑戦してほしい。
476	パフコメ	県職員の使命と行動理念を教えてほしい。

2 各地区の学校規模・配置に対する意見

(1) 東青地区

ア 学校規模・配置

No	区分	提出された意見等
477	東青①	青森市内の全ての高校を残す計画を考えてほしい。
478	東青②	東青地区の学校配置に関して、「過疎」、「街づくり」、「地域経済」というワードが多数だった。「子どもにとってどのような環境が一番良いのか」という意見がわずかにあったが少なかったのは残念である。
479	東青②	高校を旧青森市に集約しているのは何故か。浪岡地域も青森市であることを考えてほしい。
480	パブコメ	<p>東青地区の高校は、青森市の東・東部・南東部地区に半数が存在し、しかも重点校、拠点校の全てがこの地区に集中している。さらに計画（案）によると、6学級規模の4校のうち、青森西高校を除く青森高校、青森東高校、青森工業高校の3校が東・東部地区にあり、集中している。この点からも大きな偏りが見られる。</p> <p>青森市各地区の学級数合計においては、北部・西・西部地区にある青森西・青森北高校の学級数合計が11、南・南部地区の青森中央・青森南高校は学級数合計が8学級となっており、東・東部・南東部地区の学級数の合計23学級と比較すると北部・西・西部地区にある青森西・青森北高校の学級数はその半分、南・南部地区の青森中央高校・青森南高校の学級数はさらにその3分の1しかない。</p> <p>中学校における全校生徒数で見ると、南・南部地区の中学校在合計で2,422人と最も多くなっている。中でも、南中学校が最も多く、その次が西中学校になっている。これは、小学校も含めた児童生徒のいる家庭の多さを反映しているものと思われる。</p> <p>これらのことから、北部・西・西部や南・南部地区の中学生は、自分が住んでいる地区に高校や学級数が少ないことから、生徒によっては進路志望実現のため、電車やバスを乗り継ぎ、自宅から遠く離れた東・東部・南東部地区の高校まで通学せざるを得ない状況にある。この状況で、計画（案）の「第3 学校規模・配置」の冒頭にある「通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置に取り組みます。」と言えるのだろうか。</p> <p>また、通学費や通学時間、気候変動による台風や大雨などの自然災害、冬の豪雪、さらには新型コロナウイルス感染症などの疫病等の課題に対して、北部・西・西部や南・南部地区の中学生や保護者にとって安心・安全な通学環境を保障した学校規模・配置になっているのか、この地区の中学生や保護者にとって多くの負担を強いる不公平な学校規模・配置になっていないかどうか説明を求める。</p>
481	パブコメ	<p>東青地区における全日制課程普通高校の学級数について、今回の計画（案）では、青森中央高校、青森南高校がそれぞれ1学級減により、1学年あたり4学級と計画されている。</p> <p>青森市南・南部地区の中学校の全校生徒数は、合計2,422名と市内の他地区と比較して最も多く、さらに南中学校は664名、西中学校は549名で青森市内でも生徒数が多い中学校である。さらには、青森中央高校の総合学科、青森南高校の普通科の5年間の第1次進路志望状況調査における平均倍率は、それぞれ1.18倍、1.33倍で、定員を超える志望があり、中学生の需要が十分ある。青森市内でも生徒数が多い南・南部地区にあり、この地区の中学生が近くで通学しやすく、かつ志望倍率が定員を超える倍率になっている青森中央高校総合学科、青森南高校普通科から、それぞれ1学級減とした理由は何なのか、説明がほしい。</p>
482	パブコメ	青森中央高校総合学科、青森南高校普通科の1学級減については、反対する。改めて他の高校を含めた再検討を希望する。
483	パブコメ	<p>グローバル探究科については、「グローバルに活躍するために必要な力を育成するため、国際的な教育プログラムである国際バカロレアの理念に基づき、語学力だけでなく、幅広い教養、課題を発見し解決する能力等を身に付けられる学習の充実」とある。このような学習を実践するためには、一定の学力を有した生徒の入学が望まれるのは当然のことである。一方、普通科の1学級減によって、進学校として存在意義を失うかもしれない青森南高校からすれば、これらの学習を理解できる一定の学力がある生徒が集まらず、外国語科と同じような定員割れとなる可能性も考えられる。外国語科と同じようなことになれば次期実施計画では、再び学級減の対象となり、青森南高校は普通科3学級のみになるため、高校自体が削減の対象となりかねない。</p> <p>そこで、外国語科は学級減の対象として挙げられているが、なぜ定員割れをしてきたのかについて、総括が行われたのか。また、グローバル探究科に対する中学生・保護者のニーズといったものを裏付ける具体的かつ合理的な根拠となるものがあるのか。</p> <p>青森南高校外国語科をグローバル探究科に改編することについては、慎重に判断する必要があるため、今後の経過を注視し、良く見極めてほしい。</p>

No	区分	提出された意見等
484	パブコメ	<p>東青地区において、国公立大学への進学率を普通科で比較すると、青森南高校普通科については、43.2%で三番目に高い割合となっており、私立大学や短大等を含めた進学率では、91.0%で東青地区で最も高い割合となっている。</p> <p>一方、県内全体における上級学校への進学率が高い高校13校の普通科における国公立大学の進学率で比較しても、青森南高校普通科は6番目であり、外国語科との合計でも39.3%で9番目となっている。また、私立大学や短大等を含めた進学率においては、普通科だけでも8番目となり、外国語科との合計でも同順位である。このように、県内全体で見ても進学校としての実績を積み上げ、創立50年の歴史の中で中学生や保護者からも進学校として認知されてきたと考える。</p> <p>青森南高校の普通科は、このような進学実績を残していることに加え、地区意見交換会では外国語科を削減すべきとの意見があったにもかかわらず、学級減の対象を外国語科ではなく、青森中央高校以外の他の高校でもなく、なぜ青森南高校の普通科なのか。そのプロセスが不透明である。学級減の対象は、青森南高校の外国語科・普通科に関係なく、当初から「青森南高校ありき」だったのではないかと考えざるを得ない。青森南高校普通科の1学級減の理由や根拠は何か、説明を求める。</p>
485	パブコメ	<p>青森南高校普通科の1学級減は、大学等の進学を目指し、また実績も残してきた青森南高校の存在意義を失わせることにつながりかねず、青森市の北部・西部や南・南部地区の中学生や保護者から大学進学を目指す高校が自宅に近い場所にあるにもかかわらず学級減となったため、結果的に他の高校を志望せざるを得なくなる。そうなれば同地区の中学生や保護者、中学校の教員に不公平感を抱かせるのではないかと。この点についてはどう考えているか。</p>
486	東青②	<p>青森南高校が浪岡高校より北にあるのはいかがなものか。浪岡高校を青森南高校にしてはどうか。</p>
487	パブコメ	<p>青森南高校の特色は外国語科だが、これはどの高校でも引き継ぐことが可能と考えられることから、青森南高校を募集停止し、校地を売却してはどうか。引継ぎ先として、近隣にあり、大きな混乱が生じないであろう青森中央高校や浪岡高校（浪岡高校の売却先が見つからず、青森県で管理費を負担し続ける恐れがある）へ引継ぎなどが考えられる。</p>
488	東青②	<p>資料の高校の分布図から、浪岡高校が外れにあり、旧青森市内の高校は固まって設置されているため、交通の便が悪い青森南高校を閉校としてはどうか。</p>
489	パブコメ	<p>東青地区では、令和5年度から令和9年度までに4学級減となるにもかかわらず、重点校である青森高校の6学級の他に、重点校にはなっていない青森東高校、青森西高校が6学級となっているのはなぜか。重点校でなければ、学級減の対象になると考えるがどうか。</p> <p>なお、中南地区の場合は、重点校の弘前高校は6学級であるが、その他の全日制課程普通高校の弘前中央高校や弘前南高校は5学級とされ、三八地区も、重点校の八戸高校と八戸西高校が6学級で、その他の全日制課程普通高校の八戸北高校、八戸東高校は5学級の計画になっている。</p>
490	東青②	<p>浪岡地域に青森工業高校をもってきてほしい。</p>

イ 統合に関する事項

No	区分	提出された意見等
491	東青②	東青地区統合校については、教育の理念は理解できたが、実現性が不明確である。
492	東青②	東青地区統合校について、生徒がどのようなことを学びたいのか調査し、それに応える学科や教員を準備すること。
493	パブコメ	浪岡高校のバドミントン部は全国的に優秀な成績を収めているが、東青地区統合校においてもバドミントン部の強豪として育成することができるのか。
494	パブコメ	<p>県教育委員会の計画（案）については理解できるが、地元の意見も理解できる。地域がさびれ経済にも影響を与えることは必至である。</p> <p>しかし、浪岡高校を青森市立高校として存続させる選択肢があるのかとの質問に対して、青森市長は五戸町の例を述べているが、五戸町と比較することに違和感がある。県庁所在地に市立高校がないのは北海道・北東北において青森市だけではないか。「高校を市町村で持つということは財政的にも相当厳しい」と述べているが、一般的に医療・福祉・教育についての財政負担は考慮すべき。幸いにも浪岡高校はバドミントン競技についてかなり知名度が高くなり、これからさらに発展する可能性もある。近い将来、奈良岡選手がオリンピックにおいて男子初のシングルスメダリストになることも期待できる。小粒でもびりりと辛い山椒のような高校が一校あっても良い。</p> <p>また、青森県は短命県の汚名返上を図ることも急務である。健康づくりの先駆けとして北の拠点といわれるようなスポーツ校を市立で設置した上で、将来は空港が近いという立地条件を生かし、グローバル化を目指す高校としての活躍を期待する。なお、実績を検証し、効果が認められた場合は多少なりとも県から市に対する財政支援を考えるべき。仮に青森市へ浪岡高校を移譲する場合の資産等についても特段の配慮をすべき。</p> <p>これらのことを踏まえ、計画（案）について再度検討してほしい。</p>
495	東青②	今後、小・中学校、高校が少なくなるのは見えているので、統合は仕方がない。
496	東青②	浪岡高校の存続に賛成なので、この案に反対である。
497	東青②	統合するのであれば、浪岡高校の商業コースを統合校でも維持してもらいたい。今年度、五所川原工科高校が開校したが、金木、板柳、鶴田の商業コースでの学習内容を希望する生徒の受け皿が全くない。全て工業科のカリキュラムで構成されている。このようなことも踏まえて、統合校設置に当たりしっかりと議論してもらいたい。
498	東青②	統合校の教育活動について、空き缶壁画活動が統合後も実施可能なのか。浪岡地域が青森市の中で置かれている地域性をもう少し計画づくりの中で考えてほしい。
499	パブコメ	浪岡高校が統合した場合、県教育委員会が掲げる統合校の目指す姿について、「地域と連携・協働した探究的な学びを通して、生徒の地域社会の発展に貢献する意識を醸成する高校」としているが、浪岡地域との関わりが見えてこない。また、東青地区統合校の教育活動の例においても「地域資源を活用したボランティア活動等、社会に積極的に関わり、地域の魅力を国内外に発信する教育活動を推進」としているが、統合する両校の特色を継承していく具体性が見えてこない。浪岡地域が消えて無くなるだけのように思える。希望の持てる意味の分かる組み合わせならある程度理解できるが、最初から統合ありきで、全てのシナリオが出来上がっているとしか思えない。統合することとした理由を示してもらいたい。
500	パブコメ	<p>浪岡高校と青森西高校との統合は、正直、浪岡高校への入学者が年々減っている中、致し方ない。</p> <p>ただ、今回の統合は、地域性を無視した机上の空論であり、とりあえず市内の高校の数を減らすために、近い高校をくっつけたとしか思えない乱暴な計画である。</p> <p>なぜ、浪岡高校を無くすのか、青森西高校の募集人員を減らすことは考えなかったのか、現状、浪岡高校になれば入れる学力の生徒の受け皿はどこ的高校になるのか、青森地区や他地区の高校だと経済的な理由で通えない生徒はどうするのか、統合するのであれば青森西高校の校舎ではなく、浪岡高校の校舎を使うことは考えなかったのか、浪岡高校への入学希望者を増やす取組は行ったのか、青森市で浪岡地域自治区を設けていた理由を県は理解しているのかなど、様々思うことはある。</p> <p>この計画（案）については、浪岡高校を無くす具体的な説明があれば良い。</p>

No	区分	提出された意見等
501	パブコメ	<p>テレビ等で青森市長や浪岡地域に住む方が「地域づくりのため」、「伝統があるから」といったような理由で浪岡高校が必要であると訴えていたが、「子どもたちの教育のために必要」といった教育的な理由がなければ存続は難しい。そもそも伝統がない学校はないし、高校のあるなしで地域づくりを考えるのはおかしい。</p> <p>また、バドミントン部があるから全国募集してはどうかとの意見もあるが、仮に全国募集で浪岡高校に入学した生徒がいて、その卒業後の受け皿は浪岡地域で考えているのだろうか。少なくとも県教育委員会が、「子どもたちの教育のため」を考えた計画（案）であると思うので、この案に賛成である。</p>
502	パブコメ	<p>計画（案）には概ね賛成である。</p> <p>カリキュラム・マネジメントの適切な実施や学科の充実を図るための他校との連携など、各高校が教育の充実に向けて取り組んでいくビジョンが良く描かれている。ただ、統廃合の対象になる高校、特に浪岡高校が統廃合の対象となった理由が、この計画（案）からは分からないので、計画に記載するか、あるいは、地区懇談会での詳しい説明が必要かと思う。</p> <p>浪岡高校は、いくら全国的にバドミンントンの強豪校とはいえ、生徒数の減少に加え、元々、学習につまづきを抱えている生徒が多い状況にある。そのため、浪岡地域の中学生は黒石市や青森市、弘前市の高校に進学するケースも少なくないと聞く。今のレベルのまま浪岡高校を存続させるより、青森西高校と統合した方が学力のレベルが上がり、浪岡地域の中学生にとっては良いことではないか。</p> <p>青森市長や浪岡地域の大人たちは地域が廃れるという理由で強力に存続を訴えているが、浪岡高校を残すよりも、空いた校舎に企業を誘致するなど経済活動に利用した方がよほど地域の活性化に繋がるはずである。存続させる会などを作るようだが、大人たちの古くさい考えやエゴで反対しているようにしか見えない。</p> <p>今後の時代の変化に対応できるグローバルな視点を持った優秀な生徒を育成するため、県教育委員会には是非ともこの計画を進めてほしい。</p>
503	東青②	<p>浪岡中学校から浪岡高校の進学割合が少ないことで今回の統合案となったのは、浪岡地域の住民が真剣に考えてこなかった結果であるが、浪岡地域には高校が必要である。今までもバドミントンで生徒が集まってきた経緯もあるため、5年間程度は様子を見ても良いのではないか。</p>
504	パブコメ	<p>青森西高校、浪岡高校は伝統ある高校である。特に浪岡高校のバドミントン部は長い歴史のもと、町を挙げて強化をし、日本一に輝いた選手を輩出している。また、現在でも県外からの志望者も多いと聞く。さらに、数年前、浪岡城址の桜祭りに行った際、浪岡高校の部活動、箏の演奏は見事であった。全国の発表会等にも出場していると記憶している。</p> <p>浪岡高校は近隣の自治体からも通学しやすい位置にあり、統廃合となると、浪岡地域の人流が激減し、県にとっても大きな損失である。</p> <p>青森西高校、浪岡高校ともに県都青森市が誇る県立高校として、それぞれ独自性を持って活性化に努めている最中であり、統合するという方針を見直し、双方の存続に転じてほしい。</p>
505	パブコメ	<p>浪岡高校と青森西高校との統合に反対し、浪岡高校の存続を望む。</p> <p>そもそも県教育委員会は、浪岡高校に対してこれまで、何ら入学者の拡大を図る方策を取らないまま、地域校2学級の募集としてきたにもかかわらず、定員に達していないため、統合するというのは、あまりに無策無力で努力の欠片も見えず、県教育委員会の資質が問われるものだと感じざるを得ない。</p> <p>知事も言っているように早い段階で地域の住民と話し合えば、このような自分たちのテリトリーの中だけでの敷合わせ策など出てこない。地域ともっと話し合い、魅力ある浪岡高校にすべく力を傾注すべき。県教育委員会は少子化の中、他の市部の高校の定員に手を付けなければ、地域校がその影響を受けることはわかっていながら、淘汰の時期を待っていたとしか思えない。</p> <p>さらには、浪岡高校バドミントン部のような、全国レベルで競える県立高校が他にあるのか。これまでは、その生徒たちが地元へ戻って県の代表として全国大会などに出場することも少なかったが、浪岡高校ではそのサイクルが出来上がろうとしていると聞いている。将来に地元に戻って、地域の後輩たちを育てたいという気運が盛り上がりつつある折、非常に情けない。</p> <p>地域と話し合いを重ねて、地域意見を汲み入れた方策を実施した上で、更に検証すべきであり、安易な計画の決定はすべきでない。</p>

No	区分	提出された意見等
506	パプコメ	<p>青森西高校と浪岡高校を統合することにより新設校を設置し、両校計8学級を6学級にするとのことだが、新設校はどういった学校で、どういった教育を目指していくのかについて抽象的にまとめられてはいるものの、どういった魅力づくりを行っていくのか、統合する両校の特色を継承していくのかなどの具体性が示されておらず、将来的なビジョンもない。まさに、この再編案は単に数合わせで進めていること、また、生徒を置き去りにしていることはもとより、学校数を減らすことにより施設の維持管理経費や教職員の人数削減での人件費削減のために進めているのではないかとということが見てとれる。</p> <p>単に統合というのではなく、まずはそれぞれの学校の魅力を高める努力がなされるべきで、その上でも生徒が集まらないのであれば閉校も仕方がないが、これまでその努力を県教育委員会及び高校が進めてきたのかどうか我々には全く見えてきていない。こういった単に数合わせの閉校には断固反対するものである。</p>
507	東青①	<p>第1期実施計画では、歴史的価値や文化的価値を知る生徒を育成する教育を進めるという方針があり、価値のある浪岡地域の歴史を浪岡高校では授業に取り入れている。</p> <p>また、文化・スポーツ関係においても、あすなろ国体以前から浪岡地域はバドミントンで有名であり、浪岡高校には全国からバドミントンで有名な選手になりたいという生徒が来ている。昔から浪岡地域の住民は浪岡高校を愛し、応援しながら、そしてそれを街づくりにつなげコミュニティができてきていることから、浪岡高校は、青森北高校や青森西高校と比べても何ら見劣りしない高校である。将来的に見ても、浪岡高校を残した方が青森市、青森県にとっては良い結果が残されるのではないかと考えており、是非再考をお願いしたい。</p>
508	東青①	<p>浪岡高校商業科がなくなって大分時間が経ったが、最近浪岡高校ではバドミントンで全国大会にも出場し、地域に貢献して勇気を与えている。</p> <p>北畠まつりを浪岡高校が強力に応援しており、浪岡高校がなくなれば祭りの実施が困難となる状況でもある。そして、浪岡高校では、空き缶壁画という全国に例のないほど素晴らしいものを造り上げていく。これらのことを考えると、生徒数の減少という論理で簡単に片づけて良いのかと思う。少人数だからこそ良い根性や負けてなるかという精神が生まれてくる。浪岡高校を青森西高校へ統合する形ではなく、青森西高校を浪岡高校へ統合すれば良い。高校と一緒に浪岡地域を活性化させるような環境の整備を県教育委員会をお願いしたい。浪岡高校の閉校はやめるべき。</p>
509	東青①	<p>現在、浪岡地域からではなく、青森地域から自分の子どもが浪岡高校に通学している。昨年90周年記念式典を行い節目を迎えたが、浪岡高校を統合する計画(案)が公表され、突然、募集停止や閉校という言葉が出たことに驚き、動揺を隠せない生徒や保護者がすごく多い。現在も、青森地域から何人も浪岡高校に通学しており、北畠まつりなど地域の行事や運動会などにみんなで参加し、少人数ではあるが先生方と一緒に楽しく活動している。また、バドミントンでも功績を残している。あまりに急なことだったため、再検討してほしいというのが生徒と保護者からの意見である。</p>
510	東青①	<p>県教育委員会は、高校再編に当たり長期的な戦略で年次計画を設計していないのではないのか。第2期実施計画(案)で、例えば3校ないし2校を統合した後、3年後、5年後にはまた統廃合を粛々と行うことが、果たして血の通った教育を担っている県教育委員会として正しいのか。浪岡高校の生徒は、少人数ではあるが、北畠氏を軸とする浪岡地域の歴史を学び、様々な体験をして活発に学習をしている。その場を奪うことは、我々浪岡地域としても非常に信じ難いことである。</p> <p>本日出された意見については、この場だけで済ませるということはあってはならないことであり、その点を強く胸に刻んで、もう一度考え直してほしい。</p>
511	東青①	<p>浪岡地域で子どもたちの意見を聞くと、閉校という言葉を知りただけで、もう浪岡高校を受検できなくなるものと皆勘違いし、これから先どこの高校に進学すれば良いのかと考えている。青森西高校側からは、浪岡高校とは統合したくないという話も聞いている。これらを考慮すると、どちらが良いのか県教育委員会も分かると思う。</p>
512	東青①	浪岡高校の存続をお願いしたい。
513	東青①	青森西高校を閉校し、浪岡高校に統合するという意見に賛成である。
514	東青①	浪岡高校の閉校及び統合に反対である。そもそも県教育委員会は、これまで浪岡高校を70名(2学級)とし、何ら改善策を行わずに、募集人員に達しないことを理由に、地域の意見も聞かずにいきなり統合案を提示するのは無策と言わざるを得ない。浪岡高校バドミントン部を軸に特色ある高校として進めるべき。今の青森県で全国レベルの何かを持つ高校はあるのか。
515	東青①	浪岡高校が閉校ありきで進められている印象を受ける。浪岡高校の存続を求める。

No	区分	提出された意見等
516	東青①	浪岡高校の統合に反対である。
517	東青①	地域に根付いた高校は存続させるべき。
518	東青①	浪岡地域に高校はなければならない。
519	東青①	浪岡高校の閉校に反対である。小さくてもキラリと光る高校を残してほしい。
520	パブコメ	近年、片親家庭の増加、非正規雇用者家庭の増加等で経済的に厳しい環境にあることに加え、高卒以上でなければ就職難になり、若くして将来に不安を抱くことになってしまう。その状況の中、教育費が少額で済む県立高校への進学ニーズが高いため、適切な場所に県立高校を配置することを基本とすべき。浪岡地域は、津軽一帯からの通学が容易で通学費も安く済むため、浪岡高校が存続することは、津軽地区の住民にとって合理的である。
521	パブコメ	浪岡高校を存続してほしい。浪岡高校は、年々生徒数は少なくなっているが、空き缶壁画やバドミントン部など誇れる部分もある。また、浪岡の地域を盛り上げたり、地域に貢献したりするなど高校生だからこそできることもある。是非、慎重に判断してほしい。
522	パブコメ	浪岡高校は、現在、生徒・教員を含め100人にも満たないが、だからと言って浪岡高校を閉校しても良いとはならない。しかも、校舎は広く綺麗であり、使わなくなるのはとてももったいない。今もなおバドミントン部が強いことは浪岡高校の誇りだが、浪岡高校が閉校となったら、その伝統が潰えるのではないかと。どのような手段でも良いので、浪岡高校を存続してほしい。
523	パブコメ	浪岡高校は存続すべき。生徒数が少なくなってきたなどの理由で閉校とした場合、浪岡地域に活気がなくなり、若い人たちが少なくなってしまうととても寂しい地域になってしまう。どんな手段でも良いので浪岡高校はこれからも存続させてほしい。
524	パブコメ	母校である浪岡高校が無くなるのはとても悲しいし、バドミントン部や日本音楽部など、全国大会に出場している部活もある。もし、統合してしまったらその部活はなくなるかもしれない。現日本音楽部部長として、自分の部活の功績が全部なくなるのは嫌なので、浪岡高校を存続させてほしい。
525	パブコメ	浪岡高校には伝統、歴史がある。私の従兄弟が浪岡高校に通っているが、友達との生活が楽しいと聞く。文化祭での友達との楽しそうな動画や写真が送られてきた。浪岡高校生にはたくさん思い出がある。どんな手段でも良いので浪岡高校を存続してほしい。
526	パブコメ	浪岡高校を存続させるべき。生徒数が少ないからこそ、より密接に地域の活動に参加できる。
527	パブコメ	浪岡高校は存続するべき。なぜなら、浪岡高校の空き缶壁画があると地域住民も仕事を頑張ろうと思ってくれる人がいると思うので、浪岡高校をどんな手段でも良いので存続してほしい。
528	東青②	<p>青森県、浪岡地域への貢献度という観点からは、浪岡高校は大変貢献している。</p> <p>バドミントン部の卒業生の進学先は、青山学院大学や日本大学、金沢学院大学となっており、また、浪岡高校からの大学進学は31名となっているが、県外大学はバドミントン部の生徒5名、県内の短期大学や専修学校、各種学校に26名進学しており、青森県に貢献している。さらに、浪岡高校からは就職率にして100%となる26名が就職しており、県内就職は21名、県外就職は3名、自衛官2名に留まっている。知事も若者の県内定着を進めているが、浪岡高校はほとんどの生徒が県外流出していないことから、これだけ貢献している高校はあるかという点も踏まえて検討してほしい。</p> <p>浪岡中学校生徒が浪岡高校に進学するのは、学力以外に、授業料など経済的な側面がある。浪岡中学校の生徒は浪岡高校に徒歩と自転車通学できるが、青森西高校や青森北高校と統合した場合、通学費が生じ家計を逼迫することも加味して統合を考えてほしい。</p> <p>3年ほど前から偏差値も極端に上がっている。今や県外就職者が多い高校ではなく、ほとんどの生徒が上級学校を目指して勉強している。これらを踏まえ、検討してほしい。</p>

No	区分	提出された意見等
529	東青②	<p>浪岡高校と青森西高校が統合して、閉校前までは浪岡高校に入学したような生徒が、青森西高校に入学できるかという点、10ポイント以上の偏差値の差があり到底無理だろう。このような生徒は、よほど頑張らなければ旧青森市内の高校には入学できない現実がある。浪岡高校には、社会情勢、学力、家庭環境等の理由で、県立高校での教育を希望する生徒が入学している。県教育委員会は、このような生徒が県立高校で教育を受ける機会を奪い私立高校へ行かせるつもりか。それを県教育委員会が第2期実施計画として実行しようとしている。</p> <p>県教育委員会が言う充実した教育環境の整備とは、どのレベルの、どのような生徒に充実した学習環境を提供するということか。進学校だけを残すような計画は、あまりにも暴力的な考え方である。浪岡高校を希望する生徒を温かく見守るような計画をお願いしたい。この計画(案)には断固反対であり、浪岡高校の存続を希望する。</p>
530	東青②	<p>計画(案)では、統合校の方向性や目指す姿等が記載されているが、全て浪岡高校へ当てはまると考える。スポーツも個性や能力を伸ばすという点では同じである。浪岡高校は通学面等で教育環境が良いと思うが、なぜ閉校しなければならないのか。</p> <p>令和8年に開催される青森国民スポーツ大会での全国制覇に向けて生徒が頑張っている中、大会終了後、すぐに閉校となることは、生徒が可哀想ではないか。第2期実施計画を10月頃に決定する必要があると説明があったが、計画期間の5年間で、一旦浪岡高校は配置することとした上で、どうすれば存続できるのか検討すべきではないか。</p>
531	東青②	<p>旧浪岡町が旧青森市と合併をした後の現在の浪岡地域と青森地域の状況を見れば、浪岡地域に高校は必要である。</p> <p>教育改革と言うなら、15～18歳の大人になっていく過程の生徒の育成に向け、これまでの教育を踏まえてこれからの教育をどうするか示すことが教育改革だと思う。青森市全体の行政を考えたときにも、是非、浪岡高校を存続し、地域の新しい発展を作り出していくことが必要である。</p>
532	東青②	<p>県教育委員会がこれまで取り組んできた高校教育改革は、地域間格差を生んでいる。弘前実業高校藤崎校舎を閉校して柏木農業高校に集約したり、弘前中央高校の定時制課程を廃止して尾上総合高校に集約したりするなど、なぜ平川市の住民だけが良い思いをするのか。藤崎校舎の閉校により、近隣のりんご農家が被害を受けている。県立高校の教育費は県税で負担しているため、地域間格差を生むような教育制度の在り方は、非常に問題である。第2期実施計画においても、浪岡高校を青森西高校へ統合することで、青森地域の生徒だけが有利になる。浪岡地域の生徒は地域外への通学、状況によっては下宿生活も余儀なくされ、精神的・身体的な負担や保護者の経済的負担が非常に大きくなる。高校は地域の文化、産業、経済を支える使命があり、浪岡高校があるおかげで、他の地域から生徒が入学している状況もある。これまでの高校教育改革どおりに進めることで、浪岡地域の過疎化を進めることになる。生徒に等しく教育の機会を提供することが公教育の役割であり、不公平となる計画には反対である。</p>
533	東青②	<p>青森北高校と青森西高校を統合するという意見があったが、青森地域の友人等も、自転車でも15分～20分程度なのだから統合すれば良いと同じことを言う。青森北高校今別校舎の閉校や上磯地域への配慮が必要だと言うが、浪岡高校でも同様のことが言える。中南地区からも浪岡高校へ通学している状況があり、この地理的好条件を生かすべきではないか。黒石商業高校が閉校になり、商業コースが設置された浪岡高校が閉校となることで高校の選択肢が少なくなるため、子どもたちが可哀想であり、再考してほしい。</p>
534	東青②	<p>青森西高校の校舎を使うと説明があったが、青森西高校の最寄りの駅が3駅しか変わらないのだから、浪岡高校の校舎を活用しても同じだと言える。浪岡高校の校舎を活用すれば、中南地区からも生徒が入学することが考えられる。2学級しかない高校に進学したいという生徒は増えない。6学級の統合校を浪岡高校の校舎を活用して設置した場合、中南地区の生徒が入学するかどうかといった検討がされていない。</p> <p>浪岡高校を除く青森市内の全ての高校と浪岡高校を比較することが、浪岡高校を無くすことありきの説明である。</p>
535	東青②	浪岡高校の存続を強く望む。
536	東青②	結論ありきはやめてほしい。浪岡高校の閉校は反対である。浪岡地域自治体の終了に合わせてるように、閉校を提案することに対して腹が立つ。
537	東青②	浪岡地域に高校を残してほしい。
538	東青②	浪岡高校の統合には大反対であり、再考を願う。
539	東青②	浪岡高校の存続を希望する。

No	区分	提出された意見等
540	東青②	浪岡高校の存続を願う。
541	東青②	浪岡高校の統合案について、白紙に戻すことを望む。
542	東青②	統合案については、断じて反対であり、再考をお願いする。
543	東青②	浪岡高校が少人数だからと言って、数年後に浪岡高校を無くすことに対して、誰もが反対だ と思う。家の都合で浪岡高校にしか入学できないなど様々な事情もあることを考えてほしい。
544	東青②	浪岡高校を絶対に残す。
545	パブコメ	浪岡高校の閉校に当たって、どうしても県立高校に入学したいにもかかわらず、青森西高校 に学力の面で入学できない生徒はどこかの学校を目指せば良いのか。また、家庭の事情により私 立高校に通えない生徒や、電車やバス通学ができない生徒は、どこの高校に進んだら良いの か。実態に即していない高校の統廃合計画は、法の下での平等、公教育としての県立高校で教育 を受けるスタートラインに立つ機会そのものを奪うものであり、裕福な家庭や高学力の生徒の みを対象としたものである。このような不平等な計画は認められない。
546	パブコメ	私の父、妻、私自身も浪岡高校を卒業した。息子は小学校4年生だが、浪岡高校を卒業し て、専門学校に入り、美容師を目指すと言っている。浪岡高校が無くなるかもしれないと 話をしたら、どうしても入りたいと言っている。県教育委員会は、子どもの夢を奪う権利があ るのか。子どもに何かあったら責任を取れるのか。浪岡高校を残してほしい。子どもの夢を奪 わないでほしい。
547	パブコメ	県教育委員会は「教育」と「まちづくり」を分けて考えている方が多いと思うが、この2つ は切り離して考えられない繋がりを持っているように思う。良い「教育環境」を作るのは良い 「地域環境」が必要で、良い「地域まちづくり」には若い「学生の活気」が必要である。この 2つの繋がりは無くてはならないものである。 少子化、人口減少は青森県だけの問題ではなく世界規模で起こっている問題であり、生徒数 の減少も浪岡高校だけの問題ではなく県内全高校あるいは小・中学校の問題でもある。そのよ うな中、統合のターゲットとして、わざわざ県内津軽地域主要都市を周りに持つ浪岡地域の歴 史ある高校を選び、浪岡地域の子どもたちから教育の場を奪う行為・計画には納得がいかな い。 平成25年に商業科の募集停止をしてから浪岡高校志願者数が減少しているのは、配布資料 を見れば明らかであり、今回の計画を進める上で、「結論」に向けての根回し的な流れも見え てくる。 昨今のコロナ禍において、江戸時代からの創業で175年の歴史ある「割烹武蔵屋」が廃業 せざるを得なくなった。この状況は、東京都の「飲食店への一律対応」により引き起こされた ものである。もっと各店舗の状況を見極めて店舗ごとに適切に対応していれば、その長い歴史 に幕を閉じることはなかったはずである。当事者からしたら苦渋の決断であったかと思うが、 行政が「情」を持って接していたらいくらかでも回避できた状況でもある。この状況が今の浪 岡高校にも当てはまる。浪岡高校の歴史・魅力に気付かず、このまま閉校とするのは非常にもっ たいない。 「情」が入りすぎると物事が進みにくくなることもあるが、「情」が感じられない物事はそ れ以上にうまく進まない。そのためにも、まずは計画（案）の凍結もしくは延期・内容変更を 強く望む。議論の場が足りない。事務的・機械的ではなく、もっと「情」を持って接してほし い。
548	パブコメ	計画（案）では浪岡高校が令和10年度末で閉校となるとしているが、教育を受ける機会均 等という観点から意見を述べたい。 浪岡地域は、青森地域、弘前市、黒石市等と隣接し、地域外の高校へ通いやすいようにみえ るが、浪岡地域は交通の要衝として発展してきた歴史から、大釈迦をはじめとして王余魚沢、 細野、本郷、増館、吉野田の各地域は浪岡地域の中心から放射状に集落を形成しており、そ れぞれの地域からの移動には交通体系上、公共交通機関の便数が少ないなどの制約がある。ま た、浪岡地域の中心まで移動するとしても時間がかかることに加え、積雪期間においては自転 車の使用がままならないため、高校生にとっては自由な移動も制限されることになる。浪岡地 域のこれらの地域から公共交通機関の乗り換えもなく通える場所に高校があるということは、 教育を受ける機会を確保するという点で重要と考える。 以上により、浪岡高校の閉校に異を唱えるものである。
549	パブコメ	浪岡高校はバドミントン部が強く、浪岡中学校から継続して地元の応援も手厚い。また、他 県からもバドミントンをするために来ている子たちもいる。バドミントンを通して、学校、地 元が結束してるため、その核となっている浪岡高校を是非、存続してほしい。

No	区分	提出された意見等
550	パプコメ	浪岡高校が統合により閉校になる案には賛同できない。 生徒数が減るのが予測できていたのに、具体的に何もしてこなかったのではないかと。各学校の普通科を1学級減らして入試の倍率を調整する等、生徒が一つの学校に集まらないようにしたら良い。 浪岡高校はバドミントンに関する活動に特色がある。浪岡中学校にバドミントンをするため全国から生徒が集まり、そのまま浪岡高校に進学する生徒もいる。 他地区の懇談会の状況を考えると、現時点での統合はあり得ない。 浪岡高校と浪岡地域の関係においては、祭り等で非常に深く関わってきており、浪岡地域になくてはならない高校である。
551	パプコメ	心の通った教育による学力向上が期待されるため、浪岡高校は2学級規模でなく1学級規模が良い。少人数のゆとりある教育を行うことで、脱落する生徒がいなくなるとともに、教育環境も向上する。 また、現在の教職員数では教育課程を着実に実行できないため、教育ボランティアではなく、正規の教員を増員することはできないか。それもまた、脱落する生徒を減らすことができるのではないかと。 数合わせ的な教育環境づくりではなく、全ての生徒に目が行き届く教育環境の整備を望む。 現在、浪岡高校は最大時の4分の1の規模であるが、社会環境が改善されることで明るい未来がある。ゆとりある教育で少数でも可能な教育環境の整備が必要である。
552	パプコメ	青森西高校は浪岡高校と統合した場合、事実上閉校ということとなる。その統合案ではなく、現在の青森西高校を存続し、浪岡高校と統合して1学級増してはどうか。
553	東青①	青森西高校を歴史ある浪岡地域にある浪岡高校へ統合し校名を浪岡高校に変え、高校の活性化を図るということも一つの案だと考える。
554	東青①	浪岡高校を是非存続してほしい。浪岡地域には歴史があり、青森市が合併した経緯の中で大きなエンジンとなっている。農業をはじめ、様々な分野で青森市は浪岡地域と一緒に発展していこうという思いである。また、浪岡高校バドミントン部をはじめ、様々な人材が全国から集まっている実績も大きい。 青森西高校との統合案が提示されているが、青森市には県立高校と私立高校が多数ある中で、浪岡高校は特徴を持った高校であり、この浪岡地域に統合校を設置しても良い。
555	東青①	青森西高校と浪岡高校が仮に統合したときに、どのような特色のある高校にしたいのかが全然見えない。現在、浪岡地域の住民は、地域に協力しており、浪岡地域の一員として浪岡高校の生徒が高校生活を送っている。浪岡高校の生徒が青森西高校へ行ったときに、そのような思いで高校生活を送れるのか。
556	東青①	県教育委員会では、浪岡高校を青森西高校へ統合しようとしているが、浪岡高校の方が青森西高校より先に歴史、文化など様々なものを継承してきた。どのような意見から統合案が出されているのか分からないが、県教育委員会では実情を分かっているのか。
557	東青①	第2期実施計画(案)では浪岡高校と青森西高校を統合するという形で示されたが、浪岡地域では、浪岡高校が閉校になるものと捉え、統合になるとは誰も思っていないため、統合校の設置場所について一度アンケートを行い、意見をまとめ提示してくれた方が住民としては分かりやすい。
558	東青②	確かに浪岡地域は人口が少なくなったが、これは全国的な問題である。県教育委員会には、生徒数が減少する中、浪岡高校の生徒数の課題をどのようにしたら解決できるのか、青森西高校や青森北高校の得意な分野を浪岡高校の校舎を活用して実践できないかなどを検討してほしい。 コロナ禍において、青森市長を先頭に浪岡地域の発展に取り組み、夢のある地域にしようとしている最中であり、今後、県内の高校を1校でも多く閉校させないよう、旧青森市内や中南地区から大規模校の専門分野を浪岡高校に取り入れることなどを議論すべき。 県教育委員会として、商工会や諸団体を通して妙案を示すことなど考えられないか。統合ありきではなく、今まで以上に栄えのある浪岡高校の存続について、再度考えてほしい。
559	東青②	浪岡高校の魅力化にもっと真剣に取り組んでほしい。
560	東青②	浪岡高校が魅力ある学校になるための取組がなかった。
561	東青②	統合ありきで進められるのは許せない。学級減で対応する方向で考えてほしい。

No	区分	提出された意見等
562	東青②	浪岡高校が存続するのであれば、1学級だと行事等でかなり不便さを感じる。2学級維持をお願いしたい。
563	東青②	浪岡高校に新しい学科を作るのは難しいと思うので、2年次からのコース制を維持してほしい。スポーツコースを新設することなどが考えられる。
564	東青②	浪岡地域には中学校、高校と一貫した連携型スポーツとしてバドミントンがあり、地域住民である指導者も数多くいることから、スポーツ科学科を作ってはどうか。
565	パブコメ	<p>少子化による高校入学者数減に伴い、学級数削減、学校統合だけで、健全な教育環境を今後維持できるのか。コミュニティースクールの展開を考慮し、学校課題、地域課題解決に向けた、これからの時代における学校の果たすべき役割が考慮されているのか。全国募集における地域間の生徒募集競争に打ち勝ち、選ばれる魅力ある高校への展望はあるのか。「アフターコロナ時代」に対応したICT活用方法が、計画(案)に盛り込まれているのか。高校運営コストの最適化を図れるか。これらの観点から、浪岡高校を存続すべき。存続に当たっては、以下のことを検討してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の健全な発展の為に、閉校としない地域校を設置(コミュニティースクールの導入、市町村教育委員会と連携による小・中・高の連携、浪岡中学校区学校運営協議会と浪岡高校学校運営協議会の連携) ・ICTによる遠隔授業「遠隔授業「教科・科目充実型」を正規の授業として制度化」(平成27年4月)を活用し、小規模校・地域校でも多様性のある授業を受講できる環境を整備(遠隔授業の教員とクラス担任の教員のチームティーチング制度、重点校に遠隔授業専属の教員配置し複数校で受講) ・部活動の多様性を維持できる、近隣校との連携の在り方 ・他地域から選ばれる、魅力ある高校づくりに向けた学科の設置(特別進学コース、スポーツコース、特定の専門学科等の小規模校・地域校に特化した魅力ある学科・コースの設置) ・地域との連携(学校をサポートする地域主導型のコミュニティ・ビジネスの奨励、民間による寮運営の県市町村のサポート体制構築や補助金、非課税制度等の公的支援、特別進学に特化した学習環境支援体制への支援)
566	パブコメ	<p>私が在籍していたころの浪岡高校は、商業科や進学コースなどもあり、浪岡中学校の出身者が多く入学していた。</p> <p>しかし、現在は普通科しかなくなったことで特色も無くなり、入学する生徒も30人前後と少なくなった。また、部活動数も少なくなったことから、計画(案)において閉校することになったのだと推測される。</p> <p>段々と特色が無くなり、浪岡高校の魅力が無くなってしまっているが、現在の状況に至るまで魅力づくりができなかったのだろうか。残念でならない。</p> <p>従来から強かった野球部には部員が集まらず、近年は他の高校と連合を組んで県大会に出ていると聞いた。しかし、バドミントン部については全国大会で団体と個人で優勝するなど脚光を浴びており、県外からも生徒が集まってきている。こうした状況について、県教育委員会が把握できているのか気にかかる。</p>
567	パブコメ	<p>青森北高校、青森西高校は約4kmの距離に位置しており、どちらも定員割れ、もしくは、定員ぎりぎりの状態である。それならば、なぜ、同じ沿線上にあり3駅しか離れていない青森西高校を浪岡高校に移転しようと考えないのか。</p> <p>弘前市内には普通高校として弘前高校、弘前中央高校、弘前南高校があり、いずれも難易度が高い高校であることから中学生が悩んでいる。これは、岩木高校が閉校となったためではないか。このことから、浪岡高校に青森西高校を移転させれば、中南、西北地区の中学生の流れが変わる可能性もあるのではないか。</p> <p>郡部の地域経済のことも考えてほしい。このままでは、ますます市部と郡部の経済格差が生まれてしまう。青森工業高校跡地のように、青森西高校跡地を分譲するなど利用方法は様々ある。</p>
568	東青②	<p>存続させるための提案として、生物生産、環境工学、機械工学、食品科学、環境土木、ITに関する学科を設置し、校名を浪岡農業高校にしてはどうか。近隣には柏木農業高校、五所川原農林高校があるが、青森市にとっては奥羽本線やバスなど交通の面でも生徒にとって通学しやすい環境にある。</p> <p>浪岡農業高校で勉学に励み、その後指導的立場になって浪岡地域を全国に発信し、若者は積極的に農業に従事する流れを作してほしい。働きながら農業を学ぶ定時制課程も復活してはどうか。浪岡地域のシンボルとも言える高校、登下校中の生徒の姿が明るい街づくりにつながっており、その光景を無くしてはならない。</p>

No	区分	提出された意見等
569	パブコメ	浪岡高校に、長らく望まれていた生産、加工、流通を一貫して習得できる「農業6次産業科」を創設してほしい（場合によっては、4年制、5年制も視野に入れても良い）。その背景としては、日本を発展させるための国策として「地方創生」が掲げられ各地域で「地域振興」に取り組んでいる中、青森市は浪岡地域にコンパクトシティの拠点を配置し地域活性化を目指している。また、浪岡地域の特性として、りんご、稲作、野菜等の農業が活発であることや、津軽一帯の交通の要衝であること、北畠氏などの歴史がある。学校の経営方法については、NPO法人を立ち上げ、教育行政（主に経済支援）と共同で運営してはどうか。また、加工施設や流通ルートの確保や人材を確保した上で、生徒は適宜実習を行いながら、スマート農業、栄養学、マーケティング等の技術や資格等を習得し、農業全体を把握した上で、次に進む道を見つけて夢を持って進学、研究、就職してはどうか。
570	東青②	魅力ある高校をつくるというのであれば、なぜ全国唯一のりんご科を有する弘前実業高校藤崎校舎を廃止したのか。また、弘前実業高校の農業経営科も募集停止することとなっている。柏木農業高校があるから仕方ないのかもしれないが、津軽平野の中心で人口が一番多い弘前市内の高校に農業科が全くなくなるのはいかがなものか。地区懇談会参加者から提案のあったように浪岡農業高校として設置すれば、計画（案）にある魅力ある高校を作れるのではないかと。青森県は全国に誇れる農業県であり、県庁所在地に農業高校があっても良い。
571	東青②	青森工業高校と統合して浪岡工業高校として、浪岡高校の校地へ設置してはどうか。県内様々な地域から生徒が集まることになり、浪岡地域の教育環境の向上や地域の活性化、JR浪岡駅の利用者増につながる。浪岡高校が閉校となることで、JR浪岡駅の利用者が少なくなれば、収入も減少し、いずれは無人駅になる可能性も出てくる。今でさえ浪岡地域の過疎化が進んでいるのに、さらに過疎化が進むと大変なことになるため、工業高校とする方向性で検討してほしい。
572	東青②	統合時点で6学級とせず、少しずつ学級数を増やすことも検討してほしい。特色ある学科の設置等、県教育委員会としても浪岡高校の存続に向けた方策を考えてほしい。
573	東青②	魅力ある高校づくりとは何か。浪岡高校の魅力づくりのため、教育委員会で指導してほしい。
574	東青②	浪岡高校の存続についての努力が全く不足している。今からでも遅くはないため、新規の課程を設けるなど考えてほしい。
575	東青①	地区意見交換会では、青森西高校と浪岡高校を統合する場合と、青森北高校と浪岡高校を統合する場合の意見があったが、市内中心部に半径3キロから5キロの近い距離にある青森北高校と青森西高校について、同じ男女共学の普通高校を2つ残すという明確な理由があるのか疑問に思う。
576	東青①	東青地区については、地域バランスを考え、青森北高校と青森西高校を統合し、普通科を4学級減するのがベターだと思う。
577	パブコメ	現在、浪岡高校に藤崎町と板柳町から何名入学しているのか。
578	東青①	第2期実施計画（案）策定時点の令和4年度の中学校卒業生数の見込みが2,492人となっているが、平成29年度の第1期実施計画策定時点においては2,458人であり、県が試算した数字より減っていない。このような中で、なぜ浪岡高校が統合となるのか。東青地区の入試倍率が1倍を超えている状況であるが、説明では浪岡高校閉校ありきの試算しかしていない。
579	東青①	今の中学校3年生の県内生徒も浪岡高校は統合と報道されると不安で受検しない生徒が増えることが予想され、更に入学者数が減少することになる。
580	東青②	黒石市や弘前市、藤崎町、旧青森市から通学可能な利便性がある浪岡高校への志願・入学者が、なぜ減り続けているのか。これは、平成12年度から具体化した県教育委員会の高校教育改革実施計画、特に平成21年度の第3次実施計画（前期）以降、町村部の小規模校が閉校となったことで、生徒や保護者の心理的な影響があることや、現在、青森市、弘前市から私立高校のスクールバスが頻繁に通っており、私立高校との競合の影響が大きいことが理由ではないか。
581	東青②	ここ数年、浪岡高校に生徒が入学しにくくなり、浪岡高校への進学を考えるより他市町村の高校へ進学する方が良いと、地域住民からの声がある。

ウ その他

No	区分	提出された意見等
582	上北	青森南高校の「グローバル探究科」について、他県の探究科(山形県)では単位制を導入している。青森南高校でも単位制を導入し、探究に関する科目を幅広く開設するなど特色ある教育活動を進めてはどうか。
583	パブコメ	スポーツ科学科における専門教育は東青地区で成功しているのか。

【青森県立浪岡高等学校の存続を求める要望書】

(令和3年7月8日付 青森市長 外1名)

青森県教育委員会が令和3年7月7日に公表した「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)」によると、青森県立浪岡高等学校(以下「浪岡高校」)は、青森県立青森西高等学校との新たな統合校の開校により、令和10年度末をもって閉校することとされている。

これまで東青地区で3回開催された同計画に関する地区意見交換会では、委員の方々から統合に関して懸念や提案が示されているが、残念ながら同実施計画(案)ではそれらが反映されているようには見受けられない。

浪岡高校は、昭和5年に前身である青森県浪岡村立浪岡女子実務学校が創立されて以来、これまで12,707名の卒業生を輩出してきており、令和2年度には創立90周年を迎えた伝統と歴史ある高等学校である。

また、バドミントン部は、全国大会で団体・個人ともに優勝するなど目覚ましい成績を挙げており、現在、同部へ所属する生徒21名中、17名が県外出身者となっている。

このように、浪岡高校のバドミントン部が好成績を取ってきた背景には、浪岡地区において第32回(昭和52年)青森国体のバドミントン競技の主会場となるなど、バドミントンが地域に根差したスポーツとなっていたこと、また、優秀な指導者や施設にも恵まれ、ジュニアの若い世代や中学生が全国で活躍してきたことは言うまでもない。

こうした中での浪岡高校の廃校は、浪岡地区におけるバドミントン競技の象徴的な存在である同校バドミントン部が失われることのみならず、全国から同部を希望し集まってくる生徒の受け皿を失うこととなるため、青森市としては極めて遺憾であり、断じて受け入れられるものではない。

以上を踏まえ、次の点について強く要望する。

- 1 浪岡高校を存続させること
- 2 浪岡高校バドミントン部に入部を希望する県外生徒を受け入れるため、全国からの生徒募集制度を導入すること

【要望書】

(令和3年7月16日付 日本共産党青森市議会議員)

青森県教育委員会は、県立高校再編の第2期実施計画(2023～27年度)案を発表し、青森西と浪岡の統合校を27年度に新設し、28年度末に浪岡を閉校するとしました。浪岡地区住民からは、同じ東青地区とはいえ、山を越えた浪岡高校が無くなることによる不安と、存続を求める声が多数寄せられています。

浪岡高校は、全国屈指のバドミントン部があり、全国から多数の生徒が入部されている現状にあります。また、浪岡地区のイベント等への協力や、ボランティアとしての参加など、地域コミュニティへの中核的役割をはたしています。

和嶋教育長は、「成案前提ではない。意見を一つ一つ丁寧に検討していく」と述べています。そうであるならば、浪岡地区住民の切実な声として、浪岡高校の存続に、是非ともご配慮いただきますよう強く要望いたします。

- 一 浪岡高校を存続すること。

【青森県立浪岡高等学校の存続を求める要望書】

(令和3年8月5日付 青森市議会議長)

先般、青森県教育委員会が公表した「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)」の中で、青森県立浪岡高等学校(以下「浪岡高校」という。)は、青森県立青森西高等学校との新たな統合校の開校により、令和10年度末をもって閉校されることが示されました。

浪岡高校は、昭和5年に創立されて以来、これまで1万2千名を超える卒業生を輩出しており、令和2年度には創立90周年を迎えた歴史と伝統のある高等学校であり、浪岡北畠まつりでの同校によるねぶた運行をはじめ、りんご花まつりや地元ボランティア活動など、地域が主催する祭りやイベントなどに積極的に参画しており、浪岡地区のまちづくりにおいては、重要な役割を担っております。

また、地域の風物詩として平成2年から継続している同校の空き缶壁画は昨年で31回を数えますが、制作に欠かすことのできない空き缶は、地域の方々が毎日のように提供してくれたものであり、まさに地域と一体になって作り上げている学校行事として、地域の活性化に欠かすことのできないものとなっております。

第2期計画(案)に関する地区懇談会においては、令和3年7月19日の青森地区開催では80名を超える、そして7月30日の浪岡地区開催では170名ほどの浪岡高校の関係者や地域住民などが集まり存続を強く訴えるなど、地域でも閉校への反対熱が一気に高まっているところであります。

若年層の減少は、地域の振興発展に多大な影響を与えるものであり、浪岡地区の人材育成や地域の活力を維持する上で、浪岡高校の閉校は看過できないものであることから、同校を存続させるよう第2期実施計画(案)の再考を強く要望いたします。

【青森県立浪岡高等学校の存続を求める要望書】

(令和3年8月26日付 浪岡高校の存続を求める会会長)

青森県教育委員会が公表した「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)」において、浪岡地区唯一の高等学校である青森県立浪岡高等学校(以下「浪岡高校」)は、青森県立青森西高等学校と統合となり、令和10年度をもって閉校するとされています。

浪岡高校は、令和2年度に創立90周年を迎えた歴史のある学校であり、近年は、浪高祭の恒例イベントである「空き缶壁画」の活動を通じ、循環型社会の形成と地域の社会福祉に貢献したことを評価され、平成29年度には循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰を受賞しているほか、同校バドミントン部においては、全国大会で団体・個人とも優勝するなど、輝かしい成績も残しています。

また、地域の祭りやボランティア活動への積極的な参加など、これまで地域とともに歩んできた地域に無くてはならない唯一の高校であります。

今回の青森県教育委員会による浪岡高校の閉校計画案は、地域の活性化に逆行するものであり、本市のみならず、弘前市、黒石市等の周辺地域から入学する生徒をはじめ、同校バドミントン部へ入部を希望し、全国から集まってくる生徒の受け皿を失うこととなることから、地元として到底受け入れられるものではありません。

そこで、私達は、青森県教育委員会が公表した浪岡高校を閉校する計画案に反対し、同校の存続について7,068人分の署名を添えて強く要望するものです。

(2) 西北地区

ア 学校規模・配置

No	区分	提出された意見等
584	西北①	第1期、第2期、第3期(R10~R14)の実施計画において郡部から高校がなくなることが予測され、危惧している。私立高校を含み、五所川原市一極集中の高校教育となっているため、地域バランスを考えて教育方針を見直してほしい。
585	西北①	単純に高校を減らすだけであり、このままでは西郡から高校がなくなってしまう。このようなことでは西郡の教育推進にならない。
586	西北①	西郡から高校をなくさないように願う。
587	西北①	鱒ヶ沢高校は現在1学級だが、生徒数が減ってくると多分廃校になるだろう。木造高校を1学級減らすと3学級になり、受検生も少なくなり人気なくなり、将来的に西郡からは高校が1校もなくなるだろう。西郡から高校が1校もなくなることは許しておけない。
588	西北①	木造高校の学級減以外については賛同する案が多い。
589	パブコメ	地区懇談会に出席したが、なぜ、1学級減になるのが木造高校であるのか納得できなかった。 重点校という制度があることを先日知ったが、五所川原高校の5学級規模を維持し、五所川原工科高校に普通科を新たに設置しておきながら、木造高校の学級数を減らすというのは大きく地域のバランスを崩している。 私立高校含め高校が多数ある五所川原市と異なり、木造高校はつがる市唯一の高校であることをもう少し重く見てほしい。 先日、つがる市商工会青年部では木造高校の駐輪場の塗装のボランティアを行った。卒業生でない部員も地域の高校だからと多数参加してくれた。木造高校や生徒に携わる商売をしている人がたくさんいる。みんな高校の規模が縮小していくことで商売に影響が出ることを危惧している。地域に根ざした必要とされている高校である。どうか計画(案)の再考をお願いしたい。
590	西北①	木造高校が学級減の対象となる理由に納得ができない。一般的な感覚からすると定員充足率が低い高校が学級減の対象になるのではないか。
591	西北①	木造高校の1学級減の案には納得できない。理由が弱い。
592	西北①	五所川原高校が重点校という理由で学級減の対象にならず、木造高校が学級減の対象となることは、子どもたちも保護者も納得できない。
593	パブコメ	つがる市のPTA関係者として、つがる市民として、つがる市で仕事している立場として考えたときに、木造高校の3学級規模化はつがる市の今後の存続に関わることだと感じた。県教育委員会では、4学級規模が充実した教育環境を整備できる最低ラインだと示している。3学級となれば科目の減少はもちろんのこと、部活動の減少につながることは資料からも分かる。文武両道を掲げる木造高校から充実した部活動が無くなれば、入学を希望する子どもが減り、閉校・統合への一步を踏み出すことになるだろう。数年後、今の浪岡高校や大湊高校、むつ工業高校と同じ問題が発生するのは目に見えている。地域に高校が無くなるということは地域にとって死活問題である。 現状、木造高校は募集人員をほぼ満たしているということに加え、五所川原市からの通学者も多い。進学・部活・就職に対応し、文武両道を実践している普通科や総合学科は五所川原市にも無い。五所川原市には私立2校・県立3校の高校がある。そのような中、五所川原高校は重点校であるため、これ以上学級減できない、五所川原工科高校は再編したばかりなので学級減できないとの理由から消去法的につがる市に1校しかない木造高校を学級減の対象とし、閉校・統合へ向かわせていることは理解できない。
594	西北①	志願者が多く、文武両道である伝統校の木造高校を学級減とする理由が理解できない。木造高校は西北地区全域からの入学生を受け入れ、難関大学にも進学し、多くの卒業生を輩出してきた。木造高校の教育は西北地区の教育の基礎となっていることを県教育委員会も十分承知のはずである。木造高校の学級減は教育の機会均等の精神にそぐわなく、青森県の教育の大きな損失になる。第2期実施計画(案)は時期尚早と思う。
595	西北①	つがる市の中学校から約38%が木造高校へ進学しているが、約50%はつがる市以外の中学校から進学しているため、「単純につがる市の人口が減っているから」ということは、木造高校が学級減の対象となる理由にならない。

No	区分	提出された意見等
596	西北①	五所川原市から木造高校への入学者はかなり多いため、つがる市の人口減少は木造高校を学級減する理由にはならない。
597	西北①	1学級40人とはいえ、木造高校の学級減を行うことで部活動が成り立たなくなることや、つがる市の地域力が減退することが目に見えている。
598	西北①	木造高校にはつがる市の中学校から約38%、五所川原市近郊の中学校から約50%が入学しており、西海岸からの入学者も多く、一定の倍率を保っている。木造高校が伝統ある名門校と言われているのは、文武両道を掲げ、学業とともに部活動に大きな魅力があり、木造高校を第一志望としている生徒が多いためである。そのような中、1学級減により、子どもたちが進学先に悩む状況を作りたくない。
599	西北①	木造高校が学校規模の標準である4学級から1学級減となることで、5年後に更なる1学級減がしやすくなり、将来的に統合されるのではないかという懸念を皆が持っている。木造高校の1学級減が及ぼす影響はとて大きいので、4学級維持をお願いしたい。
600	西北①	木造高校は普通科目と専門科目を両方学べる総合学科であり、文武両道の精神を持っているため、確かな学力や健やかな体を育成できる。この素晴らしい環境にある木造高校の学級数を減らして、本当に学びたい、部活動にも勉強にも取り組みたいという子どもたちの進路選択幅を狭めるのはいかがなものか。是非、素晴らしい環境にある木造高校に多くの子どもたちが学べる道筋を残してほしい。
601	西北①	勉強面は重点校と連携して様々な取組ができると思うが、部活動はどうなるのか。木造高校が4学級から3学級になった場合、重点校と協力して部活動の減少を抑えられるのか。
602	西北①	基本となる高校において、充実した教育環境を子どもたちに与えるためには4学級は必要とすることであるため、何とか木造高校の4学級の維持をお願いしたい。
603	西北①	1学級減というのは少なくとも40～50人程度の生徒たちの木造高校で学びたいという夢が絶たれることに繋がり、このことは高校教育改革とは言えない。
604	西北①	木造高校がなくなれば、スポーツと勉強を両方できる高校がなくなってしまう。進学もしたい、スポーツもしたい、公務員試験等の就職も考えたいといった様々な希望が中学生にはあり、高校を選択するときに、木造高校は最適な高校である。木造高校が4学級から3学級になり、いずれつがる市から高校がなくなった際、市が廃れていく。つがる市が廃れれば、切磋琢磨する五所川原市も活気がなくなる。木造高校に廃校への一步を進ませるといのは、西北地区を衰退させることに繋がることを是非分かってほしい。
605	西北①	木造高校の1学級減に反対する。五所川原市の学校規模・配置とバランスが取れていない気がする。木造高校が学級減の対象となることは、受検者数からすればおかしいのではないかな。
606	西北①	木造高校は勉学と運動と両方ができる高校として重要である。
607	西北①	木造高校の生徒数、学級数を減らさないでほしい。
608	西北①	木造高校の学級減には反対である。
609	西北①	木造高校の1学級減は白紙撤回してほしい。
610	西北①	木造高校の受検者数と生徒数を減らさないでほしい。
611	西北①	地域の存続も踏まえて、木造高校の学級減は断固反対である。子どもたちの木造高校へ入りたいという意志を絶やすことのない学校作りを望む。
612	西北①	木造高校の4学級維持を強く希望する。木造高校は部活動も一生懸命であり、生徒たちも笑顔で礼儀正しい。勉強面でも、進学、就職どちらも選択でき、子どもたちにとっても幅広い選択肢がある。五所川原高校も素晴らしい高校であるが、就職という選択肢は一切ない。これでは子どもたちや各家庭の事情に対応できるものではない。
613	西北①	木造高校の学級減はしないでほしい。
614	西北①	木造高校の学級数、生徒数を減らさないでほしい。

No	区分	提出された意見等
615	西北①	もし鱒ヶ沢高校が県で示す地域校の基準を機械的に適用され、募集停止になった場合、西海岸から最も近い木造高校が頼みの綱と言えるのではないか。将来的な地域の状況を踏まえ、木造高校の学級減は全ての子どもに高校教育を受ける機会を保障する上でも見直すべきであり、是非4学級の維持を要望する。
616	パブコム	<p>今回の木造高校を1学級減にする計画(案)に反対する。</p> <p>その理由は、木造高校が西北地区で一番入学希望者が多い高校だからである。中学生の保護者としてみれば、入学を希望する中学生が多い木造高校の学級を減らすということが納得できない。西北地区には、現在県立高校が10校あるが、そのうち木造高校深浦校舎、中里高校、金木高校、鶴田高校、板柳高校は閉校される。残された高校の中でも、鱒ヶ沢高校は地域校となり、基本方針に定める基準を満たさなければ募集停止され、閉校になる可能性が高くなっていく。他の残される県立高校は、木造高校、五所川原高校、五所川原農林高校、五所川原工科高校の4校だが、これらの高校から2学級を減らすという計画(案)に愕然とした。理由としては、県教育委員会は学校規模の基準を1学年4学級としているからである。1学年4学級未満となれば、基準を満たしていない高校ということになる。現在、4校のうち4学級規模の高校は木造高校と五所川原農林高校、5学級規模なのが五所川原高校と五所川原工科高校であり、学級数を減らすのであれば5学級規模の高校とすべき。</p> <p>なぜ、わざわざ基準を満たさない高校数を増やすのか理解できない。</p> <p>西北地区に残された県立高校がわずか5校しかないのに、そのうちの1校は閉校し、更に基準を満たさない高校を2校増やす計画は、この地区をないがしろにする以外の何者でもない。</p> <p>地区懇談会に参加し、3学級規模になっても教育内容や子どもたちの活動内容は変わらないという説明があったが、県教育委員会が示しているデータとは異なる説明であり、全く納得できるものではない。何か、この地区の住民を騙そうとしているように感じた。結果的に、現在の案を進め、子どもたちが進路選択をするときに、希望する部活動が設定されていないなどの理由から希望する進路先がなくなった場合、県教育委員会の誰が責任を取るのか。私立高校に進学しろというのか。全く納得できないため、今回の計画(案)は白紙に戻した上で、もっと各地区の実情を考慮して、子どもたちのことを真剣に考えて、ただの数合わせで計画を作ることがないようにしてほしい。</p> <p>今回の計画(案)には納得できないため、反対する。</p>
617	パブコム	<p>木造高校の学級減、五所川原農林高校の学級減は中止してほしい。すなわち高校教育改革の白紙撤回を強く希望する。</p> <p>今回の木造高校の学級減は、つがる市の子ども数が減少していることを理由として説明していたが、子どもの減少はつがる市に限ったことではないはずであり、到底納得のいくものではない。</p> <p>子どもが少ない分、さらに充実した教育環境を提供していくことは必要不可欠である。学級数が減少することにより、部活動の選択肢も減る。木造高校は勉学と部活動の両立を実践し、さらに地域の催しにも参加することで、地域を愛する心が育まれていると感じている。地域住民との関りを通して木造高校の生徒は信頼され、互いに見守っており、私たちはとてもかわいらしく、誇らしく思っている。</p> <p>木造高校の生徒はみんな礼儀正しく、気持ちの良い挨拶をしてくれる。こういった何気ないことから、地域住民は木造高校の生徒を誇りに思っている。私の息子は目の前にある木造高校ではなく、五所川原高校に通学している。夏は自転車、冬はバスか自家用車での送迎で通学しており、幸い、自宅から五所川原高校までは公共交通機関があるため、さほど不便さは感じていない。しかし、居住地域によっては公共交通機関がない、あったとしても定期代が高すぎるなど通学に不便さや苦痛を伴っているケースがある。今は両親の共働き、母子家庭、父子家庭など様々な家庭環境があり、家庭に迷惑をかけられないとの理由で五所川原高校ではなく、木造高校に進学している例がある。子どもは将来の夢を叶えるためだけで、高校を選択しているのではなく、家庭の都合や家族を大切に思い行動している子どももいる。そのような考えができる子どもが木造高校を選んでいることに感心している。通学は親も大変である。自家用車での送迎であれば、自宅を出る前に朝食、身支度を済ませ、弁当を準備しなければならない。送迎後は、自分が出勤し、部活動があれば終わるのを待ち、一緒に帰宅している。親が残業になると、子どもはどこかで待っていなければならない。遠い所では1時間以上の通学となる場合もあり、帰宅後に夕食の準備、洗濯、入浴、片付けなどであっという間に深夜になってしまう。これでは、ワークライフバランスなど崩壊状態で疲労も溜まる。親の職業によっては、夜勤もあり得る。</p> <p>西津軽郡、北津軽郡は広く、冬は吹雪があることに加え、公共交通機関も充実していない。そんな中でも子どものためなら、応援できることは何でもしたいとの思いだけで頑張っているのが現状である。西津軽郡に木造高校を現状のまま存続させることの意味の大きさ、深さは一言では言い表せない。子ども、保護者、地域住民、これからの未来にとってなくてはならない高校である。</p>

No	区分	提出された意見等
618	パブコメ	つがる市は既に超高齢化が進展しており、つがる市の農業の担い手が不足している。つがる市は米やメロン、スイカ、りんご、ゴボウ、長芋など素晴らしい農作物が作られている。地元に残って農業を継いで暮らしていくことを選ぶ子どももいるため、五所川原農林高校の存続が必要である。子どもたちはたくさんの選択肢から選ぶことができなければならない。子どもの数が少ないから選択肢を狭めるとの説明は何の説得力もない。高校教育改革が子どもたちの明るい未来につながっていないことが理解できない。勉強、進学だけが高校卒業のゴールではない。木造高校、五所川原農林高校は、進学、就職のどちらも選ぶことができ、子どもたちの将来をよく考えて対応してくれる素晴らしい高校だと思っており存続すべき。
619	西北①	木造高校や五所川原農林高校の学級数減によって、子どもの選択肢に影響が及ぶことに不安を感じる。
620	パブコメ	なぜ、倍率が高く人気校である木造高校が1学級減なのか。ここ数年、定員割れをしている五所川原高校の学級数が維持されることはおかしい。地区懇談会では五所川原高校は重点校なので学級減できない、重点校は5学級以上を維持するとの説明があったが、そもそも、なぜ五所川原高校が重点校なのか、重点校になる条件はあるのかとの疑問を持った。 定員割れ等の状況にある五所川原高校を重点校から外し、木造高校を西北地区の重点校にしてはどうか。木造高校は旧制中学である第四中学校からの歴史があり、文武両道を実践する素晴らしい高校である。木造高校を重点校として5学級（1学級はスポーツ科学科）とし、五所川原高校は進学校を維持するためにも3学級にして学力向上に力を入れるべき。
621	西北①	木造高校は受検者数がおおむね定員を満たしているにも関わらず学級減の対象となり、定員を大幅に下回る五所川原高校等が学級減の対象にならない理由が分からない。重点校という理由で学級減できないのであれば、拠点校である五所川原農林高校が学級減の対象となる理由も分からない。学校規模の標準を下回ったとしても、高校の役割を果たせるのであれば、重点校である五所川原高校を学級減できるのではないか。
622	西北①	倍率が1倍を切っている五所川原高校を学級減とせず、木造高校を学級減とする理由が分からない。子どもが進学したい高校を学級減することは、子どもたちのことを考えていないのではないか。計画（案）において、「中学生のニーズ等に対応」としているが全く対応していないのではないか。
623	パブコメ	木造高校学級減の代替案として、五所川原工科高校普通科の学級減を要望する。同校の普通科は「五所川原高校に負けない進学校を目指す」ようだが、五所川原高校が定員割れしている中、同じく進学を目指す普通科は必要だろうか。元々は工業高校であり、普通科ができたからと言って難易度の高い大学への進路指導ができるとは考えにくい。西北地区において、「なぜ工業高校に普通科できたのか」という声も多数挙げられている。 今後の西北地区の人口減少を考えると、学級減は避けられない状況なのは理解できる。西北地区の教育環境を考えると、進学校が無くなることは避けたいというのが正直な気持ちである。次期実施計画のことまで考えても五所川原高校の5学級は維持すべき。地域バランスを考えた場合、木造高校の4学級を維持しながら五所川原高校と連携とするのが良い。 次期実施計画においては、さらに五所川原工科高校の普通科を学級減により廃止するとともに鱒ヶ沢高校の閉校により合計15学級にすれば良い。いずれは、五所川原工科高校と五所川原農林高校を統合し、技術系学科を集めて拠点校とすれば地域バランスがとれているのではないか。 今回、浪岡高校や大湊高校、むつ工業高校の統合案において問題となっているのは、当該市町村から学校が無くなるということである。私立高校を含め5校ある五所川原市が人口減少により4校になっても地域の住民は「仕方がない」と納得できるはずである。五所川原農林高校の学級減に対する反論者が少ないのが良い例である。しかし、市町村に1校しかない高校を無くすことには、住民はよほどのことがないと納得できない。ましてや五所川原市の高校と木造高校は電車で一駅の距離にあり同じ通学圏である。五所川原市からも木造高校に進学する子どもがたくさんいる。木造高校は鱒ヶ沢高校のように、僻地にあって進学希望者が少ない高校ではない。 木造高校を学級減させることは、第2の浪岡高校、大湊高校の問題を生むことになる。なんとか、つがる市に1校しかない木造高校の学級数を維持し、高校が5校もある五所川原市の高校を学級減してほしい。つがる市をつぶさないでほしい。過疎化が進む地域だが、頑張っている若者もいる。もう少し頑張らせてほしい。

No	区分	提出された意見等
624	西北①	<p>地区意見交換会では、「五所川原工科高校は開校したばかりだから、普通科の学級減はできない」という意見もあったが、そのようなことはない。五所川原工科高校の普通科は五所川原高校を追い越すために進学に力を入れているようである。進学に力を入れる普通科が同じ五所川原市内に2つも必要なのか。五所川原工科高校の普通科の在り方も検討すべき。「五所川原工科高校が新設だから普通科を学級減できない」、「重点校だから五所川原高校は学級減できない」ということを一旦ゼロに戻して、再度考えてもらえればと思う。</p>
625	パプコメ	<p>五所川原農林高校は農業科の拠点校であるが、今回の計画で3学科となるよう改編された。拠点校の学校規模の標準は1学科4学級とする理由として、学校としての活力を維持すること、専門学科の教育の質を確保すること等が考えられるが、3学級で拠点校としての役割が担保されるのか。3学級とする場合、優れた指導力を持つ教員の配置や、生徒に良い刺激を与える農業者やOB等の外部人材の助力が必要だろうと考えるが、そういった措置が前提なのか。なお、多くの県民に理解してもらえよう、回りくどい表現を省き、平易な言葉で回答を示すことを望む。</p>
626	パプコメ	<p>五所川原農林高校の学級減は賛成である。ただ、学科改編の対象となっている両科は以前から「林科（りんか）」「土木科（どぼくか）」の愛称で呼ばれており、「環境科学科」ではなく「森林土木科」の方が、地域的にはしっくりくる。</p>
627	西北①	<p>五所川原農林高校について、森林科学科と環境土木科を統合して環境科学科とし、1学級減とする案が示されたが、この案には強く反対したい。公務員として採用される生徒の割合が高い森林科学科と環境土木科がなくなることは、地域にとっても、本県、我が国にとっても大きな損失である。両科の統合及び学級減について、再考してほしい。</p>
628	西北①	<p>重点校である五所川原高校の学級減を検討すべき。再募集で定員を満たすことにより重点校の学力低下を招く。</p>

イ 統合に関する事項

特になし

ウ その他

特になし

【西つがる地域における青森県立高等学校の学級維持及び存続を求める要望について】

(令和3年6月2日付 つがる市長 外14名)

【要望の趣旨】

令和という新しい年号とともに、ここ西つがる地域では少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や過疎化の進行等、将来を見通すことの困難な時代を迎えている中、地域の将来を担う子どもたちのため、どのような教育環境を整えるべきか改めて関係市町として検討を続けたところであります。

青森県教育委員会では、令和5年度からの青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画について、昨年度県内各地域において意見交換会が行われ、今年度に当該計画策定の予定となっておりますが、西北地域では、青森県立中里高等学校が令和4年3月に、青森県立金木高等学校及び青森県立鶴田高等学校並びに青森県立板柳高等学校が令和5年3月に閉校することが決まっております。さらに昨年10月には青森県立木造高等学校深浦校舎の募集停止が決まるなど、西北地域全体において青森県立五所川原工業高等学校も含む6校が統合や閉校となり、西北地域の市町から学びの場が失われてしまうことに、強い不安と危機感を抱いているところであります。

西北圏域全体の教育環境、とりわけ西つがる地域の教育環境と地域の活力となる高校生の学習の場を守り、新しい時代を主体的に切り拓いていく人づくりをめざし、教育環境の質をいかにして確保・向上させ、魅力的な高等学校を維持していくためには何が必要なのか3市町で検討したところです。

西つがる地域全体として、以下の事項を要望します。

- 1 これまでに地域を支える多くの人材育成に取り組みながら地域経済に貢献し、これからの地域の文化や伝統の貴重な担い手を育成する役割も期待されている青森県立木造高等学校の4学級の維持及び青森県立鱒ヶ沢高等学校の存続を求めます。
- 2 等しく教育を受ける環境づくりとして、様々な環境にありながらも未来を担う子どもたちが等しく夢や志の実現に向けて希望する教育を受け、さらに新しい時代を主体的に切り拓いていく人づくりをめざすため、高等学校教育を受ける機会が損なわれることのないよう、西つがる地域の学校配置について最大限通学環境に配慮していただくことを求めます。
- 3 これまで以上に知事部局と教育委員会とが連携を強化し、知事部局が進めている地域活力振興、人口減少対策の視点を青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画に反映し、その施策と整合させることを求めます。
- 4 青森県立木造高等学校は、開校以来から文武両道を掲げ学業と部活動を両立させています。学校と地域との結びつきが強く、進学・就職において地元を支える多くの人材を育成しています。生徒数の減少は、本校の魅力のひとつである部活動の活性化に大きく影響を及ぼすとともに、学級数減少等により、学校全体の衰退につながる可能性が高いことから、学校規模の標準である4学級の維持を求めます。
- 5 青森県立鱒ヶ沢高等学校は、西海岸地域にある唯一の高校であり、深浦町からの通学も近く、地域の活性化の活動に欠かせない高校です。また、少人数の特徴を生かし、個々の生徒に対するきめ細やかな指導で成果を上げていることから、第2期実施計画において「地域校」になった場合は、高校存続を強く望みます。なおその際、地域校に課される募集停止人数枠の緩和について、特段のご配慮をお願いします。

【青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）に係る青森県立木造高等学校
学級維持を求める嘆願について】

（令和3年7月20日付 つがる市長 外5名）

【嘆願の趣旨】

青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）が令和3年7月7日に青森県教育委員会から公表されました。

青森県立木造高等学校は、旧制第四中学校から文武両道を掲げ、創立94年が経過した現在もその校風と実績は受け継がれてきています。西北地区の中学校からは、勉強と部活動の双方を頑張りたいという生徒が毎年入学し、過去5年間の第1次進路志望状況調査倍率は西北地区の中では1番高い状況です。

青森県教育委員会では、令和5年度実施の青森県立高等学校教育推進計画第2期実施計画（案）策定において、昨年度県内各地区で意見交換会を行っています。西北地区では、青森県立中里高等学校が令和4年3月、青森県立金木高等学校及び青森県立鶴田高等学校並びに青森県立板柳高等学校、青森県立木造高等学校深浦校舎が令和5年3月に閉校することが決まっており、西北地区全体において青森県立五所川原工業高等学校を含む6校が統合や閉校になることで、西北地区の市町から学びの場が失われてしまうことに、強い不安と危機感を抱いています。

西北地区全体の教育環境、とりわけ高校受検の倍率が1番高い青森県立木造高等学校の学級数減は、夢ややりがいをもって進路選択を考えている中学生にとっては、可能性を狭めてしまうことになりかねない深刻な問題です。

西北地区の教育環境と地域の活力となる高校生の学習の場を守り、また、新しい時代を主体的に切り拓いていく人づくりをめざし、地域と連携した魅力的な教育活動を推進している青森県立木造高等学校の学級数維持について、以下の事項を嘆願します。

- 1 青森県立木造高等学校は、開校当初から文武両道を掲げ、学業と部活動の両立を実践し、これまでに多くの地域を支える人材育成に取り組みながら、つがる市唯一の高等学校として地域経済に貢献しているほか、縄文文化など地域の文化や伝統の貴重な担い手を育成する役割も担ってきています。

今回の青森県立木造高等学校の学級減の案は、伝統ある学校の魅力であり文武両道の一翼を担う部活動の活性化に多大な影響を及ぼすだけでなく、地域とのつながり、ひいては学校全体の活動の衰退につながります。

青森県立木造高等学校は、青森県立高等学校教育改革推進計画に則り、総合学科の特徴と方向性を最大限に生かし、大学進学志望者や就職希望者に対応できる教育課程の編成や生徒のニーズ等を踏まえた系列のほか、産業社会と人間の時間、総合的な探究の時間等を活用し、地域の課題解決に主体的に取り組み、県事業のほか地域の団体、企業、市役所等と連携を図りながら、その成果を収めてきました。

また、中学生の将来の進路選択肢の確保のために、

- (1) 幅広い進路選択に対応する高校
- (2) 選抜性の高い大学への進学に対応する高校
- (3) 実践的な職業教育に対応する高校

として学校経営を進めています。令和3年3月の卒業生は国公立大学や公務員希望者への学校独自の取組により、自然科学・人文科学系列では国公立大学29名を含む、学校全体では進学率70%以上、公務員は29名と全体の20%を占める成果を上げているほか、情報・流通ビジネス系列では資格取得の取組など、すべての方向性を取り入れた学校づくりを進めています。

このことから、現状の学校規模の標準である4学級維持を求めます。

- 2 急速に進む少子化を背景においても、高校受検の倍率が西北地区で1番高い青森県立木造高等学校の学級減は中学生の進路選択に与える影響が非常に大きく、未来を担う子どもたちが等しく夢や志の実現に向けて希望する教育を受け、新しい時代を主体的に切り拓いていく人づくりをめざす青森県教育委員会が掲げる充実した教育環境を整えていくという方針と相違しています。

青森県立高等学校教育改革推進計画の西北地区では、青森県教育委員会の指定する重点校が、令和3年度の第1次進路志望状況調査において1学級の定員を超える50名以上が希望をしておらず、過去5年間を見ても1倍を超える倍率はわずか1年しかない状況です。

青森県立木造高等学校は5年間のうち、4年間で1倍を超える倍率を残し、平均1.17倍と中学生の進路志望状況調査では1番高く、地区の状況を鑑みても、おのずと希望者が50名以上少ない学校から1学級減とすることが妥当です。

- 3 青森県教育委員会の説明では、この高等学校教育改革は、第1期実施計画、第2期実施計画と合わせて10年間を見渡した総合計画としたと説明をいただきました。その中で、この7月に第1期実施計画は普通科と工業科、第2期実施計画では総合学科と農業科を対象に進めていくと説明をいただきましたが、意見交換会を含め、そのような方向性は一度も説明を聞いておらず、誠に唐突です。
また、他の地区では総合学科が学級減とならず、普通科が学級減となっていることから、青森県教育委員会の説明には矛盾があります。
普通科や総合学科は、授業形態及び授業の方向性にさほど相違がないことから、西北地区において普通科関係と専門学科関係に分けて総合的に考えた場合、普通科の学級を減ずることが妥当であり、普通科関係では、希望者が50名以上少ない学校または、新設された普通科を先に1学級減ずることが優先されるべきです。
- 4 西北地区の生徒数減少を考慮した青森県立高等学校教育改革推進計画なのであれば、将来的に青森県立五所川原高等学校や青森県立木造高等学校の学級数に影響を及ぼす可能性があったと考えられます。このような状況が想定できたのであれば、西北地区に普通科2学級を新設したことは理解しがたく、青森県立木造高等学校の学級数減よりも、希望者が50名以上少ない普通科または、新設された普通科の1学級減を優先すべきです。
- 5 青森県教育委員会の説明では、つがる市の中学生の人口減少に考慮して青森県立木造高等学校を1学級減としたとの説明を受けましたが、青森県立木造高等学校入学者の内訳は、つがる市からが約38%であり、約50%の生徒は五所川原市近隣の中学校から入学しています。西海岸地区からの入学者も多く、また、総合学科を含め、他の学科も地域枠を設けない県内全域募集となっており、説明には矛盾があります。
- 6 新設された普通科は、令和4年度に閉校される青森県立金木高等学校及び青森県立鶴田高等学校並びに青森県立板柳高等学校を考慮してつくられたものと考えていますが、今年度の高校入学試験において入学者の検証がされているのかが疑問であり、新設された普通科がある自治体以外の生徒の入学が多いのかについて、先に検証してから学級減を公表するべきです。
- 7 青森県立高等学校教育改革推進計画は、これまで以上に知事部局と教育委員会とが連携を強化し、知事部局が進めている地域活力振興、人口減少対策の視点を踏まえた青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画を策定するべきであり、その施策と整合させることを求めます。

(3) 中南地区

ア 学校規模・配置

No	区分	提出された意見等
629	中南	中南地区の高校入試における倍率は、県の平均1.0倍と比べ1.1倍と高くなっている。その状況にもかかわらず学級減をするということは、さらに倍率が上がることになり、オール青森と言いながら中南地区だけが受検で失敗し夢が叶わない中学生が多く出ることになる。
630	中南	私立高校の授業料実質無償化や経営努力により、私立高校を志願する生徒数が増えてきている中、学級減を行う理由があるのか。また、学級減の対象となった3校については、地区意見交換会において一切校名が出されていない。あと1、2年様子を見てから判断する必要があるのではないのか。
631	中南	中南地区の中学校卒業予定者数が150人程度減少する中で、せめて倍率が6地区の中で2番目に高い三八地区程度となるように設定したり、適正と考える倍率の範囲を示したりしてはどうか。
632	中南	中南地区において、第2期実施計画における学級減は絶対にやってはならない。志願者数が県内でも多いため、選択肢を縮小すべきではなく、次期計画まで推移を見て判断すべき。
633	中南	中南地区において、中学生の数が減ること、普通科と職業学科のバランス、他地区からの流入数等を勘案すればこのような計画になる。
634	パブコメ	普通科の少ない中弘南地区で弘前南高校を閉校とする動きがあることが全くもって理解できない。弘前高校と弘前中央高校の2校に進学希望者を集約して少数精鋭での声もあるが、そもそも学校数が減れば、この地区全体の進学希望者の数が確実に減る。そうすると今度はこの2校のどちらかも閉校しなければいけなくなるだろう。やはり学校数にある程度の規模がなければ進学希望者が増えないし、生徒たちの競争意識も煽られない。「学校数を減らせれば質の高い教育を実現できる」という考えは安易で甘過ぎる。
635	中南	柏木農業高校の生物生産科については、弘前実業高校藤崎校舎のりんご科の学びを引き継ぎ、りんごに関する学びが充実したと伺っている。その後、弘前実業高校農業経営科の教育内容も引き継ぐこととなり、さらに生活科学科の学びを統合するとすると、教育の充実ではなく、希薄化するのではないのか。
636	パブコメ	第3次実施計画（後期）策定時、弘前実業高校藤崎校舎を閉校にして柏木農業高校に学びを引き継いだ。それによって、藤崎地区や浪岡地区、板柳地区、鶴田地区、田舎館地区、弘前市の一部の地区のりんご農家の子弟や農業を希望する生徒たちが、通学に長時間要することで、就学を断念せざるを得ないということが生じたと推測される。また、第3次実施計画（前期）策定時、弘前中央高校の定時制を募集停止し、その機能を尾上総合高校に移設するということがあった。弘前中央高校に定時制があったときは、生徒は昼間、雇用先の事業所が多くある弘前市内の職場でアルバイトなどで働きながら、弘前中央高校定時制に通学できたため、とても利便性が高かった。しかし、尾上総合高校に移設されたことで、通学に長時間かかったり、通学費が多くかかったりするため、働きながら通学することに困難を生じ、定時制で学ぶことを断念せざるを得ないということがあったと推測される。これまでの高校再編計画を見ると、平川市や旧尾上地区、黒石周辺地区の住民に有利になるような再編がなされてきている。同じ県税を支払っているのに、ある特定の地域の住民が良い思いをして、閉校になった地域の住民が色々な意味で不利益を受けるとするのは、非常に問題なのではないか。
637	中南	農業の必要性について地区意見交換会の場でかなり意見したが、柏木農業高校は学級減となった。また、倍率が高い弘前実業高校農業経営科を閉科しておきながら、柏木農業高校を学級減する理由は入学者数の減少に伴う倍率の低下によるものとの説明だった。言っていることとやっていることがちぐはぐである。全国募集においても、自分たちで県内生徒が入る高校を縮小しておきながら、県内中学生の入る枠を確保するために候補校を定めるというのはおかしい。
638	中南	柏木農業高校を1学級減しても、高校はなくならないかもしれない。しかし、3学級となった時点で、今後も更に学級数を減らしていくことが予想され、将来的には柏木農業高校は危機的状況となるだろう。
639	中南	柏木農業高校の倍率が低下しているのであれば、思い切って部活動の指導力のある教員を配置し、生徒を集めることなども考えられる。そのような指導力のある教員を10年配置した上で、またすぐに戻すという案も考えられる。

No	区分	提出された意見等
640	パプコメ	<p>「りんご教育」の維持を、青森県としてはどのように考えているのか。その上で、今回の計画（案）は妥当と言えるのか。</p> <p>全国唯一のりんご科をもつ藤崎園芸高校は、平成20年4月に弘前実業高校藤崎校舎となり、平成31年3月に閉校となった。その際、りんご教育は柏木農業高校の生物生産科に引き継がれ、現在はそれに対応した教育課程となっている。更に弘前実業高校農業経営科の閉科に伴い、これも柏木農業高校の生物生産科に集約することで進んでいる。</p> <p>一つの学科にいくつもの役割を課すと、学習時間確保の制約から重視しなくてはならない学習内容が薄まる危惧がある。これは、どの業種でも同じことが言える。</p> <p>計画（案）では、柏木農業高校の生物生産科に同校の生活科学科を「統合」することとしているが、それに伴う教育課程の再編により「りんご教育」が希薄化することや、県内唯一の生活科学科がなくなることに懸念があるため再考をお願いしたい。</p> <p>なお、「りんご産業」は、農業だけでなく他業種も絡んだ本県としては重要な産業である。その産業を担うための「りんご教育」への危機感は、過去の実施計画策定に伴う地区懇談会で多数の農家から意見が出されていることから明白である。</p> <p>したがって、例えば県農林水産部やりんご産業の盛んな自治体や企業・農業者等と共にりんご産業の継続・発展のために高校で何ができるかについて再考することが肝要と考える。知事が「攻めの農林水産業」を銘打つのであれば、その基礎となる次世代教育、特にりんご教育は何ものにも代え難いはずであるため積極的に検討してほしい。</p> <p>なお、多くの県民に理解してもらえよう、回りくどい表現を省き、平易な言葉で回答を示すことを望む。</p>
641	中南	<p>成案においても柏木農業高校が1学級減となるならば、「攻めの農業」と矛盾することになり、ジュノハート等で農業を盛り上げている農家の努力を潰すことになる。意見を持ち帰った後の10月の成案公表に期待したい。これで柏木農業高校の1学級減が変わらなければ、本当に青森県の農業は終わりだろう。</p>

イ 統合に関する事項

特になし

ウ その他

特になし

(4) 上北地区

ア 学校規模・配置

No	区分	提出された意見等
642	上北	<p>これまでの地区意見交換会における意見を取り入れたものとなっており、おおむね実施計画（案）に賛成である。</p>
643	上北	<p>計画（案）において、十和田地区の普通科8学級を維持するとしているが、十和田地区と比較しておいらせ町及び三沢地区の普通科の学級数は少ないのではないかと。</p>
644	上北	<p>重点校の三本木高校は、ここ数年倍率が低い状態にあるが、学級減の対象としないのか。三本木高校を1学級減することによって、定員割れの高校や倍率が低い高校へ生徒が入学するようになると考える。</p>
645	上北	<p>上北地区、特に十和田市は工業関係の企業も多いことから、地域の企業体力を維持するために十和田市の工業高校は今後も現在の学科を維持すべき。</p>
646	上北	<p>三本木農業恵拓高校普通科と百石高校食物調理科は志望者が多いと思われることから、今後も学級数を維持してほしい。</p>

No	区分	提出された意見等
647	パフコメ	<p>創意工夫により郡部の高校の存続と野辺地高校の2学級の現状維持を強く要望する。</p> <p>理由の1点目として、北部上北及び平内等隣接地域の地域創生の人材育成が挙げられる。北部上北・平内等の地域を継続的、発展的に創生していくためには、地域創生を担うための人材が必要となる。野辺地高校の卒業生は、これまで長きに渡り、この地域の町村行政・産業の担い手となり、当地域を発展させるべく、羅針盤として地域の方向性を考えてきた。</p> <p>2点目として、地域のスポーツ教育資産の継承が挙げられる。野辺地町、東北町の両町ではスキー競技、野辺地町ではハンドボール競技が小学校から盛んである。これらは地域が一体となって、小学校、中学校、高校と連綿に繋いできたスポーツ教育資産である。野辺地高校が1学級となることで、地域が継承してきたスポーツ教育資産は無くなる恐れがある。</p> <p>3点目として、所得格差による通学負担の軽減が挙げられる。近年、非正規雇用が増加している。国勢調査によると非正規雇用労働者の割合は、平成21年に15.3%であったが、令和2年には37.2%となり、約4割が非正規雇用労働者である。今後、母子家庭・父子家庭・生活困窮者も増えていることから、地元に通学できる県立高校があることが必要である。授業料無償化により金銭負担は少なくなったが、通学費は半年定期で野辺地駅から青森駅まで53,570円、三沢まで42,770円と決して安くはない。さらに、最近、新聞で報道されるヤングケアラーのように、核家族が一般的になり家族の介護・看護、家事を行っている生徒がいることを考慮すると、野辺地町の県立高校は2学級維持が必要である。</p> <p>4点目として、少子化は今後も続くものと考えられるため、少子化を前提とした県立高校の在り方を考えることが重要である。少子化のため、高校の再編計画を作り高校を統廃合しているが、郡部の高校を存続するための創意工夫が必要なのではないか。</p> <p>コロナウイルス感染症により、大学や企業ではリモートによる授業や業務を進めることが増え、リモート授業のノウハウが蓄積されている。また、ICTにより一部の授業を遠隔で行う事例なども新聞に記載されていた。小規模でも高校を運営していくためにこれらのノウハウを生かし、現在の郡部校を維持するといった工夫の余地があるのではないか。少子化だから、一律に高校を再編するというだけでは、その地域の人材育成は継続せず、郡部の地域や青森県はますます廃れていく。</p>
648	上北	今年度の野辺地高校の入学者数が35人となっているが、単年度だけで学級減を判断することなく、もう少し様子を見てほしい。
649	パフコメ	野辺地高校の1学級減によって、近い将来、統合につながることを心配している。2学級維持を強くお願いしたい。
650	パフコメ	<p>野辺地高校が1学級減となることは、地元の高校に行きたい、地元の高校にしか行けない生徒とその保護者にとって大変困る。また、進路選択の幅が狭まることに加え、親の経済的負担も増える。さらに、スーパーでの購買、飲食店の利用、衣料品、事務用品購買、交通（電車、バス）利用が減り、さらにはこれまで何十年も関係者が努力し人材を育ててきたスキー、ハンドボールなどのスポーツ資産、文化資産の衰退消滅につながり誠にもったいないことである。町全体の活気も消費も落ち込み町の将来に大きな影響がでることも予想される。野辺地町から他町村へ人が流出し過疎化に拍車がかかる。</p> <p>また、高校関係者及び在校生たちが常日頃から学業、部活動、教育の質向上などに向け頑張っている現状からすると、母校が縮小、統合されることは誠に忍びなく、卒業生にとっても心のよりどころが消滅するに等しい。</p> <p>このまま野辺地高校の学校規模を維持し、存続を望む。</p>

イ 統合に関する事項

No	区分	提出された意見等
651	上北	基本方針で学校規模の標準を4学級以上としているにもかかわらず、上北地区は小規模校が乱立している。各市町村の立場は分かるが、子どもたちの教育環境の充実から考えると小規模校には限界がある。今後も子どもたちの数が減り続けることを見据えた思い切った統合が必要である。

ウ その他

特になし

【六ヶ所高等学校の活性化推進に係る検討を求める要望書】

(令和3年7月29日付 六ヶ所村長)

青森県教育委員会は、平成29年7月20日付けで、「青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画」を公表し、社会環境の急速な変化や少子化による生徒数の更なる減少などへ対応するため、統廃合を含めた計画的な学校規模・配置の取組を進めてきたところでございます。同計画では、基本となる学校規模を1学年当たり4学級以上としていることから、統廃合の対象校になるであろう地域では高等学校の存続に対する不安や計画の見直しを求める声が高まっています。

六ヶ所高等学校は、むつ小川原開発計画の進展に伴い地域の中核を担う人材の確保と育成を図るための拠点として昭和53年に開校し、以来、40有余年の長きに渡り、地域の教育の向上と本村の持続的な発展に大きく貢献して参りました。また、この間本村では、スクールバスの運行や大学進学率向上を図るために多額の財政支援を行ってきたところであります。

第1期実施計画において、六ヶ所高等学校は、地域校として位置づけられたことにより地域と一体となった学校運営が求められていることから、地域社会の理解と魅力ある学校づくりを目指した教育環境の整備に取り組んできたところであり、地域における教育機関としての使命を十分に果たしているものと考えています。

一方では、多様化する社会環境や少子化などの影響により他地域と同様に一定規模の生徒数を確保するため、村外へのスクールバスの運行等を行っているものの、地域校としての存続すら危ぶまれる事が想像に難くない状況であり、生徒の進路選択と学ぶ場を狭めるだけでなく、地域社会への影響も懸念されるところです。

よって、六ヶ所高等学校設立の目的に鑑み、生徒の安定確保の観点から、以下に掲げる事項について取り組むよう要望します。

1. 六ヶ所村の特性を考慮した総合学科（エネルギー専門コース等の新設）への再編を検討すること。
2. 六ヶ所高等学校の活性化を推進するための具体策の検討を行うこと。
(募集定員70名と2学級編成の維持)

【六ヶ所高等学校の活性化推進に係る支援を求める意見書】

(令和3年7月29日付 六ヶ所村議会議長)

青森県教育委員会は、平成29年7月20日付けで、「青森県立高等学校教育改革推進計画（第1期実施計画）」を公表し、社会環境の急速な変化や少子化による生徒数の更なる減少などへ対応するため、適正な学校規模・配置の見直しと統廃合を含めた再編整備を進めてきたところでございます。同推進計画では、1学年の標準規模を4学級以上としていることから、統廃合の対象校になるであろう地域では高等学校の存続に対する不安や計画の見直しを求める声が高まっています。

六ヶ所高等学校は、むつ小川原開発計画の進展に伴い地域の中核を担う人材の確保と育成を図るための拠点として昭和53年に開校し、以来、40有余年の長きに渡り、地域の教育の向上と本村の持続的な発展に大きく貢献して参りました。また、この間本村では、スクールバスの運行や大学進学率向上を図るために多額の財政支援を行ってきたところであります。

第1期実施計画において、六ヶ所高等学校は、地域校として位置づけられたことにより地域と一体となった学校運営が求められていることから、地域社会の理解と魅力ある学校づくりを目指した教育環境の整備に取り組んできたところであり、地域における教育機関としての使命を十分に果たしているものと考えています。

一方では、多様化する社会環境や少子化などの影響により他地域と同様に一定規模の生徒数を確保するため、村外へのスクールバスの運行等を行っているものの、地域校としての存続すら危ぶまれる事が想像に難くない状況であり、生徒の進路選択と学ぶ場を狭めるだけでなく、地域社会への影響も懸念されるところです。

よって、六ヶ所高等学校設立の目途に鑑み、生徒の安定確保の観点から、以下に掲げる事項について取り組むよう要望します。

1. 六ヶ所村の特性を考慮した総合学科（エネルギー専門コース等の新設）への再編を検討すること。
2. 六ヶ所高等学校の活性化を推進するための具体策の検討を行うこと。
(募集定員70名と2学級編成の維持)

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

(5) 下北地区

ア 学校規模・配置

No	区分	提出された意見等
652	下北②	社会において高校生に求めるものは即戦力だと考えている。また、高校を選ぶ際の選択肢を幅広く用意することも大人の役割なのではないか。下北地区における学校規模・配置案を見ると、それらの意見が反映されているように見えない。
653	下北②	他地区と比べ選択肢が少ない下北地区の実情を踏まえ、計画を作ってほしい。
654	下北②	下北地区は半島という閉鎖的な地勢上、地区で完結できる教育体制が必要である。生徒数の減少は必然性があり仕方ない部分もあるが、そのことを見据え、辺境、小規模校等の存続を真剣に考えてほしい。
655	下北①	子どもの減少に合わせて、学級数を減らすのは安直に感じる。意見はきちんと反映されているのか。
656	下北②	田名部高校にはかつて衛生看護科も設置されていたが、現在は普通科のみとなっている。現状では、多くの介護士がいる中、看護師資格を持つの方が安定した収入を得られる状況にある。また、介護施設等でも看護師が不足している。時代のニーズに即した学科編成も必要だと思うので、その点も踏まえた検討をお願いしたい。 また、IT関係の産業は、コロナ禍でもかなりの収益を上げているようであり、そういった産業への人材育成についても、下北地区だからこそ必要である。労働力を担うという観点だけではないスペシャリストを育てていくという考えで学科の編成等をしてほしい。
657	下北②	今後30年、50年といった長期的視点に立った地区の学校配置について考えてみてはどうか。例えば、総合学科と工業科を併置するのであれば、普通科も併置できるかもしれない。1年次では基礎的な学習を行い、2年次からはそれぞれ専門性や進路に合った学習を行うことも可能なのではないかと。また、ICTの活用によるオンラインの教育活動にも期待が持てる。こうしたことは、子どもたちの将来の選択肢を増やし、可能性を広げることにつながるのではないかと。今の法律ではできないことも、必要であれば変えていけば良い。できないと言うのは簡単であり、在りたい姿や在るべき形があるのであれば、実現させる手立てがないか考えるべき。それが子どもたちの将来につながるのであれば、なおさらである。
658	下北②	下北地区は一次産業が多いのに水産高校や農業高校がないのはなぜか。
659	下北②	子どもたちが望まずに他地区の高校に通わなければならない状況は改善されないのか。
660	下北②	東青地区、三八地区、中南地区には、青森市、八戸市、弘前市があり、当該3地区の生徒は、30分以内の通学時間で高校を選択できるが、下北地区は、青森市、八戸市、弘前市まで2時間以上の通学時間となり、自分が希望する高校に進学することが難しい。そのような下北地区の高校を統合したり、閉校したりすることがないような施策を行ってほしい。
661	下北②	大湊高校とむつ工業高校の卒業生にとって母校がなくなることは寂しい。1つの校舎に2つの学校を併設し、学校行事や部活動については協力することはできないのか。
662	下北②	下北地区以外の高校に進学する子どもの割合が年々増加しているように見受けられる。子どもの流出は特に下北地区にはとても痛手であり、大人の意見だけでなく、子どもの意見にも耳を傾け、子どもが本当に必要とする環境を整えてほしい。
663	下北①	専門性を重視し、社会及び生徒の多様化へ対応が求められる。下北地区は高校と地域との連携は数多く実践されており、今後も継続し、様々な多様化への対応力を身につける環境があり、それを生かせる高校教育改革を望む。中学生の希望よりも地域の企業の要望に応じてほしい。
664	下北①	重点校ばかりが優遇され、職業高校や地域校がないがしろにされている印象を強く持つ。地域の歴史や県民感情を十分考慮しながら、将来ある若者が納得できるような改革を望む。

No	区分	提出された意見等
665	下北①	閉ざされた地域であり、地域全体の産業等の人材確保をどのように考えているか。地域内だけでの人材の確保は今でも難しい状況であり、この問題に対応した高校の在り方を考えていくような計画が必要でないか。
666	下北①	下北地区に特化した教育改革、地域の子どもたちが、自分の地域に進学できる高校教育、子どもたちの未来は、高校が終わりではなく、その先の未来のための教育であること、そのための改革が必要である。
667	下北②	下北半島を原子力半島として扱い、そこに住む人間を排除するかのような対応と感じる。地域の歴史と風土を把握しているのか。

イ 統合に関する事項

No	区分	提出された意見等
668	下北①	子どもたちの数が年々減っていく中、将来的な下北地区の学校配置をどのようにしていくのか、中長期的なビジョンを示してほしい。このままでは統合校を廃止する形にしか見えない。
669	下北①	長期的に考えれば田名部高校、大湊高校、むつ工業高校の3校を統合し、その中において子どもたちの選択肢を増やすことが将来につながる。
670	下北②	私立高校がなく、青森市、弘前市、八戸市への通学に2時間以上かかるという、下北地区の地域性をもっと考えてほしい。地区の中での選択肢を残してほしい。
671	下北②	都市部を中心に高校が集約されており、周辺の町村から通学する生徒の家庭の経済負担が増加することになる。大間高校についても全国からの生徒募集の候補校としているが、現状を考慮すると入学者の増加を見込むことができないことから、むつ市内に学生寮を設置していくことも必要ではないか。いずれ大間高校も廃止されることが考えられるため、むつ市内に田名部高校と、むつ工業高校・大湊高校・大間高校の統合校の2校を配置してはどうか。
672	下北①	高校の選択肢が今でさえ少ない中で、統合により更に選択肢が少なくなるのではないか。
673	下北①	統合ありきで話が進んでいると感じざるを得ない。地域の声をしっかりと聞いて、未来ある子どもたちのために、もっと考えてほしい。現状の高校を生かす案で考えてほしい。中期・長期ビジョンを持って考えてほしい。
674	下北②	統合により地区内の進路の選択肢が限定されることとなる。進学率が99%という現状からすれば、地域外への進学を余儀なくされ負担が極めて大きい。また、下北地区内の4高校と青森大学が協定を結び、地区の教育環境の向上を目指しているところである。これらを勘案すれば、選択肢が限定される統合には反対である。
675	下北②	県内の工業高校で学科を減らされるのはむつ工業高校だけであり、狙い撃ちされたような気がする。むつ工業高校は下北地区唯一の工業高校であり、下北地区の子どもたちの将来のために予算をかけてほしい。
676	パブコメ	下北地区の統合に対して、「単なる数合わせ」という意見があるが、子どもたちが減ってきているのだから学校・学級数を調整していかなければならないし、その中で学級減ではなく、統合という形を選んだのが今の計画(案)だと思う。それは「単なる数合わせ」ではなく、子どもたちの教育の場、環境を確保するために、一番良い方法は何かという考えに基づいているのだと思う。議論すべきは統合後の学校をより良くしていくにはどうすべきかだと思う。
677	下北①	中学校卒業生数の減少は理解できる。学科を減ずることも一つの考えであるということも分かるが、1学級の定員を35名に統一することもありではないか。工業高校の人財育成は地域企業からの期待は大きく、製造業や建設業では技能よりも核となる人財として求められている。3学級は最低でも維持すべき。
678	下北②	下北地区統合校について、多様な学びのためには、多くの専門性を持つ教員、指導員の配置が必要である。従来の学級数や生徒数に対する標準的な教員等の割当てでは、多様なニーズに応えることや、きめ細かな教育を行うことは難しい。そのため、人口の少ない地域に対しては、県独自の手厚い教員配置や教育環境の充実が必要である。全国標準の配置では、青森県の教育は疲弊していく。ぜひ、青森県の実状に合わせた豊かな教育を考え作る機会にしてほしい。

No	区分	提出された意見等
679	パブコメ	下北地区統合校の統合後の教育環境等について要望したい。 1点目として、学級数にかかわらず、総合学科の生徒の実態に即した系列を提供できる科目設定・教員配置を実現してもらいたい。 2点目として、工業系の学科数にかかわらず、資格取得のための選択科目を確保することができる科目設定・教員配置を実現してもらいたい。 3点目として、現むつ工業高校の校地を有効に活用し、校舎・体育館・野球場・グラウンド・テニスコート等、過不足や無駄のない学校施設を実現してもらいたい。
680	下北①	教育活動の充実への方策、今後の見通しとも明確で理解できた。特に教育活動の充実、少なくとも維持に、規模の確保は必要である。
681	下北①	今後10年で職業、職種が大きく変化していくと予想される。今日の地区懇談会では過去を重視した意見が多かった。統合校に通う生徒にとって魅力ある高校教育を望みたい。今の大湊高校、むつ工業高校の学びは今の生徒、かつ10年後の生徒に対応しているのかと思う。
682	下北①	今後の教育についての魅力が全く感じられない。キレイな言葉を並べただけの中身、具体性、実現性が無いものにしか思えない。
683	下北②	下北地区統合校の「魅力ある高校」「キャリア教育の充実」のビジョンが見えない。
684	下北①	試験の合格や資格取得などにとらわれず、より本質的な教育に力を入れてほしい。
685	下北①	むつ工業高校の学科、大湊高校の系列の特色を生かした統合が進められるとのことだったが、それを裏付ける人的配置が担保されるのか心配である。
686	下北②	統合が決まるとたんに生徒数が激減し、教員数が減らされ、教育活動が難しくなる。そのようなことがないように望む。
687	下北②	統合する場合であっても、学科の異なる2校は同一校舎ではなく、現在の校舎を活用し教科ごとに移動するカリキュラムを行なうべき。むつ工業高校近辺は通学利便性が高い場所ではないため、スクールバスにより対応し2校の校舎を利用することが有効だと思う。新校舎の建設は不要投資である。
688	パブコメ	下北地区意見交換会で出されたシミュレーションの中でも、大湊高校とむつ工業高校を統合することとした計画(案)に賛成である。 統合については、子どもたちが魅力を感じ、教育を受けたいと強く思える高校であれば、意義がある。 また、校舎を新設し最新の設備を整備するなど、生徒が入学したいと思える教育環境を整えることができれば、高校の活性化が期待できる。
689	パブコメ	大湊高校とむつ工業高校の統合案における建設的な要素に賛成である。 理由の1点目として、定員割れが続き、小・中学生の数が減っていく中、どのような歴史を持った学校でも、単独校として存続していくことは困難である。これは、県内の他地区でも実証済みである。 2点目として、学校の名前にこだわらず、在籍生徒や高校を目指す小・中学生にとって、教育内容や体制、環境が整っていること、学習機会の確保、進路希望の保証の方が重要である。
690	下北②	工業科と総合学科の統合については、課題が多い。
691	下北①	統合校については学科を分けず、1年次は共通の科目を勉強しながら、2年次から学科を自分で選択・変更できるという形とすれば効果が増すのではないかと。現状では、同じ校舎の中でそれぞれの学びたいことを学ばせるとしか見えていない。
692	下北①	統合校の総合学科を3学級にするということは、系列を3系列に減らすという意味か。第2期実施計画(案)では総合学科の充実を謳っているが、何をもって充実なのか具体的にお知らせ願いたい。今以上に良くなるという意味で充実という言葉遣いをしているのであればそれは詭弁であり、系列を維持していくだけではないか。
693	下北②	下北地区統合校の総合学科について、4学級を3学級にしても、4系列は残すという説明だったが、大事なのは系列数ではなく科目数である。3学級になっても、現科目数が継続的に保証されるのか。現在の4学級の定数と加配を含めた教員数、開設科目数、そして想定される3学級4系列の教員数、開設科目数に関して実数を教えてほしい。

No	区分	提出された意見等
694	下北②	<p>下北地区統合校において、電気科と設備・エネルギー科を統合し、電気・エネルギー科とする案が出されているが、その場合の教員数はどうなるか。あくまでも1学科相当の人数になるのか、それとも、2つの学科を統合することから、2学科相当の人数になるのか。電気系の教員数が削減された場合、第3種電気主任技術者の試験が免除となる認定校に認定されるための座学と実習をやり遂げるのは無理であり、認定校は確実に除外されることとなるだろう。現教員数をそのまま配置するなら別だが、2年次から類型に分かれたとしても学習内容を担保できない。</p> <p>むつ工業高校の電気科では、卒業までに全員に電気工事士の資格を取らせようとして取り組んでいるが、学科改編により厳しくなる。類型の設置により何とかなるという問題ではなく、この点を工業高校の実態を知る人たちがもっと検討してほしい。</p>
695	下北①	<p>7月に開催された教育委員会会議では、他県の事例を参考に、工業科と総合学科を併設するメリットを説明しているが、他県の事例が、具体的にどの県のどの高校で、どのようなメリットやデメリットがあったのかについて、具体的に検証する必要がある。</p> <p>他県でうまくいっている事例が下北地区でも通用する、というのは非常に論理の飛躍がある。成否が必ずしも保証されたものではない複数学科を統合した統合校に、果たして保護者の方々が喜んで積極的に生徒を送り込もうと思われるかどうかについては非常に懸念がある。</p>
696	下北②	<p>計画（案）の学科構成だと人材不足が心配である。総合学科をやめて商業科、情報科、福祉科の設置により人材育成を図ってはどうか。何ができるのか分からない、決まっていない高校には魅力を感じない。</p>
697	下北①	<p>異なる学科の科目履修が可能かどうか、電気主任技術者制度の認定が叶うかどうかなど、学校の根幹に関わることについて、詳細を開設準備委員会、開設準備室で決めていくことは理解しているが、最終的な根幹に関してはこの場で定まっていなければならないことが多々あるのではないかと、</p>
698	下北①	<p>国が再生可能エネルギーを増やしていこうとしている中、なぜ機械科と電気・エネルギー科の2学科とし、技術者を減らそうとするのか。再生可能エネルギー等のメンテナンスに係る人材不足も生じてきているため、そういった人材を減らさないでほしい。もう一度この学科構成を考えてほしい。</p>
699	下北①	<p>学ぶ内容もだが、進路指導についても、むつ工業高校と大湊高校では指導方法が異なる。工業科と総合学科を併設しても、同じ建物の中で全く別々のことをすることになるのではないかと。</p>
700	下北②	<p>他県の事例を参考に工業科と総合学科の統合案としているようだが、静岡県立伊豆総合高校の2021年度の倍率は工業科80人→60人（0.75倍）、総合学科120人→74人（0.62倍）と定員割れしている現状を分析して参考にしているのか。下北地区統合校も結局定員割れして閉校に向かうのではないかと。</p>
701	下北②	<p>子どもたちのためと言うのなら、行政の都合を押し付けるべきではない。選択肢は消すべきではない。地域の切り捨てと同義である。</p>
702	下北①	<p>現在の計画（案）では人口減少や学力向上、高校の魅力化、人材育成にはつながらない。これは地域の衰退につながるものであり、地域の発展につながる内容にしなければならない。進学は田名部高校に任せて、統合校は就職できる高校としてほしい。（むつ工業：機械・電気、大湊：情報・商業・福祉、校名：むつ実業高校）</p>
703	下北①	<p>地域の産業の特色をもっと考えてほしい。下北地区は、再生可能エネルギー、原子力関連産業が多く工業高校の学科減は到底理解できない。再検討を願う。</p>
704	下北②	<p>下北地区には、大湊高校もむつ工業高校も両方必要である。</p>
705	下北①	<p>海上自衛隊大湊地方総監部が存在し、多くの卒業生を自衛隊に送ってきた歴史を重く考えるべき。</p>
706	下北①	<p>機械科、電気科、設備・エネルギー科のいずれも、むつ工業高校に必要な学科である。</p>
707	下北①	<p>むつ工業高校、大湊高校が実際にどのようなカリキュラムで学習しているか、多くの方々に周知する必要がある。特に、大湊高校でどのようなことを学んでいるのか、ほとんどの市民は理解していないのではないかと。普通科という認識しかないのではないかと。</p>

No	区分	提出された意見等
708	下北①	それぞれの高校について、これまでの歴史を創立時から振り返ることが必要であり、誘致、創設への思いを教員も学ぶことが必要。
709	パブコメ	<p>現在、大湊高校には脇野沢地域などの下北各地から一時間以上かけて、子どもたちが通学している。それは大湊高校川内校舎の閉校、田名部高校大畑校舎の閉校が原因である。また、閉校に伴いバス代等家庭に影響が出ていることを分かっているか。</p> <p>1時間以上通学に時間を要する生徒は、部活動後に勉強を終えると寝るのは日を跨いでしまう。</p> <p>大間高校等のように、地域の特性上無くしてはならない学校は必ずある。これ以上下北管内の学校を閉校すると、家庭への影響だけではなく、子どもたちの選択肢が無くなってしまう。県教育委員会に子どもたちの未来を奪う権利があるのか。</p> <p>青森市長やむつ市長が抗議をしているように、今回の統合案はあまりにも強引で暴力的である。</p> <p>なお、下北地区において、2回懇談会を行うとのことだが、2回で話がまとまるとは思えない。</p>
710	下北①	生徒数が減少しているのは分かるが、広いむつ市において市の中心に高校が配置された場合、通学が不便になる地域があるので、現在の3校の配置のままにしてほしい。
711	下北①	仮に大湊高校とむつ工業高校を統合するとして、通学が便利だからという理由でむつ工業高校の校地とするのはいかがと考える。
712	パブコメ	<p>なぜ、統合しなければならないか理由が明確でないため、大湊高校とむつ工業高校を統合する計画（案）に反対である。</p> <p>その問題点の1点目として、報道において「生徒数だけが統合の理由ではない」との県教育長の発言を拝見したが、計画（案）からは「1学年4学級の学校規模の標準を維持したい」以上の理由を読み取ることができない。小規模校には、学習や進路指導等において、生徒一人一人にきめ細かい対応ができるというメリットがあると考えるが、そのことについての検討結果も示されておらず、成案とするには根拠が不十分である。</p> <p>2点目として、統合することにより、地域の多様性を失われることにつながる。</p> <p>下北地区は、県内6地区の中で最も高校数が少ない地区である。また、唯一、私立高校がない地区でもある。したがって、計画（案）における統合は、生徒の進学の選択肢を奪うものであると同時に、地域における多様性を失われることにつながるものである。計画（案）では、それをカバーし得るだけの統合のメリットが示されていない。</p> <p>3点目として、生徒の通学が不利となる。</p> <p>基本方針においては、地域校に対し考慮する通学困難な状況について、「公共交通機関の利用時間が片道1時間を超えるかどうか」とされている。今回の統合案により、むつ市川内地域・脇野沢地域からの通学が不利になるだけでなく、下北地区の生徒が他地区の高校へ通学せざるを得ない状況が今まで以上に生じる恐れがある。通学時間の長時間化に加え、公共交通機関の便数にも限りがあるため、生徒に対し身体的にも精神的にも負担を強いることになるが、計画（案）では、その地域的な特異性が十分に考慮されているとは言えない。</p> <p>4点目として、他校とのバランスが取れておらず不公平である。</p> <p>統合する計画（案）の真意が学級数の維持ならば、上北地区の三沢商業高校や百石高校も1学年3学級であることから、それらも周辺の高校と統合されてしかるべき。仮に三沢商業高校や百石高校の継続配置の理由が、「学科の専門性の高さ」なのであれば、下北地区唯一の工業高校であるむつ工業高校も、現行のまま配置されるべき。むしろ百石高校は食物調理科が1学級、普通科が2学級であり、他校と比較し専門性が高いとは言い難い。したがって、単に「生徒数・学級数」で統廃合を判断しているのであれば、大湊高校とむつ工業高校の統合に合わせ、これらの高校も統廃合されるべきであり、「学科の専門性」で統廃合を判断しているのであれば、むつ工業高校は継続配置されるべき。</p> <p>8月2日の地区懇談会においては、「大湊高校とむつ工業高校を統合することで系列を越えた履修が可能になる」ことが統合のメリットとされていたが、そのことは下北地区に限らず全ての高校に当てはまることであり、そのことを理由に統合することは公平感に欠ける。</p>

No	区分	提出された意見等
713	パブコメ	<p>大湊高校とむつ工業高校の統合について反対である。 理由の1点目として、総合学科と工業学科が統合して何がメリットであるか、全く説明がない。</p> <p>2点目として、工業学科における授業等の教育活動自体が中途半端である。私はむつ工業高校の卒業生であるが、卒業後、再度勉強した。</p> <p>3点目として、大湊高校の今年度の進学率を見ると大湊高校生に全くメリットがない。</p> <p>4点目として、西通り地域（九艘泊、脇野沢、川内）の保護者や生徒の通学費等の負担を考えているか。下北地区に4校が最低限必要である。</p> <p>5点目として、田名部高校の募集人員を減らしてでも、大湊高校を存続させた方が下北地区の保護者の負担が少なくなることに加え、地域にとってもメリットがある。</p> <p>6点目として、むつ工業高校を閉校して黒石高校と同じく看護学科を新設した方が、下北地区にメリットがある。（昔、田名部高校に看護学科あり。）</p> <p>7点目として、人は誰でも、教育を受ける権利がある。</p>
714	下北②	大湊高校とむつ工業高校の統合については反対である。意見を述べない参加者が賛成ということではなく、賛成の声はないと思う。
715	下北②	統合案については白紙撤回を求める。
716	パブコメ	大湊高校においては、「下北から甲子園」を目標に野球部が活発に活動してるが、下北地区統合校でも野球部の設置について検討しているか。
717	パブコメ	<p>大湊高校は平成10年頃に入試の倍率が下がってきた際、生徒の希望進路達成を中心とした魅力ある学校づくりを念頭に総合学科への学科改編に取り組み、伝統ある制服も変えた歴史がある。今、大湊高校の定員割れが続く中、新たな手を考えることは必須ではないだろうか。その一つの選択肢として、統合案が出ていることに違和感はない。子どもたちの教育や将来の保障にどのように取り組むかについて、様々な建設的な意見を持ち寄ることが大事ではないだろうか。</p> <p>また、新校舎という利点もある。現むつ工業高校の位置に高校が移ることで、通学の便が良くなり、保護者の送り迎えや通学費の削減につながる。なお、大湊高校の現状として、大湊中学校より西側学区からの通学は17%しかない。</p> <p>さらに、移転に伴い、野球場を整備することで活動場所の確保は可能である。近くに整備された運動公園もあり、陸上部等の活動が活性化する。</p>
718	下北①	統合した場合の部活動の考え方について、詳細が分からない。
719	下北②	来年度高校に入学する子どもたちは15歳だが、人口の動向は把握が可能であり、15年後の人口減少は判明している。中学校野球部の現状だが、新人戦となればチームを組めなくなる状態である。部活動全体について同様の傾向が続いているのではないかと思う。大湊高校とむつ工業高校の統合案に至ったのは、小規模校と大規模校の中で育つ子どもたちのメリットとデメリットを考えた上でのことと思う。
720	下北②	生徒が統合して良かったと思える環境作りを考え、計画を進めてもらいたい。今までにない新しい下北地区の教育が展開されることを期待している。統合した場合、部活動にも期待がかかると思うが、グラウンドなどはむつ工業高校の校地では狭いように思う。その点をしっかり考えれば、良い統合になると思う。
721	下北②	遠い将来、更に子どもの数が減少することが分かっているので、10年計画ではなく、別の案を考え直しても良い。統合が避けられないならば統合校にかかる予算を別の統合策に使ってほしい。
722	下北②	児童・生徒の減少は、少子化が注目され始めた約30年前から予想されていたことであり、下北地区では2015年に田名部高校大畑校舎が、2021年に大湊高校川内校舎が相次いで閉校している。更に大湊高校を統合して閉校するというのであれば生徒数の減イコール閉校というシナリオありきで、30年間何もしてこなかったことが表面化した結果である。
723	下北①	大湊高校の校舎は、まだ使用可能であり、5学級規模であれば十分に受け入れることができる状況であるにもかかわらず、むつ工業高校の校地に統合校を新設するというのは、どういうコスト計算をしているのか。建築年が新しい学校、学校規模が大きい学校を使用したらどうか。
724	パブコメ	大湊高校とむつ工業高校を統合し、むつ工業高校の敷地内に新しい校舎を整備する場合、現校舎の活用の予定はあるのか。

No	区分	提出された意見等
725	下北①	統合を行わず、むつ工業高校と大湊高校を残した場合に係る費用はどの程度なのか。残す場合に係る費用について、国や県の補助金を充てることができるのか。アイデアはたくさんあると思うので、マイナスの議論ではなくプラスの議論をすることも必要かと思う。
726	下北②	第1期実施計画策定時の地区意見交換会では、「学級数が減ったとしても、学校の維持費は莫大にかかるので、統合を視野に入れてこの先検討していかなければならない」と説明があったことを記憶しているが、学校の維持費に関する説明がないまま、大湊高校とむつ工業高校の統合に至ったと捉えている。
727	下北②	統合案について、コスト、人員配置など具体的な数字を示すことができていない。
728	下北②	この統合案を柱にして議論を進めなければ何も決まらない。子どもたちが置き去りにされることとなる。
729	パブコメ	地区懇談会で地域住民の不安を解消できなかったのは、先の見通しがあまりに欠如しているからだと考える。現状、決まっていることは「大湊高校とむつ工業高校を統合する」ということだけで、教育課程も、教員数も、校舎のスペックも、教育そのものに関する具体的な事項は全てが未定とのことであった。統合案の柱である「系列を越えた履修（工業科の生徒が総合学科の科目を履修する）」ですら、「そういうことができれば良い」程度の、事務局側のアイデアの域を出ないものであった。統合するという外枠だけ先に決められ、本質である教育内容等を検討課題にされてしまうことによって、「検討した結果、あれもこれも難しい」として、将来的に統合だけが進められ地域における教育の質を下げられてしまうことを懸念している。また、当日地区懇談会に出席した皆さんが抱えている不安でもあったと感じた。新校舎の建設コストも不明ということであり、県庁全体として予算の裏付けもない以上、教員数が削減される、新校舎のスペックが低いものになる、第三種電気主任技術者の認定校から除外される等、地域における教育の質が確保される保証はどこにもない。 統廃合を決めてからビジョンを描くのではなく、ビジョンがあってその結果の統廃合であるべきであり、そのビジョンが上記のように曖昧なまま、統廃合はなされるべきではない。
730	下北①	下北のことについては、むしろこれから検討していくような状態だと感じた。子どもの将来が希望に満ちたものであることを望む。
731	下北①	今はリモートシステムが充実してきたので、教職員が足りないのであれば、共通科目でリモート授業を行うなど、もっと住民に寄り添った考え方を望む。
732	下北①	統合するにしても工夫を凝らさなければいけないと思うので一緒に考えていきたい。
733	下北①	統合するのか、それともしないで現状のままが良いのか、生徒にとって「ためになるのか、ならないのか」、そこにフォーカスして語り、判断するべきではないか。コストも地域への説明も大事だが、本質は15才～18才の生徒のためになるのか考えることではないか。
734	下北②	開設準備室における学科編成等の検討は、ゼロベースで行われるのか。

ウ その他

No	区分	提出された意見等
735	下北①	教育は百年の計にして、ここ下北半島、むつ市の興隆は人材の養成にある。今回の計画（案）をもう一度見直してもらい、下北半島、むつ市が教育の過疎化にならない、子どもたちの将来ビジョンが脅かされない、教育難民が出ないような形の青森県の教育、下北半島の教育を考えてほしい。
736	下北②	米百俵の精神、教育への投資こそ国づくりにとって最も重要な投資である。私たちは下北地区の子どもたちの将来、未来に責任を持たなければならない。 心にコスモスを持つ者は、世界のどこの辺縁、僻地においても、常に一地方の存在から脱する。しかし、心にコスモスを持たない者は、どんな文化の中心においても、常に一地方の存在としか存在しない。下北地区の子どもたちの将来、未来のために教育委員の皆さんを説得してほしい。
737	下北①	中高一貫教育はその後どうなったのか。子どもの数の減少は、高校段階で減少するのではなく、小・中学校の段階から減少しているものである。その点を考えると、数字だけに囚われず、豊かさをまず念頭に入れて、この下北半島、むつ市を考えてほしい。

【青森県立大間高等学校存続について】

(令和3年7月30日付 大間町長 外8名)

青森県立大間高等学校は、昭和50年に地域住民の熱い願いと関係各位の悲願のもと設立された北通り地域唯一の高等学校であり、高校教育の充実、発展に寄与されてきました。

近年、当地域においても少子化が進んでいる中で、高等学校への進学率は高いものの、大間高等学校への入学者数は減少しているところであります。

また、当地域は公共交通の利便性が悪いため、近隣のむつ市には県立高等学校が3校あるものの通学には厳しい環境にあります。

つきましては、青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画において、以下の事項につきまして当地域の実情を勘案していただき、大間高等学校存続のため特段の御配慮をお願い申し上げます。

記

1. 地域校に課される2学級維持の基準及び募集停止となる、入学者数の緩和及び地域生徒数に応じた柔軟な対応について、特段のご配慮をお願いいたします。
2. 入学者を増やす取り組みとして
 - ①新しい学科の創設又は各種資格取得が可能な授業の充実。
 - ②地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業の展開。

【青森県立大湊高等学校及び青森県立むつ工業高等学校を対象とした統合校案の白紙撤回と再考を求める意見書】

(令和3年8月27日付 むつ市議会議長)

青森県では、県立高校教育改革の推進にあたり、県の有識者で構成する青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針検証会議からの報告等を踏まえ、将来、高等教育を受けることとなる子どもたちのための教育環境の整備や地域の実情について検討し、県立高校の再編や全国からの生徒募集の導入等について取りまとめた、「青森県立高等学校教育改革推進計画(案)」を、令和3年7月7日に公表した。

この実施計画によると、下北地域においては中学校卒業生数の見込みが、令和5年度から9年度の間114人減少し、将来、高等教育を受けることとなる子供たちの教育環境について、4つの学校配置シミュレーションを提示、検討した結果、大湊高校とむつ工業高校を統合対象校とし、総合学科3学級と工業科2学級の「下北地区統合校」として、令和9年度にむつ工業高校の校地に新たに整備するとの計画である。

この計画の公表に向けては、下北地域において3度の地区意見交換会を開催し、その意見を参考に検討したとのことだが、最終的に、今回の統合案に至った経緯について全く説明がなく、また、地区意見交換会から4か月にも満たないあまりにも短い期間で公表となったことについては、そのプロセスに疑問を抱かざるを得ないものである。

大湊高校は、昭和23年に開校し、現在は、進学から就職まで選択の幅が大きい総合学科の学校となり、また、下北から甲子園を目指している野球部やオリンピック選手を輩出した陸上部など、部活動も盛んである。昭和62年には脇野沢分校、令和2年には川内校舎と統合し、眼下に美しい芦崎湾を望む日本一景色のいい環境で、地域に愛され、特色のある有意義な教育活動を展開している。

また、むつ工業高校は昭和39年の開校以来、下北半島の産業経済の振興と発展と共に地元出身の技術者の育成を目的に歩んできた歴史がある。霊峰清き恐山、波静かなるむつの湾、そして釜臥山を望む環境のもと、文武両道に励み、郷土を愛する人間性豊かな多くの卒業生が当市の経済を支えているといっても過言ではない。

ここ下北地域においては、地域が学校を支え学校にも支えられて共に歩みを進め、各学校においても、それぞれが特色を出しながら地域の応援を得て成長してきた歴史がある。

今回、この歴史ある2校の統合案については、地域が望む子供たちの成長の姿とあるべき高校の姿、また、学校とまちづくりの姿が全く見えておらず、学校の歴史や実績を軽視したものであり、地域での議論や検討なくして決定されるべきものではない。

また、この度の「令和3年8月9日むつ市・風間浦村豪雨災害」は下北地域に甚大な被害を及ぼし、被災の状況を考えると話し合いの場を持つことすら困難な状況である。

よって、私たちは今回公表された「青森県立高等学校教育改革推進計画(案)」の「下北地区の学校規模・配置」における、大湊高校とむつ工業高校を統合対象校とする案の白紙撤回を求め、今後、下北地域の子どもたちの将来のビジョンと共に、歴史ある両校の存続と未来ある教育環境の変革について、地域合意を十分に尊重して進めるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

【青森県立大湊高等学校及び青森県立むつ工業高等学校を対象とした統合校案の白紙撤回と再考を求める意見書】

(令和3年8月27日付 東通村議会議長)

青森県では、県立高校教育改革の推進にあたり、県の有識者で構成する青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針検証会議からの報告等を踏まえ、将来、高等教育を受けることとなる子どもたちのための教育環境の整備や地域の実情について検討し、県立高校の再編や全国からの生徒募集等について取りまとめた、「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)」を、令和3年7月7日に公表した。

この実施計画によると、下北地域においては中学校卒業生数の見込みが、令和5年度から9年度の間には114人減少することから、将来、高等学校を受けることとなる子供たちの教育環境について、4つの学校配置シミュレーションを提示、検討した結果、大湊高等学校とむつ工業高等学校を統合対象校とし、総合学科3学級と工業科2学級の下北地区統合校として、令和9年度にむつ工業高等学校の校地に新たに整備するとの計画である。

この計画の公表に向けては、下北地域において3度の地区意見交換会を開催し、その意見を参考に検討したとのことだが、最終的に今回の統合案に至った経緯について全く説明がなく、また、地区意見交換会から4カ月にも満たない、あまりにも短期間で公表となったことについては、そのプロセスに疑念を抱かざるを得ないものである。

大湊高校は、昭和23年に開校し、現在は、進学から就職まで選択の幅が広い総合学科の高校となった。中でも部活動においては、野球部が県内では上位の実力校となり、陸上部においてはオリンピック選手を輩出するなど、輝かしい実績と伝統を誇っている。

また、むつ工業高校は昭和39年の開校以来、下北の産業経済の振興と発展とともに、技術者の育成を目的に歩んできた歴史があり、文武両道に励み、郷土を愛する人間性豊かな、多くの卒業生を送り出し、多岐にわたり活躍している。

今回、この歴史ある2校の統合案については、地域が望む子供たちの成長の姿と、あるべき高等学校の姿並びに高等学校の歴史や実績を軽視したものであり、地域での議論や検討なくして決定されるべきものではないと考える。

また、この度の「令和3年8月9日むつ市・風間浦村豪雨災害」は下北地域に甚大な被害を及ぼし、被災の状況を考えると話し合いの場を持つことすら困難な状況である。

よって、東通村議会は、今回公表された「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)」の「下北地区の学校規模・配置」における、大湊高校とむつ工業高校を統合対象校とする案の白紙撤回を求めるものであり、歴史ある両高校の存続及び教育環境の変革について、地域合意を十分に尊重して進めるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

(6) 三八地区

ア 学校規模・配置

No	区分	提出された意見等
738	三八	今回の説明を聞き、これまでの地区意見交換会の意見が反映されている計画(案)であるという印象を受けた。

イ 統合に関する事項

特になし

ウ その他

特になし

【三戸郡内に青森県立高等学校2校の存続を求める要望書】

(令和2年11月11日付 三戸郡町村会会長 外8名)

青森県教育委員会では、今年度、青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画の策定に向けて、県内各地区において懇談会や意見交換会を開催しているところではありますが、三戸郡内では、県立三戸高等学校商業科が平成26年3月に閉科されたほか、県立南部工業高等学校が平成27年3月に閉校され、さらに第1期実施計画に基づき、県立五戸高等学校及び県立田子高等学校が、来年度末をもって閉校することが決まっております。我々、三戸郡内町村においては、これ以上、郡内から学びの場が奪われてしまうことに、強い危機感を抱いているところでもあります。

三八圏域全体の教育環境と地域の活力を守るため、関係団体が一体となり、オール三戸郡として、以下の事項を要望いたします。

1. 地域や行政と連携した活動を通じて強い絆で結ばれ、地域にとってなくてはならない存在として住民が望む県立三戸高等学校及び県立名久井農業高等学校2校の存続を求めます。
2. これまで以上に知事部局と教育委員会部局とが連携強化を図り、知事部局が進めている地域振興、人口減少対策の視点を青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画に反映し、その施策と整合させることを求めます。
併せて、地元卒業生に就職先として選ばれる、魅力あふれる地域産業の成長・創出を求めます。
3. 過疎地域等における教育機会を確保するため、40人4学級とする基本的な学校規模を見直すとともに、Withコロナ、アフターコロナを見据えて学級編制の弾力化を進め、青森県ならではのさらなる少人数学級の導入と、教員定数の加配による高等学校教育の魅力化を図ることを求めます。
4. 郡内それぞれの地域から通学しやすい交通体制の整備を求めるとともに、募集停止や閉校に伴い、負担を強いられることとなった保護者の経済的負担を軽減するため、通学費や下宿費の補助制度の創設を求めます。

【青森県立三戸高等学校の存続を求める要望書】

(令和2年11月11日付 青森県立三戸高等学校と地域の未来を創る会会長)

青森県立三戸高等学校は、今年度創立93年目を迎える伝統校であり、大正8年に設立された三戸町立女子実業補修学校を前身とし、昭和2年4月、三戸町立実科高等女学校として閉校して以来、「教育の町三戸」を支える高等学校として地域の愛情と期待を受け多くの卒業生を輩出しております。

これまで、三戸高等学校は、さんのへ秋まつりへの山車組参加や、地域における各種ボランティア活動の積極的取組、平成26年閉科となった同校商業科の特色を活かしたビジネス・マネジメントコース生徒による町内出店実習など、様々な場面を通じ地域の歴史、文化、伝統に触れることができる、生徒にとって未来を逞しく生きる教育と体験の場として欠かせない存在となっております。

このほか、平成25年1月三戸町内の小中学校と同校との連携協定以来、高校生による小学生への学習支援や、中学校立志科授業における高校生からの発表・交流の場づくりなど、学力の向上や郷土に誇りを持つ児童・生徒の育成など成果を挙げております。

同校では、令和3年度以降、新たに文理探究コース・みらい探究コースを設置し、独自の授業を通じて、生徒一人ひとりの夢の実現を目指すとしており、町といたしましても、地域の未来を創る貴重な人材を育成するため、資格取得費用の支援を継続してまいりたいと考えております。

現在まで、三戸高等学校の卒業生の多くは、国公立大学への進学や三八地域の企業への就職など、地域の重要な担い手としてご活躍されているところであり、同校の存続は、地域づくりの面からも地域の将来に関わる重要な課題と認識をしております。

私どもは、このような将来につながる地域の課題を共有し解決するため、「青森県立三戸高等学校と地域の未来を創る会」を立ち上げ、町内外から11,473名のご署名を頂きました。同校は、町制施行131周年を迎える当町の教育、歴史、文化、伝統の発展継承に寄与するとともに、三八地域の発展に幅広く貢献しております。今後、三戸高等学校の特色化を活かし明るい未来に向かい存続できることを強く求め署名を提出いたします。

なお、同校では校内に「学校魅力化推進委員会」を設置しており、三戸町職員が参画し魅力化向上への協議を進めております。同委員会において事業が具体化した際には、町からの更なる支援等を検討しているものであることを申し添えます。

【青森県立名久井農業高等学校の存続を求める要望書】

(令和2年11月11日付 青森県立名久井農業高等学校を応援する会会長)

青森県立名久井農業高等学校は、昭和19年に創立してから76年の長きにわたり地域に根差した高等学校として多くの卒業生を送り出しています。

古くは、昭和34年の農ク全国大会女子発表の部における東北初の全国優勝や昭和49年の全国高校駅伝大会への初出場、昭和52年の県高校アーチェリー競技男子団体初優勝、東北高校駅伝大会初優勝、平成元年の青森県高校男子駅伝競走大会9年連続14回目の優勝などの快挙に加え、近年では、全国学芸サイエンスコンクールでの総理大臣賞受賞や水のノーベル賞ともいわれるストックホルム青少年水大賞のジュニア版で最高賞のグランプリ受賞など、数々の受賞歴を誇ります。

また、農業支援や環境美化活動など、地域活動にも大きく力を入れているほか、授業の一環として行われている苗や野菜、果物、生花の販売などは、地域住民にも親しまれており、地域になくてはならない高等学校です。

卒業生は、農業経営者としてはもちろんのこと、他の分野においても地域の中心となって活躍されており、地域と共に育ち、地域を育てる高等学校でもあります。その学び舎では現在も在校生たちが、諸先輩の築き上げてきた輝かしい歴史と伝統を継承し、更なる発展に向けて精進を重ねております。

私どもは、「青森県立名久井農業高等学校を応援する会」を立ち上げ、名久井農業高等学校を町内外にPRするとともに署名活動を実施してきたところではありますが、同校が将来にわたり、三八地域の産業振興と地域の発展に貢献し続けていくことを願い、お寄せいただいた12,059人分の思いを添えて、当町に存続していくことを、強く求めます。

また、単に要望するばかりではなく、生徒の全国募集にあたり必要となる学生寮の増室・整備の費用につきましては、南部町としても町独自の支援を考えておりますことを申し添えます。